公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書　第 325 集

柏原市

大県郡条里遺跡 9

寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023 年 8 月

公益財団法人　大阪府文化財センター

公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書　第 325 集

柏原市

大県郡条里遺跡９

寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023 年 8 月

公益財団法人　大阪府文化財センター

公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書　第 325 集

柏原市

大県郡条里遺跡 9

寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

公益財団法人　大阪府文化財センター

３・４号墓と生駒山　（西から）

３・４号墓　（南から）

序　　文

柏原市に所在する大県郡条里遺跡は、河内平野南東部に立地する遺跡です。東に生駒山地を間近に望むこの地域には、山地西麓から平野部にかけて、数多くの遺跡が展開しており、文化財に恵まれた地域といえます。

大県郡条里遺跡は、これまで公益財団法人大阪府文化財センターが、寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴い、平成23年度より継続して調査を行なっています。これまでに、縄紋時代から中世にいたるまでの遺構・遺物がみつかり、土地利用の変遷が明らかになってきました。その成果は、調査報告書の刊行により、一般に公開されています。

本書で報告するのは、令和３～４年度に実施した、事業地南部における発掘調査の成果です。当センターが発掘調査を開始してから第９次の調査にあたり、これまでの各遺構面の調査成果に、新たな知見を加えることができました。

特に、弥生時代の方形周溝墓の調査は、令和２～３年度に実施した第８次調査に続く成果です。第８次で調査された、中期後葉の方形周溝墓（墳丘墓）の南の周溝肩部において、埋葬施設を確認したほか、新たに２基の方形周溝墓を検出しました。

また、既往の調査ですでに多大な成果があがっている条里遺構についても、より古い遺構面において、坪境畦畔及び水路をはじめとする遺構群を確認することができました。

最後になりましたが、調査に際し、大阪府教育庁、大阪府都市整備部八尾土木事務所、柏原市教育委員会をはじめ、皆様にご援助いただきましたことに感謝申し上げるとともに、今後とも当センターの文化財調査に一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

令和５年８月

公益財団法人 大阪府文化財センター

理事長　坂　井　秀　弥

例　　言

1. 本書は、大阪府柏原市法善寺四丁目に所在する大県郡条里遺跡（おおがたぐんじょうりいせき）の発掘調査報告書である。調査名は、大県郡条里遺跡 21 - 1 である。

2. 本事業は、寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴い、大阪府都市整備部八尾土木事務所から委託を受け、大阪府教育庁文化財保護課の指導のもと、公益財団法人大阪府文化財センターが実施した。

3. 発掘調査及び整理事業の受託契約名、調査・整理体制は、以下の通りである。

【発掘調査】

受託契約名　寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う大県郡条里遺跡（その９）発掘調査

受託契約期間　令和３年９月１日～令和４年 11 月 25 日

調査体制　令和３年度

事務局次長　市本芳三、総務企画課長　亀井　聡、調査課長　岡戸哲紀、調査課長補佐　佐伯博光、副主査　信田真美世、技師　寳珍貴史

令和４年度

事務局次長　市本芳三、総務企画課長　亀井　聡、調査課長　佐伯博光、調査課長補佐　後藤信義、副主査　信田真美世、技師　寳珍貴史

【整理作業】

受託契約名　寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う大県郡条里遺跡（その 10）発掘調査

受託契約期間　令和４年７月１日～令和５年８月 31 日

整理体制　令和４年度

事務局次長　市本芳三、総務企画課長　亀井　聡、調査課長　佐伯博光、調査課長補佐　後藤信義、副主査　信田真美世

令和５年度

事務局次長　亀井　聡、総務企画課長　島谷美穂、調査課長　佐伯博光、調査課長補佐　後藤信義、副主査　信田真美世

4. 本書に掲載した写真のうち、遺構は調査担当者が、遺物は当センター写真室が撮影した。

5. 調査にあたっては、委託分析として、以下の自然科学分析を実施した。

令和４年度　大型植物遺体同定分析　古代の森研究舎

6. 本書の執筆・編集は、信田が行なった。

凡　　例

1. 遺構図の基準高は、東京湾平均海面（T.P.）からのプラス値で、すべて m 単位である。
2. 遺構図の座標は、世界測地系（測地成果 2011）に基づく平面直角座標系第Ⅵ系で示している。表記はすべて m 単位である。
3. 遺構図に付した方位は、すべて座標北である。
4. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2008 年版　農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。
5. 遺構番号は、種類に関係なく通し番号を付した。１区は１から、２区は 1001 からである。ただし、方形周溝墓、土坑列、ピット列等、複数の遺構で構成されるものについては、別途番号を付した。
6. 地図、遺構実測図、土層断面図の詳細は以下の通りである。
   ・縮尺は、各図のスケールに明記している。
   ・断面位置は、「　　」によってその位置を示した。
7. 遺物実測図・拓本の詳細は以下の通りである。
   ・縮尺は、各図のスケールに明記している。
   土器（209 のみ４分の１）・磁器・漆器は３分の１、土製品は３分の１、瓦は３分の１または４分の１、銭貨は３分の２、金属製品・金属製品生産関係遺物は２分の１または３分の１、木製品は２分の１、３分の１または４分の１、石製品は３分の１、石器は３分の２または３分の１である。
   ・土器・磁器実測図の直線のうち、実線は強い稜線、隙間を１箇所開けた線は調整の境、隙間を２箇所開けた線は調整の単位の境または弱い稜線を表現している。
   ・土器については、各層準の時期を示すため、口径・傾き等の復元がやや不安定な小破片も図化している。掲載遺物一覧表の作図方法・残存率・調整等の欄を参照されたい。
   ・木製品の木取りは、断面図内に木目を模式的に図示することにより表現している。
   ・番号は、実測図掲載順の通し番号である。
8. 掲載遺物一覧表に記している遺物の法量は、（）を付したものは復元値、◇を付したものは残存値である。
9. 第３章の各遺構・層の出土遺物についての記述は、図・写真掲載遺物に限らず、出土した遺物すべてを対象としている。
10. 図版の縮尺は統一していない。

目　　次

巻頭写真図版

序文、例言、凡例

第１章　調査の経緯、経過と方法 …… 1

第１項　調査の経緯と経過 …… 1

第２項　調査の方法 …… 2

第２章　位置と環境 …… 5

第１項　自然環境 …… 5

第２項　歴史環境 …… 5

第３章　調査成果 …… 9

第１節　基本層序 …… 9

第２節　各遺構面の遺構と遺物 …… 19

第１項　第４ａ層上面 …… 19

第２項　第５‐１ａ層上面、第５‐２ａ層上面（第５‐２ａ層下面） …… 22

第３項　第６ａ層上面 …… 29

第４項　第７ａ層上面 …… 35

第５項　第９ａ 層上面 …… 44

第６項　第 10 ａ層上面（第９ａ層下面） …… 49

第７項　第 11‐１ａ層上面、第 11‐２ａ層上面（第 11‐１ａ層下面） …… 54

第８項　第 12 ａ層上面（第 11‐２ａ層下面） …… 61

第９項　第 13‐１ａ層上面、第 13‐２ａ層上～下面 …… 74

第４章　総括 …… 101

掲載遺物一覧表

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

図１　調査地位置図 …… 1
図２　調査区位置図 …… 2
図３　地区割図 …… 3
図４　遺跡分布図 …… 6
図５　基本層序（１区南北断面　図６の部分拡大）
…… 9
図６　１区　南北（Y=－34,155）　断面図 …… 11
図７　１区　東西（X=－155,420）
断面図 …… 12 ～ 14
図８　１区　坪境部分　東西（X=－155,420）
断面図（図７の部分拡大）…… 15・16
図９　２区　東西（X=－155,420）　断面図 …… 17
図 10　２区　南北（Y=－34,050）　断面図 …… 18
図 11　第４ａ層上面　平面図 …… 21
図 12　第４ａ層上面　畦畔　断面図
（Y=－34,155）…… 21
図 13　第４ａ層　出土遺物 …… 22
図 14　第５－１ａ層・第５ａ層上面
平面図 …… 23・24
図 15　第５－１ａ層上面　畝間溝群　断面図
（Y=－34,155）（図６の部分拡大）…… 26
図 16　第５－２ａ層上面・下面　平面図 …… 27
図 17　第５ａ層下面　土坑　断面図 …… 28
図 18　第５層、第５－２ａ層上面　52 溝・
下面　56 溝　出土遺物 …… 28
図 19　第６ａ層上面・第 10 ａ層上面　畦畔
断面図（Y=－34,155）（図６の部分拡大）・ 30
図 20　第６ａ層上面　畦畔、畝間溝群　断面図 ‥ 30
図 21　第６ａ層上面　平面図 …… 31・32
図 22　第５－２ｂ層　出土遺物 …… 33
図 23　第６ａ層　出土遺物（１）…… 33
図 24　第６ａ層　出土遺物（２）…… 34
図 25　第７ａ層上面　平面図 …… 36
図 26　第７ａ層上面　79 溝　出土遺物 …… 37
図 27　第７ａ層上面　79 溝東部遺構群
平面・断面図（北半）…… 40
図 28　第７ａ層上面　79 溝東部遺構群
平面・断面図（南半）…… 41
図 29　第７ａ層上面　79 溝東部遺構群　断面図‥ 42
図 30　第７ａ～８ａ層　出土遺物 …… 43
図 31　第９ａ層上面　溝　断面図 …… 44
図 32　第９ａ層上面　平面図 …… 45・46
図 33　第９ａ層　出土遺物 …… 48
図 34　第９ａ層下面　溝、第 10 ａ層上面・
第 11 ａ層上面　擬似畦畔　断面図 …… 49
図 35　第 10 ａ層上面　平面図 …… 51・52
図 36　第 10 ａ層　出土遺物 …… 53
図 37　第 11－１ａ層・第 11 ａ層上面　平面図……
…… 55・56
図 38　第 11－１ａ層上面　擬似畦畔　断面図 …． 57
図 39　第 11－１ａ層下面、第 11－２ａ層上面
平面図 …… 58
図 40　第 11－１ａ層下面　溝、ピット　断面図‥ 59
図 41　第 11 ａ層、第 11－１ａ層下面　293 溝、第
11－２ａ層下面　299・303 溝　出土遺物・ 60
図 42　第 11－２ａ層下面（第 12 ａ層上面）
平面図 …… 63
図 43　第 11－２ａ層下面　溝、土坑、ピット列
平面・断面図 …… 64
図 44　第 11－２ａ層下面　ピット　断面図 …… 65
図 45　第 12 ａ層上面　平面図 …… 67・68
図 46　第 12 ａ層上面　畦畔水口　平面・断面図・ 69
図 47　第 12 ａ層上面　畦畔、溝、第 11－２ａ層下
面　溝～第 12 ａ層　断面図 …… 70
図 48　第 12 ａ層上面　擬似畦畔　断面図 …… 71
図 49　第 11－２ｂ層、第 12 ａ層　出土遺物 …． 71
図 50　第 12 ａ層　出土遺物（１）…… 72
図 51　第 12 ａ層　出土遺物（２）…… 73
図 52　第 13－１ａ層上面　平面図 …… 75
図 53　第 13－１ａ層上面　溝群南部　断面図 …． 76
図 54　第 13－１ａ層上面　溝群北部　断面図 …． 77
図 55　第 13－１ａ層上面　溝、土坑、ピット
平面・断面図 …… 79
図 56　第 13－１ａ層上面　溝群最上層
出土遺物 …… 80
図 57　第 13－１ａ層上面　溝　出土遺物 …… 80

図 58　第 13 - １ａ層上面　溝群上層
出土遺物 …… 81
図 59　第 13 - １ａ層上面　溝群最上層下面
平面図 …… 82
図 60　第 13 - １ａ層上面　溝群最上層下面
土坑群　平面・断面図 …… 83
図 61　第 13 - ２ａ層上面　２号墓
422 周溝　断面図 …… 84
図 62　第 13 - ２ａ層上面　２号墓
422 周溝　出土遺物 …… 84
図 63　第 13 ａ層・第 13 - ２ａ層上～下面
平面図 …… 85・86
図 64　第 13 - ２ａ層上面　２号墓
埋葬施設１　平面・断面図 …… 87
図 65　第 13 ａ層上面　３・４号墓
平面図 …… 88
図 66　第 13 ａ層上面　３号墓
1011 周溝　断面図 …… 89
図 67　第 13 ａ層上面　３号墓
1 011 周溝　出土遺物（１）…… 90
図 68　第 13 ａ層上面　３号墓　1011 周溝
出土遺物（２）　４号墓　1012 周溝
出土遺物 …… 91
図 69　第 13 ａ層上面　４号墓　1012 周溝
断面図 …… 92
図 70　第 13 - ２ａ層上～下面　溝、土坑、ピット
平面・断面図（１区）…… 93
図 71　第 13 ａ層上～下面　溝、土坑、ピット
断面図（２区）…… 94
図 72　第 13 ａ層下面　1040 溝　断面図 …… 95
図 73　第 13 ａ層下面　1010・1040 溝
出土遺物 …… 96
図 74　第 13 ａ層　出土遺物 …… 96
図 75　石器・石製品（１）…… 97
図 76　石器・石製品（２）…… 98
図 77　縄紋土器 …… 99

写　真　目　次

写真１　遺跡の立地する地域 …… 7

掲載遺物一覧表目次

表１　掲載土器・土製品等一覧表（１）……103
表２　掲載土器・土製品等一覧表（２）……104
表３　掲載土器・土製品等一覧表（３）……105
表４　掲載土器・土製品等一覧表（４）……106
表５　掲載土器・土製品等一覧表（５）……107
表６　掲載土器・土製品等一覧表（６）……108
表７　掲載土器・土製品等一覧表（７）……109
表８　掲載土器・土製品等一覧表（８）……110
表９　掲載土器・土製品等一覧表（９）……111
表 10　掲載土器・土製品等一覧表（10）……112
表 11　掲載木製品一覧表 ……113
表 12　掲載金属製品・金属製品生産関係遺物
一覧表 ……113
表 13　掲載石器・石製品一覧表 ……114

写 真 図 版 目 次

図版１　調査地遠景
図版２　第４ａ層上面（１）
図版３　第４ａ層上面（２）、第５‐１ａ層上面（１）、第５‐２ａ層上面
図版４　第５‐１ａ層上面（２）
図版５　第６ａ層上面（１）
図版６　第６ａ層上面（２）
図版７　第７ａ層上面（１）、79 溝東部遺構群
図版８　第７ａ層上面（２）
図版９　第 10 ａ層上面（１）
図版 10　第 10 ａ層上面（２）、第 11‐１ａ層上面（１）
図版 11　第 11‐１ａ層上面（２）
図版 12　第 11‐２ａ層上面（１）
図版 13　第 11‐２ａ層上面（２）、第 12 ａ層上面（１）
図版 14　第 12 ａ層上面（２）
図版 15　第 12 ａ層上面（３）
図版 16　第 12 ａ層上面（４）
図版 17　第 12 ａ層上面（５）
図版 18　第 13‐１ａ層上面（１）
図版 19　第 13‐１ａ層上面（２）
図版 20　第 13‐１ａ層上面（３）
図版 21　第 13‐２ａ層上面（１）
図版 22　第 13‐２ａ層上面（２）　２号墓
422 周溝
図版 23　第 13‐２ａ層上面（３）　２号墓
埋葬施設１
図版 24　第 13‐２ａ層上～下面、
第 13 ａ層上～下面（１）　空中写真
図版 25　第 13 ａ層上～下面（２）
図版 26　第 13 ａ層上～下面（３）　３号墓
図版 27　第 13 ａ層上～下面（４）　４号墓
図版 28　第 13 ａ層上～下面（５）
図版 29　第 13 ａ層上～下面（６）　1040 溝
図版 30　第４ａ～６ａ層、第７ａ層上面　79 溝
出土遺物
図版 31　第７ａ層上面　79 溝、第７ａ～９ａ層
出土遺物
図版 32　第 10 ａ層、第 11 ａ層等　出土遺物
図版 33　第 11‐２ｂ層、第 12 ａ層　出土遺物
図版 34　第 12 ａ層、第 13‐１ａ層上面　溝群
出土遺物
図版 35　第 13‐１ａ層上面　溝群、第 13 ａ層上面
３・４号墓　出土遺物
図版 36　第 13‐２ａ層上面　２号墓、
第 13 ａ層下面　1040 溝　出土遺物他

第1章　調査の経緯、経過と方法

第１項　調査の経緯と経過

今回の調査は、大阪府都市整備部が実施している寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴うものである。

遊水地予定地は、柏原市法善寺四丁目地内に所在し、約 114,000 ㎡に及ぶ。西部分は大県郡条里遺跡、東部分は山ノ井遺跡にあたり、周囲にも遺跡が密に分布している。

大阪府教育委員会により、遊水地の計画とその取り扱いについて調整を図るため、遺跡の性格や内容を把握する確認調査が実施された。平成 14・15 年度に行なわれた確認調査では、予定地東部を中心に弥生時代、古墳時代、古代等の遺物が出土したほか、ほぼ全域において平安時代以降の遺物が確認された。また、中世の層中に縄紋時代晩期～弥生時代前期の遺物が含まれることから、さらに下層に当該期の遺構・遺物が存在することが想定された。

大阪府都市整備部、大阪府教育委員会及び公益財団法人大阪府文化財センターは、寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）予定地内に存する大県郡条里遺跡他発掘調査の実施に関して、平成 27 年３月５日付で覚書を締結した。これに基づき、大阪府都市整備部八尾土木事務所より、公益財団法人大阪府文化財センターが委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもとに、発掘調査を開始した。

本調査は、令和３年８月 23 日付で、「寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う大県郡条里遺跡（その９）発掘調査」として、大阪府八尾土木事務所より委託を受け、令和３年９

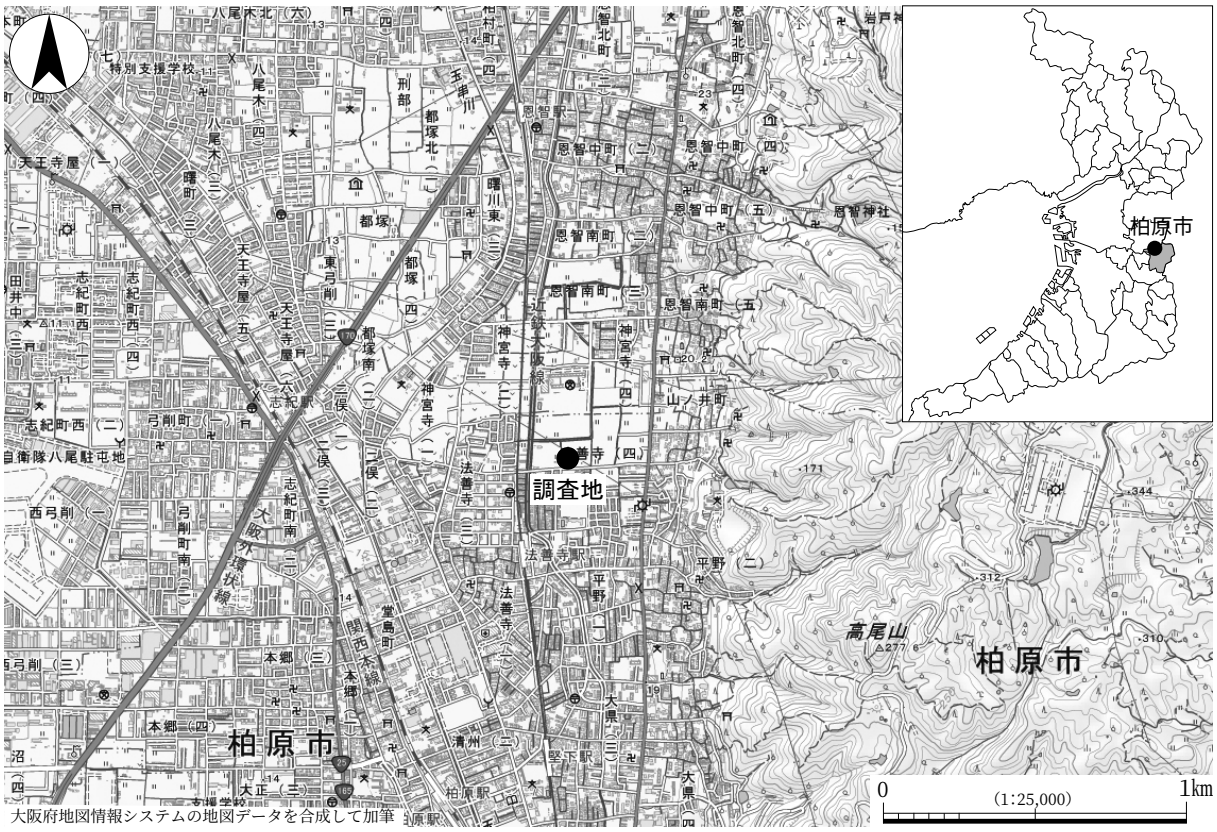


図１　調査地位置図

月～令和４年 10 月まで実施した。

遺物整理事業は、令和４年６月 30 日付で、「寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）に伴う大県郡条里遺跡（その 10）発掘調査」として、大阪府八尾土木事務所より委託を受け、令和４年 11 月～令和５年５月まで実施し、令和５年８月 31 日付で、本書『公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書第 325 集　大県郡条里遺跡９』を刊行した。

第２項　調査の方法

『遺跡調査基本マニュアル』（財団法人大阪府文化財センター　2010 年 12 月）に基づいて実施した。調査名は、大県郡条里遺跡 21 - １である。

調査区の面積は 4,765 ㎡で、西半を１区（2,562 ㎡）、東半を２区（2,203 ㎡）とした。なお、調査地

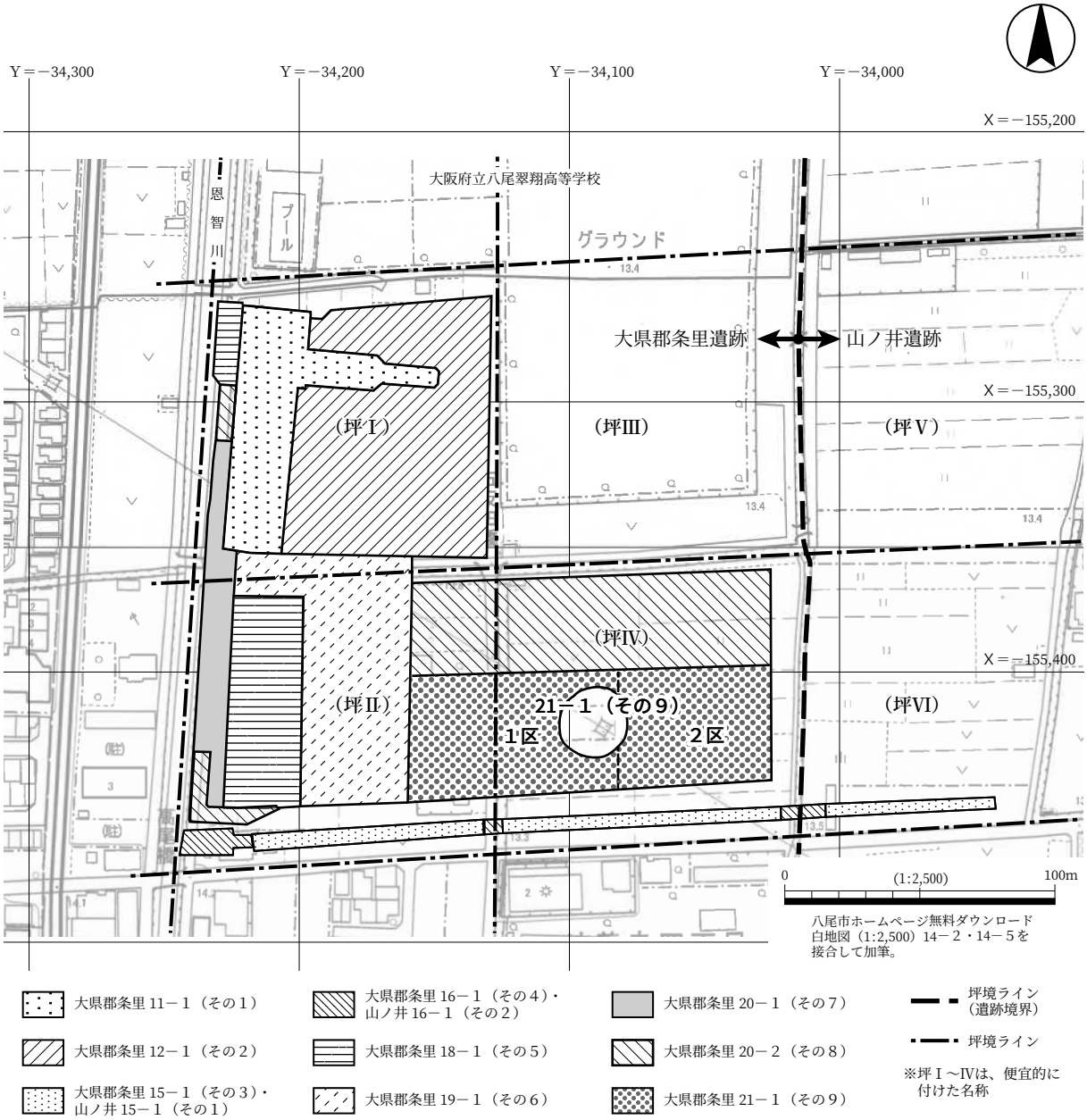


図２　調査区位置図

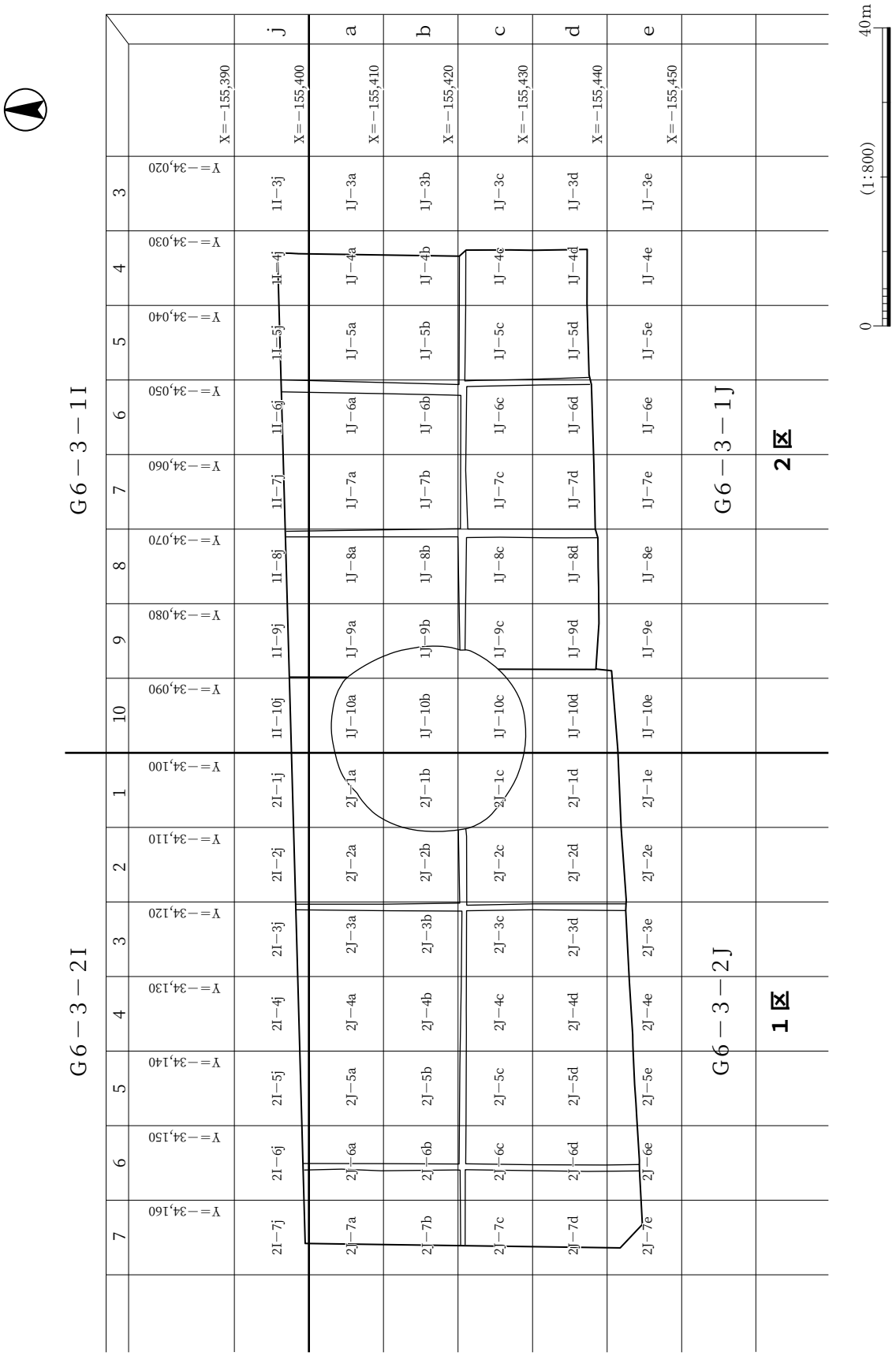

G6－3－1I
G6－3－2I
G6－3－1J
G6－3－2J
1区
2区
X＝－155,390
X＝－155,400
X＝－155,410
X＝－155,420
X＝－155,430
X＝－155,440
X＝－155,450
Y＝－34,020
Y＝－34,030
Y＝－34,040
Y＝－34,050
Y＝－34,060
Y＝－34,070
Y＝－34,080
Y＝－34,090
Y＝－34,100
Y＝－34,110
Y＝－34,120
Y＝－34,130
Y＝－34,140
Y＝－34,150
Y＝－34,160
1I－3j
1I－4j
1I－5j
1I－6j
1I－7j
1I－8j
1I－9j
1I－10j
2I－1j
2I－2j
2I－3j
2I－4j
2I－5j
2I－6j
2I－7j
1J－3a
1J－4a
1J－5a
1J－6a
1J－7a
1J－8a
1J－9a
1J－10a
2J－1a
2J－2a
2J－3a
2J－4a
2J－5a
2J－6a
2J－7a
1J－3b
1J－4b
1J－5b
1J－6b
1J－7b
1J－8b
1J－9b
1J－10b
2J－1b
2J－2b
2J－3b
2J－4b
2J－5b
2J－6b
2J－7b
1J－3c
1J－4c
1J－5c
1J－6c
1J－7c
1J－8c
1J－9c
1J－10c
2J－1c
2J－2c
2J－3c
2J－4c
2J－5c
2J－6c
2J－7c
1J－3d
1J－4d
1J－5d
1J－6d
1J－7d
1J－8d
1J－9d
1J－10d
2J－1d
2J－2d
2J－3d
2J－4d
2J－5d
2J－6d
2J－7d
1J－3e
1J－4e
1J－5e
1J－6e
1J－7e
1J－8e
1J－9e
1J－10e
2J－1e
2J－2e
2J－3e
2J－4e
2J－5e
2J－6e
2J－7e
0
(1:800)
40m

図３　地区割図

中央に関西電力株式会社の鉄塔があり、鉄塔中心より法面上端で半径 10 mの範囲は調査対象外である。

令和３年９月に１区の機械掘削に着手し、10 月には機械掘削と並行して人力掘削を開始した。令和４年１月には、１区の人力掘削と並行して２区の機械掘削に着手し、３月に人力掘削を開始した。１区は、大阪府教育庁の最終立会を令和４年７月 21 日に受け、残る遺構等の完掘及び記録作成作業を経て、８月に調査を完了した。２区は、最終立会を令和４年 10 月 26 日に受け、調査を完了した。

遺構面の平面図は、主要な遺構面については、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量により、50 分の１で作成した。それ以外の遺構面については、平板測量及び水準測量を実施した。

調査区の基本層序等を記録するための土層断面図は、東西方向、南北方向にセクションを設定し、縮尺 20 分の１で実測した。個別の遺構図（平面図・断面図・立面図）も、縮尺 10 分の１、20 分の１で実測した。

写真撮影には、６×７カメラ（モノクロ・リバーサル）及びＡＰＳ‐Ｃサイズのデジタルカメラを使用した。

出土遺物は、コンテナ 33 箱分で、土器のほか、石製品、金属製品、木製品を含む。層位名、遺構名、登録番号等のほか、図３に示した 10 m区画の地区割を記入したラベルを付している。遺物への注記は、「オオガタグンジョ 21‐1」の後に登録番号である。

木製品のうち 15 点については、「令和４年度大県郡条里遺跡（その９）遺物整理大型植物遺体同定分析業務委託」として、古代の森研究舎に委託し、樹種の同定を行なった。その成果については、本書本文中及び掲載遺物一覧表に記載している。

図面、写真、出土遺物については、それぞれに登録番号を付し、マイクロソフト社の Excel を用いて台帳を作成した。

第2章　位置と環境

大県郡条里遺跡は、大阪府の東部、柏原市法善寺に所在する。本書で報告する 21‐１（その９）調査区は、一級河川恩智川法善寺多目的遊水地の南部に位置する。

第１項　自然環境

大県郡条里遺跡は、河内平野南東部に立地する。河内平野の東を限る生駒山地は、主に花崗岩で構成される南北に長い山地である。標高 400 ～ 500 mであるが、信貴山（標高 437 m）より南は低くなり、山地南部の柏原市域では 200 ～ 300 mとなる。平野の東縁にあたるその西麓には、南北に長く扇状地が発達している。ただし、柏原市域では山地と旧大和川水系の河川との距離が近く、扇状地は比較的狭くなっている。

奈良盆地の水を集めた大和川は、生駒山地の南麓を蛇行しながら河内平野に流れ出ている。南河内の水を集めて北流してきた石川が合流するのは、遺跡から南へ２km の地点（柏原市築留）である。そこから大阪湾へと西流する現在の大和川は、宝永元（1704）年に人工的に付け替えられたもので、それまでは北または北西に向って流れていた。現在、河内平野を北または北西流している玉串川、楠根川、長瀬川、平野川等が、旧大和川水系の河川にあたる。

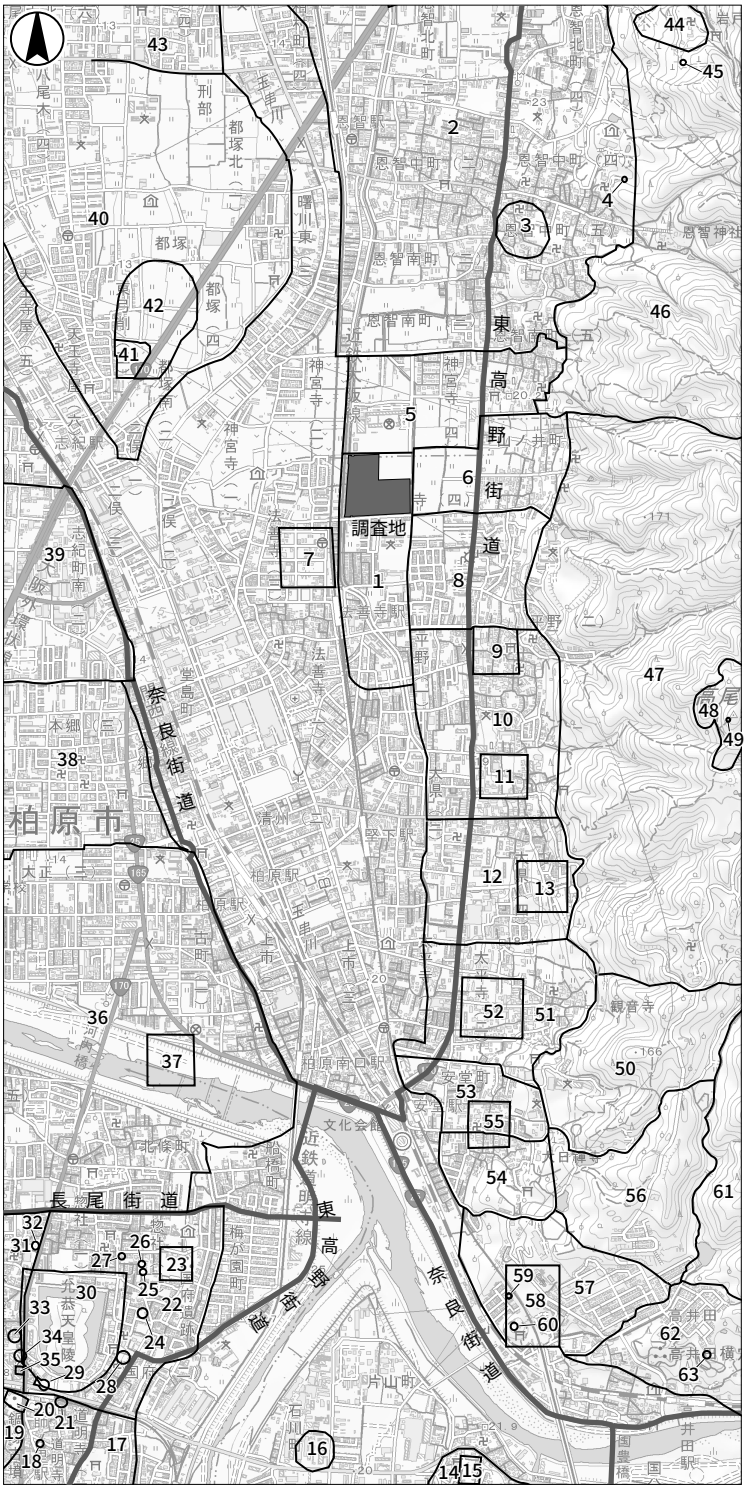
遺跡の西側には、玉串川、長瀬川が北流している。自然堤防等の微高地が形成されており、その微高地と生駒山地西麓の扇状地に挟まれた後背低地に、遺跡は立地している。現在の標高は T.P.14 m前後である。

第２項　歴史環境

大県郡条里遺跡では、縄紋時代早期及び後期～晩期の遺物が出土している。周辺の縄紋時代の遺跡としては、生駒山西麓の扇状地に立地する大県遺跡や恩智遺跡が知られている。調査地の南東 0.5km に位置する大県遺跡では、草創期の有茎尖頭器、早期の押型紋土器をはじめ、後期～晩期にかけての土器が多数出土しており、後期の炉跡とみられる石囲遺構も検出されている。なお、今回の調査で石棒が出土しているが、石製の呪術具としては、石刀が大県遺跡で、石棒が恩智遺跡、田井中遺跡、八尾南遺跡、長原遺跡で出土している。

今回の調査では、弥生時代中期後葉と弥生時代後期後葉の方形周溝墓（墳丘墓）を検出している。しかし、当該期の居住域については、これまで遺跡内及び近接地では確認されていない。調査地から北に１km に位置する恩智遺跡では、弥生時代中期に扇状地末端部において大規模な集落が営まれる。居住域北西側の平野部では、扇状地末端の地形に沿って、居住域を区画する多重の溝が検出されている。その溝間にあたる位置で木棺墓が確認されており、平野部に墓域が営まれていたと考えられている。同じく扇状地に立地する大県遺跡では、中期～後期の遺物が出土しており、中期の竪穴建物や、サヌカイトの原石、剥片、未成品が多数入った土坑、後期の竪穴建物が検出されている。また、大県遺跡の東側斜面に立地する高尾山遺跡では、中期の多鈕細紋鏡が出土しているほか、後期の高地性集落が営まれている。一方、調査地から南西 1.4km の旧大和川左岸平野部に立地する本郷遺跡では、中期中葉と後期後葉まで古くなる可能性がある方形周溝墓が検出されている。

古墳時代の遺跡周辺では、大県遺跡を中心に大県南遺跡、太平寺遺跡で、鍛冶関連の遺構と遺物が多

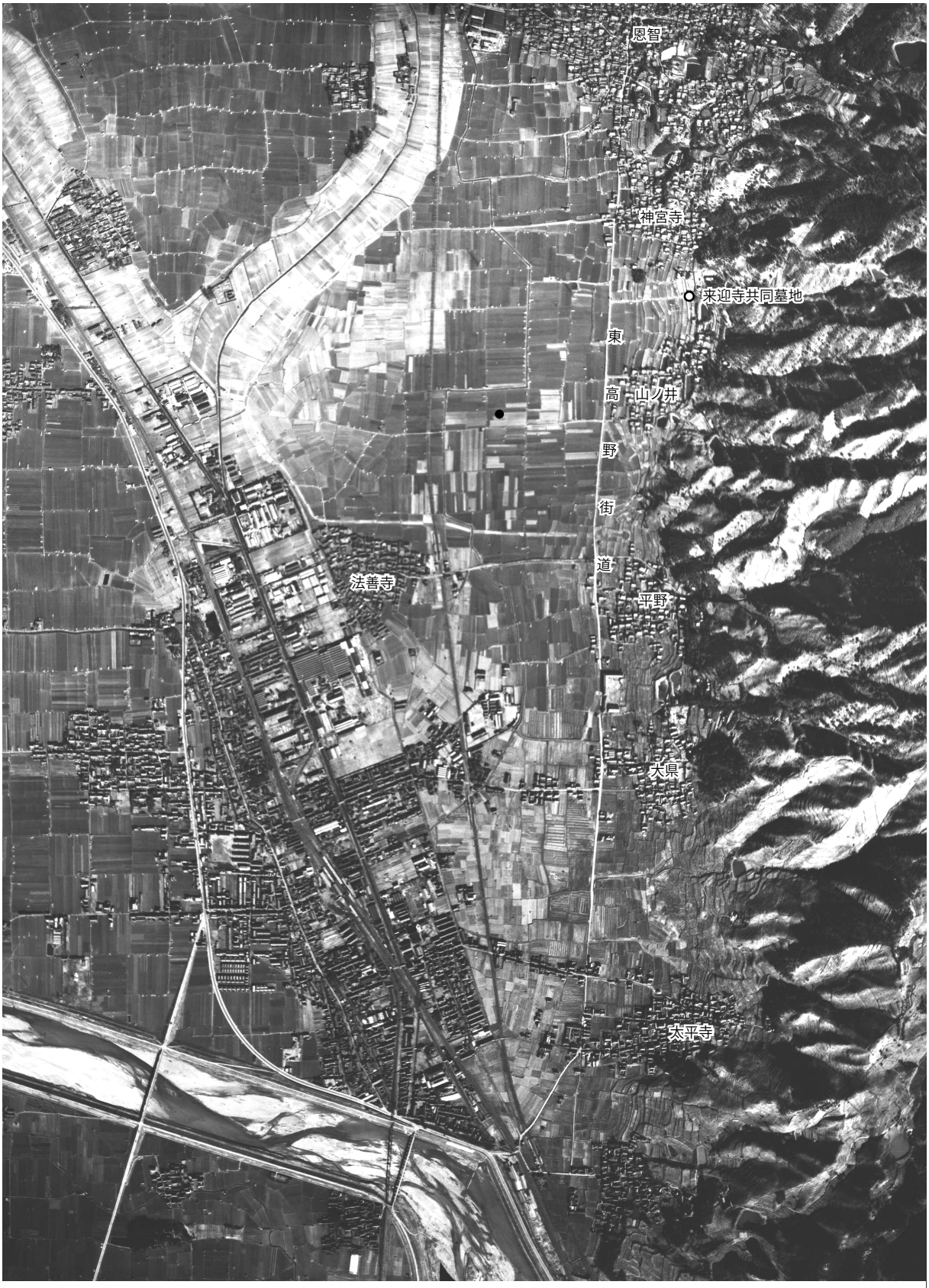


1　大県郡条里遺跡（今回調査地）
2　恩智遺跡
3　恩智城跡
4　恩智銅鐸出土地
5　神宮寺遺跡
6　山ノ井遺跡
7　法善寺廃寺
8　平野遺跡
9　三宅寺跡（平野廃寺）
10　大県遺跡
11　大里寺跡（大県南廃寺）
12　大県南遺跡
13　山下寺跡（大県南廃寺）
14　玉手山遺跡
15　片山廃寺
16　石川町遺物包蔵地
17　土師の里遺跡
18　道端遺跡
19　仲津山古墳
20　鍋塚古墳
21　御曹子塚古墳
22　国府遺跡
23　衣縫廃寺
24　衣縫塚古墳
25　長屋２号墳
26　長屋１号墳
27　志貴県主神社南古墳
28　宮の南塚古墳
29　唐櫃山古墳
30　市野山古墳
31　林遺跡
32　八王子塚古墳
33　赤子塚古墳
34　長持山古墳
35　小具足塚古墳
36　船橋遺跡
37　船橋廃寺
38　本郷遺跡
39　弓削遺跡
40　東弓削遺跡
41　由義寺跡
42　弓削寺跡（由義寺跡）
43　中田遺跡
44　岩戸古墳群
45　信貴霊苑内古墳
46　高安古墳群
47　平尾山古墳群（平野・大県支群）
48　高尾山山頂遺跡
49　多鈕細紋鏡出土地
50　平尾山古墳群（太平寺支群）
51　太平寺遺跡（太平寺支群と重複）
52　智識寺跡（太平寺廃寺）
53　安堂遺跡（太平寺支群と重複）
54　安堂遺跡（安堂支群と重複）
55　家原寺跡（安堂廃寺）
56　平尾山古墳群（安堂支群）
57　高井田遺跡（安堂支群と重複）
58　鳥坂寺跡
59　戸坂古墳
60　鳥坂宮古墳
61　平尾山古墳群（平尾山支群）
62　高井田横穴群
63　高井田山古墳（第２支群56号墳）

遺跡の範囲は、大阪府地図情報システムの地図データ及び柏原市文化財概報 1995－Ⅱ『高井田山古墳』図 16 にもとづく。
ベースマップは、『電子地形図 25000』（国土地理院）を使用。

0　(1:25,000)　1km

図４　遺跡分布図



● 調査地　　※1948 年２月撮影　国土地理院所有（M18－1－100）に加筆　＜上が北＞

写真１　遺跡の立地する地域

数確認されている。大県遺跡では、５世紀後半には小規模な鍛冶が行なわれていた可能性があるが、６世紀後半には集落の規模が大きくなるとともに、鉄滓、鞴羽口、砥石等が多数出土するようになる。鍛冶炉を中心とした鍛冶遺構群（工房跡）が検出されており、韓式系土器も出土している。６～７世紀代には生駒山地に群集墳が形成されるが、大県遺跡の東側にも平尾山古墳群が築かれ、鉄滓等の鍛冶に関連する遺物が副葬されている。

続日本紀養老四（720）年十一月二十七日条には、堅下・堅上２郡を合わせて大県郡としたことが記されている。「堅下」は生駒山西麓から旧大和川にかけて、「堅上」は生駒山地南端の地域である。和名類聚抄には、大里、鳥坂、鳥取、津積、巨麻、賀美の６郷が記載されている。

続日本紀天平勝宝八歳（756 年）二月条には、いわゆる河内六寺についての記述がある。生駒山西麓の扇状地に南北に並ぶ、三宅寺、大里寺（大県廃寺）、山下寺（大県南廃寺）、智識寺（太平寺廃寺）、家原寺（安堂廃寺）、鳥坂寺（高井田廃寺）である。これまでに智識寺の東塔基壇、鳥坂寺の塔心礎や金堂基壇をはじめとする調査が行なわれており、いずれの寺院も出土瓦等から７世紀中頃から後半に建立されたと考えられている。なお、六寺の西側には、東高野街道（旧国道 170 号線）が生駒山西麓を縦貫している。平安時代には官道の南海道とされたとみられる主要道である。寺院群が建立された頃には、その前身となる南北道が設置されていた可能性が考えられる。

最後に、遺跡の立地する地域について記しておく。法善寺には、法禅寺という寺院があったと伝えられているが、近世には廃寺となっていたようである。東高野街道以東には、生駒山麓裾部に集落が点在しており、法善寺の東側には平野集落がある。その北にはもと平野の枝郷であった山ノ井集落があり、かつて集落の中を東西に信貴山へ登る信貴道が通っていた。南側には大県集落がある。

延喜式神名帳には、大県郡の神社として 11 座が記載されている。そのうち若倭彦命神社が平野に、若倭姫命神社が山ノ井にある。大県にある鐸比古鐸比売神社は、鐸比古神社と鐸比売神社として記されている。近世には高尾大宮、高尾大明神と呼ばれ、南法善寺、北法善寺、平野、大県４村が信仰し、宮座のあったことが知られている。

山ノ井から北側の八尾市神宮寺にかけて所在する来迎寺共同墓地は、「神宮寺墓地」として「河内七墓」のひとつに数えられる。平野、法善寺、山ノ井と、八尾市神宮寺･恩智地区の郷墓（惣墓）である。13 世紀以降の石造物がみられ、墓地の成立は中世に遡ると考えられる。

多聞院日記元亀二（1571）年正月十二日条には、「十日十一日河内ノ平野在所悉焼亡了、僅卅家計殘歟、諸百姓引コミ群集悉以果ヘキ也申、不便之次第也、」とみえる。戦国時代末期における在地の状況が知れる。

関連文献

公益財団法人 大阪府文化財センター　2013 『大県郡条里遺跡』 調査報告書 第 241 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2015 『大県郡条里遺跡２』 調査報告書 第 258 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2016 『大県郡条里遺跡３・山ノ井遺跡』 調査報告書 第 268 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2017 『大県郡条里遺跡４・山ノ井遺跡２』 調査報告書 第 283 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2020 『大県郡条里遺跡５』 調査報告書 第 299 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2021 『大県郡条里遺跡６』 調査報告書 第 314 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2021 『大県郡条里遺跡７』 調査報告書 第 311 集

公益財団法人 大阪府文化財センター　2022 『大県郡条里遺跡８』 調査報告書 第 322 集

第3章　調査成果

第1節　基本層序

現地盤高は、T.P.14 m前後である。最終遺構面（T.P.10.7 ～ 11.2 m）までに、下記の層準を確認した。層準及び遺構面の名称は、調査時点における直近の調査であり、調査区が北側に接する（その８）に準じている。土壌層は「第〇ａ層」、その母材となる堆積層は「第〇ｂ層」である。なお、西側に接する（その６）との層序対比は、第 322 集『大県郡条里遺跡８』報告書の 30 頁、表１に記載されている。

第１～２層　第１ａ層は、近世～現代までの作土層である。第１ｂ層は下位がシルト層、上位が細砂～粗砂・小礫で、地点により遺存状況が異なるものの比較的厚い堆積層である。第２ａ層は、上面に島畠が認められる近世後期の作土層である。

第３ａ層　小礫を含むにぶい黄橙～明黄褐色極細砂～粗砂と、褐灰色シルト～細砂がブロック状に混合する。近世の作土層である。

第３ｂ層　上位が浅黄橙～灰黄褐色極細砂～中砂、下位が青灰色シルトで、上方粗粒化している。第３ａ層の母材となる堆積層である。下位のシルト層は厚さ数㎝で、第４ａ層上面を被覆している。調査区西部で厚く、２区では認められない。

第４ａ層　細砂・シルトの小ブロックを含む青灰色シルト～細砂である。厚さ約 0.1 mの作土層で、上面で畦畔を検出した。

第４ｂ層　浅黄色極細砂～細砂と暗緑灰色シルトの薄層の互層である。面的には遺存しておらず、１区において第５‐１ａ層上面畝間溝群を埋積している。

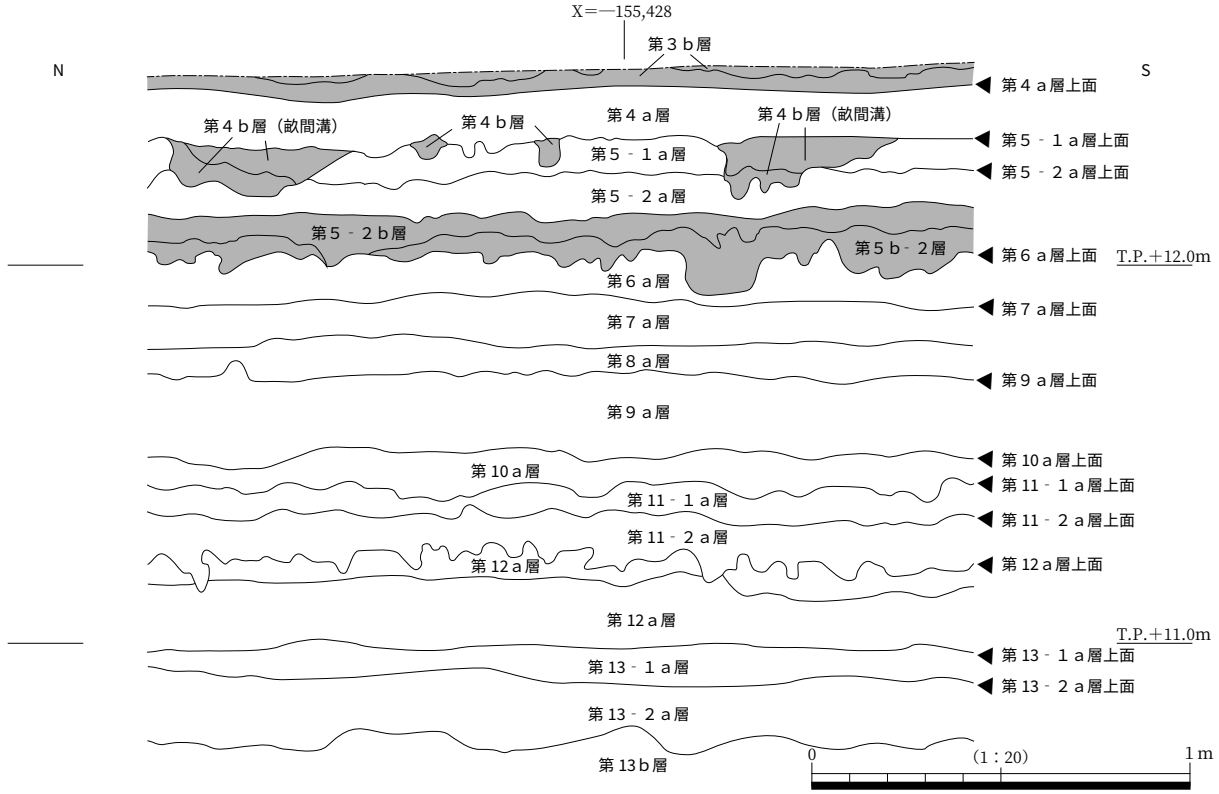


図５　基本層序（１区南北断面　図６の部分拡大）

第５‐１ａ層　第５ａ層は、１区西部（坪境より西側）では、第５‐１ａ層、第５‐２ａ層の２層に分けた。両層は酷似しているが、部分的にシルト～極細砂（第５‐１ｂ層）が挟在していることで分層できる。第５‐１ａ層は、シルト・極細砂の小ブロックを含む青灰色シルト～極細砂である。厚さ約 0.1 mの作土層である。上面で畝間溝群、坪境溝を検出した。

第５‐１ｂ層　シルト～極細砂の堆積層で、極めて薄い。１区西部で、断面観察により断片的に確認できる。

第５‐２ａ層　シルト・極細砂の小ブロックを含む青灰色シルト～極細砂である。厚さ約 0.1 mの作土層である。上面で坪境溝を検出した。

第５‐２ｂ層　上層は、細砂の薄層を含む青灰色シルト～極細砂で、ラミナが認められる。下層は、均質な青灰色シルト層である。ともに厚さ数㎝の堆積層で、下層シルトは第６ａ層上面を被覆している。１区東端部以東には、認められない。

第６ａ層　黄灰色中砂混じりシルト～細砂である。厚さ約 0.1 mの作土層である。上面で畦畔を検出した。

第６ｂ層　浅黄色シルト～中砂である。面的には認められず、１区において断面観察により断片的に確認できる。

第７ａ層　青灰色細砂混じりシルト～極細砂である。厚さ約 0.1 mの作土層である。上面で坪境溝を検出した。

第８ａ層　暗緑灰色極細砂混じりシルトである。厚さ約 0.1 mの作土層である。

第８ｂ層　浅黄色シルト～極細砂の堆積層である。面的には認められず、１区において断面観察により断片的に確認できる。

第９ａ層　暗オリーブ灰色粗砂混じりシルトである。厚さ 0.1 ～ 0.2 mの作土層である。

第９ｂ層　淡黄色シルト～細砂で、極細砂の薄層を含む。面的には認められず、１区で断面観察により断片的に確認でき、２区では下面に耕作痕等として残る。

第 10 ａ層　黄灰色シルト～細砂で、１区では粗砂～小礫を多く含む。厚さは 0.1 m以下であるが、１区南西部では約 0.2 mである。作土層で、上面で畦畔を検出した。

第 10 ｂ層　淡黄色細砂～粗砂・小礫、または極細砂～細砂の堆積層である。面的には認められず、１区において断面観察により部分的に確認でき、２区では下面に耕作痕等として残る。

第 11‐１ａ層　第 11 ａ層は、１区では、第 11‐１ａ層、第 11‐２ａ層の２層に分けた。第 11‐１ａ層は、緑灰色粗砂～小礫を多く含む粘土～シルトである。厚さ数㎝の作土層である。

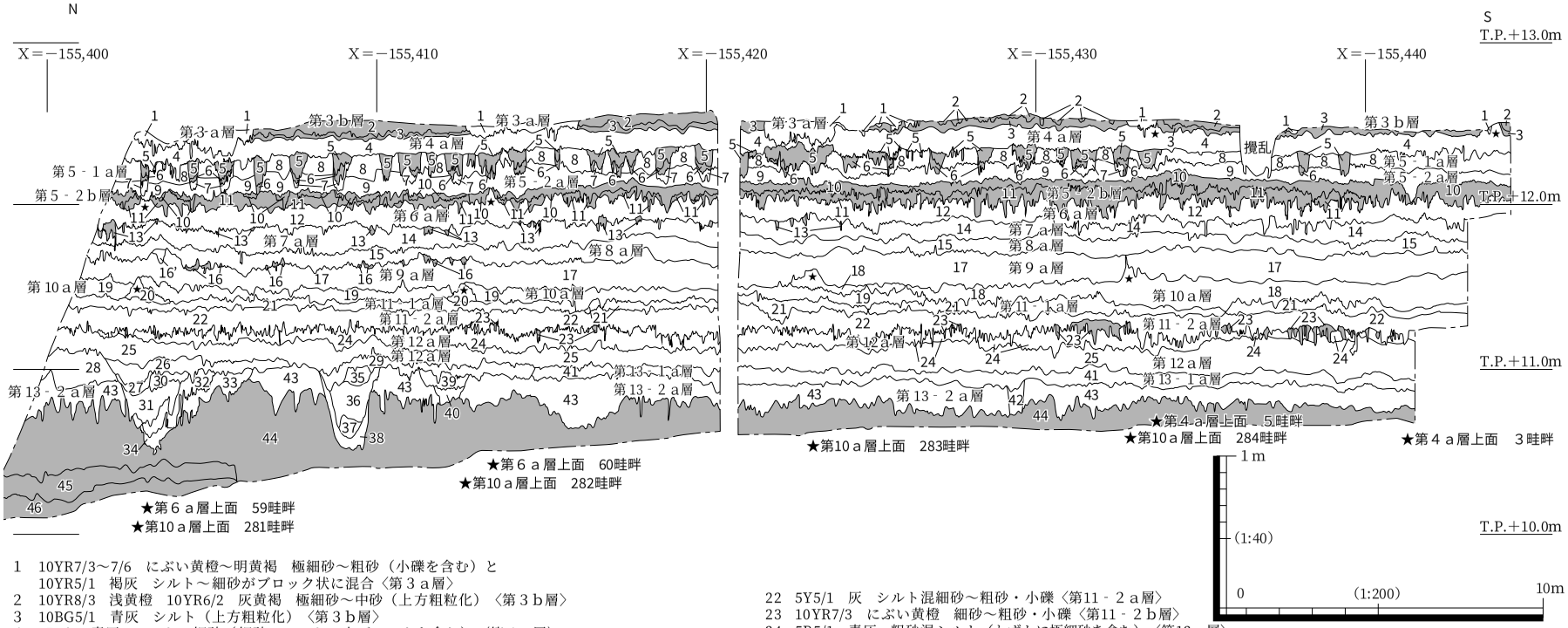
第 11‐２ａ層　灰色シルト混じり細砂～粗砂・小礫である。厚さ約 0.1 mの作土層である。

第 11‐２ｂ層　明褐色細砂～粗砂・小礫である。１区中央部の坪境周辺にのみ認められ、第 12 ａ層上面を被覆している。

第 12 ａ層　青灰色粗砂混じりシルトである。厚さは約 0.2 mであるが、１区の第 13‐１ａ層上面溝群直上範囲のみ 0.1 m以下である。上面で畦畔及び溝を検出した。

第 13‐１ａ層　第 13 ａ層は、１区では第 13‐１ａ層、第 13‐２ａ層の２層に分けた。第 13‐１ａ層は、灰色粗砂～小礫混じりシルトで、厚さ数㎝の土壌層である。

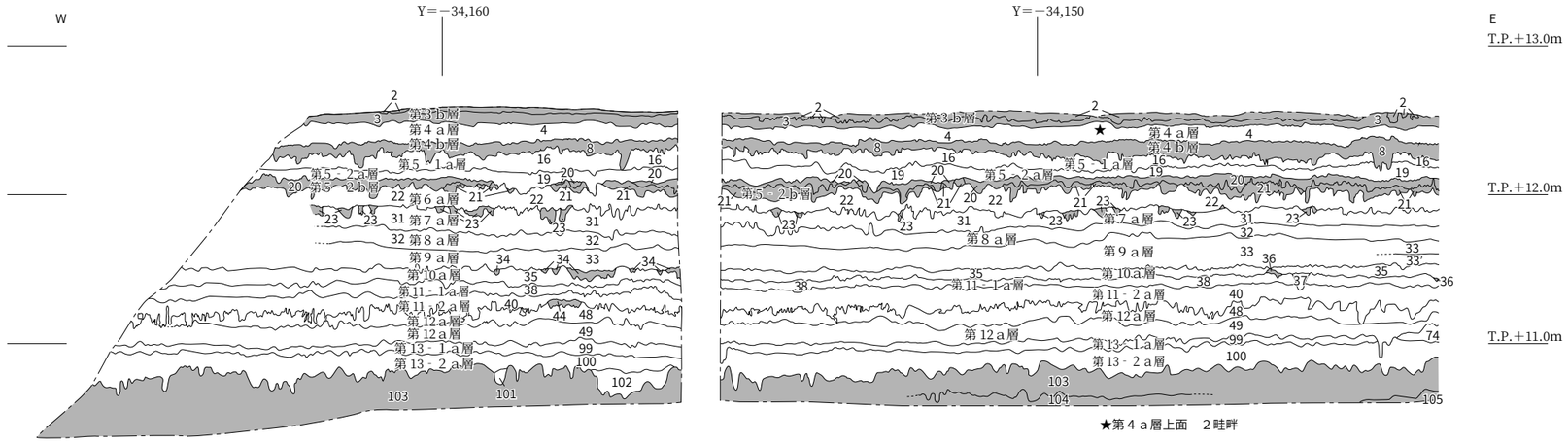
第 13‐２ａ層　灰色シルト～極細砂で、厚さ約 0.2 mの土壌層である。上面及び下面において方形周溝墓をはじめとする遺構群を検出した。



1　10YR7/3～7/6　にぶい黄橙～明黄褐　極細砂～粗砂（小礫を含む）と
　10YR5/1　褐灰　シルト～細砂がブロック状に混合〈第３ａ層〉
2　10YR8/3　浅黄橙　10YR6/2　灰黄褐　極細砂～中砂（上方粗粒化）〈第３ｂ層〉
3　10BG5/1　青灰　シルト（上方粗粒化）〈第３ｂ層〉
4　5B5/1　青灰　シルト～細砂（細砂・シルトの小ブロックを含む）〈第４ａ層〉
5　10G5/1　緑灰　シルト～細砂（シルト・極細砂～細砂の薄層を含む　第５－１ａ層上面畝間溝を埋積）
　〈第４ｂ層〉
6　2.5Y7/3　浅黄　極細砂～細砂と10G4/1　暗緑灰　シルト、薄層の互層（第５－１ａ層上面畝間溝を埋積）
　〈第４ｂ層〉
7　2.5Y7/3　浅黄　細砂混シルト～極細砂〈第５－１ａ層上面畝間溝機能時堆積層〉
8　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む、最下部にシルト～極細砂の
　変形した薄層（第５－１ｂ層）あり）〈第５－１ａ層〉
9　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む）〈第５－２ａ層〉
　※８・９は酷似　８の下部にシルト～極細砂の変形した薄層（第５－１ｂ層）があることで分層できる
10　5B6/1　青灰　シルト～極細砂（細砂の薄層を含む）〈第５－２ｂ層〉
11　5B6/1　青灰　シルト〈第５－２ｂ層〉
12　2.5Y5/1　黄灰　中砂混シルト～細砂〈第６ａ層〉
13　2.5Y7/3　浅黄　シルト～中砂〈第６ｂ層〉
14　10BG5/1　青灰　細砂混シルト～極細砂〈第７ａ層〉
15　5G4/1　暗緑灰　極細砂混シルト〈第８ａ層〉
16　2.5Y7/4　浅黄　シルト～極細砂〈第８ｂ層〉
16′　10BG5/1　青灰　シルト～極細砂（2.5Y8/3　淡黄　極細砂～細砂を含む）〈第９ａ層上面　278溝〉
17　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　粗砂混シルト（上面に炭酸鉄）〈第９ａ層〉
18　2.5Y6/3　にぶい黄　粗砂～小礫を多く含むシルト混極細砂～細砂（細砂～粗砂・小礫のブロックを含む）
　〈第10ａ層〉
19　2.5Y5/1　黄灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～細砂〈第10ａ層〉
20　2.5Y5/2　暗灰黄　粗砂～小礫を多く含むシルト～細砂　（シルト・細砂～中砂等の小ブロックを含む）
　〈第10ａ層上面　281・282畦畔〉
21　10GY5/1　緑灰　粗砂～小礫を多く含む粘土～シルト〈第11－１ａ層〉
22　5Y5/1　灰　シルト混細砂～粗砂・小礫〈第11－２ａ層〉
23　10YR7/3　にぶい黄橙　細砂～粗砂・小礫〈第11－２ｂ層〉
24　5B5/1　青灰　粗砂混シルト（わずかに極細砂を含む）〈第12ａ層〉
25　5B5/1　青灰　粗砂混シルト〈第12ａ層〉
26　5GY5/1　オリーブ灰　シルト～極細砂（粗砂を少し含む）〈第13－１ａ層上面溝群上層〉
27　7.5GY5/1　緑灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂〈第13－１ａ層上面溝群上層〉
28　N5/0　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂〈第13－１ａ層上面溝群上層〉
29　N5/0　灰　粗砂～小礫混シルト〈第13－１ａ層上面溝群上層〉
30　5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～細砂　〈第13－１ａ層上面　溝〉
31　5BG5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂（極細砂の薄層を含む）〈第13－１ａ層上面　溝〉
32　5BG4/1　暗青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂　〈第13－１ａ層上面　溝〉
33　10Y4/1　灰　粗砂～小礫混シルト（5Y7/3　浅黄　シルト～極細砂（第13ｂ層）のブロックを多く含む）
　〈第13－１ａ層上面　溝〉
34　10Y4/1　灰　粗砂～小礫混シルト（一部に極細砂の薄層あり）〈第13－１ａ層上面　溝〉
35　5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫を多く含む　シルト～極細砂　〈第13－１ａ層上面　溝〉
36　2.5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂　〈第13－１ａ層上面　溝〉
37　5Y5/1　灰　シルト～極細砂　〈第13－１ａ層上面　溝〉
38　5Y4/1　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂（肩部に5Y7/3　浅黄　シルト～極細砂（第13ｂ層）のブロックを多く含む
　〈第13－１ａ層上面　溝〉
39　10BG6/1　青灰　シルト（極細砂の薄層を含む）〈第13－１ａ層上面　溝〉
40　10BG5/1　青灰　シルト～極細砂（極細砂の薄層を含む）〈第13－１ａ層上面　溝〉
41　N5/0　灰　粗砂～小礫混シルト〈第13－１ａ層〉
42　5B5/1　青灰　シルト　〈第13－２ａ層上面　410溝〉
43　N4/0　灰　シルト〈第13－２ａ層〉
44　5Y7/3　浅黄　シルト～極細砂〈第13ｂ層〉
45　7.5Y5/1　灰　シルト～極細砂
46　5B5/1　青灰　極細砂～細砂

図６　１区　南北（Y＝－34,155）断面図

1　10YR7/3～7/6　にぶい黄橙～明黄褐　極細砂～粗砂（小礫を含む）と
10YR5/1　褐灰シルト～細砂がブロック状に混合　〈第３a層〉
2　10YR8/3　浅黄橙　10YR6/2　灰黄褐　極細砂～中砂（上方粗粒化）
〈第３b層〉
3　10BG5/1　青灰　シルト（上方粗粒化）〈第３b層〉
4　5B5/1　青灰　シルト～細砂（細砂・シルトの小ブロックを含む）
〈第４a層〉
5　5B5/1　青灰　シルト～細砂〈第４a層　1畦畔盛土〉
6　10G5/1　緑灰　シルト～細砂（シルト・極細砂～細砂の薄層を含む
第５‐１a層上面畝間溝を埋積）〈第４b層〉
7　2.5Y7/3　浅黄　極細砂～細砂と10G4/1　暗緑灰　シルト、薄層の互層
（第５‐１a層上面畝間溝を埋積）〈第４b層〉
8　10G5/1　緑灰　シルト～細砂（シルト・極細砂～細砂の薄層を含む）
2.5Y7/3　浅黄　極細砂～細砂と10G4/1　暗緑灰　シルト、
薄層の互層（第５‐１a層上面畝間溝を埋積）〈第４b層〉
9　2.5Y7/3　浅黄　細砂混シルト～極細砂＜第５‐１a層上面
畝間溝機能時形成層＞
10　5B5/1　青灰　シルト～細砂　〈第５‐１a層上面　50溝〉
11　5B5/1　青灰　シルト　〈第５‐１a層上面　50溝〉
12　5B5/1　青灰　シルト～極細砂　〈第５‐１a層上面　50溝〉
13　2.5Y6/4　にぶい黄　極細砂～細砂（5B5/1　青灰　シルトの薄層を含む
上方粗粒化）〈第５‐１a層上面　50溝〉
14　5B5/1　青灰　粘土～シルト（極細砂の薄層あり　上方粗粒化）
〈第５‐１a層上面　50溝〉
15　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む）
〈第５a層〉
16　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む
最下部にシルト～極細砂の変形した薄層（第５‐１b層）あり）
〈第５‐１a層〉
17　10G5/1　緑灰　シルト～極細砂（極細砂～細砂の薄層を含む）
〈第５‐２a層上面　52溝〉
18　10GY5/1　緑灰　シルト～極細砂（細砂を含む）
〈第５‐２a層上面　52溝〉
19　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む）
〈第５‐２a層〉
20　5B6/1　青灰　シルト～極細砂（細砂の薄層を含む）〈第５‐２b層〉
21　5B6/1　青灰　シルト〈第５‐２b層〉
22　2.5Y5/1　黄灰　中砂混シルト～細砂〈第６a層〉
23　2.5Y7/3　浅黄　シルト～中砂〈第６b層〉
24　2.5Y5/1　黄灰　シルト～極細砂と2.5Y6/3　にぶい黄　極細砂～中砂が
混合（シルトの小ブロック・粗砂・小礫を含む　断片的にラミナみえるが
原位置とどめていない）〈第６a層上面　58畦畔盛土〉
25　2.5Y5/2　暗灰黄　粗砂～小礫混シルト～極細砂（2.5Y7/3　浅黄　細砂～
粗砂・小礫の小ブロックを含む）〈第７a層上面　79溝〉
26　2.5Y7/3　浅黄　細砂～粗砂・小礫（シルト～極細砂を含む、ラミナあり
ただし、ピット部分は変形著しい）〈第７a層上面　79溝〉
27　2.5Y5/2　暗灰黄　粗砂～小礫混シルト～極細砂（2.5Y7/3　浅黄　細砂～
粗砂・小礫の小ブロックを含む）〈第７a層上面　79溝〉
28　10BG5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂（2.5Y7/3　浅黄　細砂～
粗砂・小礫を含む　ラミナみえるが変形している）〈第７a層上面　79溝〉
29　5G5/1　緑灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～中砂（シルト・粗砂～
小礫のブロックを含む）〈第７a層上面　79溝〉
30　5B5/1　青灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト〈第７a層上面　79溝〉
31　10BG5/1　青灰　細砂混シルト～極細砂〈第７a層〉
32　5G4/1　暗緑灰　極細砂混シルト〈第８a層〉
33　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　粗砂混シルト（上面に炭酸鉄）〈第９a層〉
33′　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　粗砂～小礫を多く含む部分〈第９a層〉
34　2.5Y7/3　浅黄　極細砂〈第９b層〉
35　2.5Y5/1　黄灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト～細砂〈第10a層〉
36　2.5Y8/4　淡黄　細砂～粗砂・小礫（ラミナあり）〈第10b層〉
37　2.5Y5/2　暗灰黄　2.5Y8/2　灰白　シルト混極細砂～細砂
〈第11‐１a層下面　294溝〉
38　10GY5/1　緑灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂〈第11‐１a層〉
39　7.5Y5/1　灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト～細砂（シルトの
ブロックを含む）〈第11‐１a層下面　293溝〉
40　2.5Y5/1　黄灰　シルト混中砂～粗砂・小礫（シルトのブロックを含む）
〈第11‐２a層〉
41　2.5Y6/6　明黄褐　中砂～粗砂・小礫（シルトのブロックを多く含む）
〈第11‐２a層下面　299溝〉
42　10Y5/1　灰　粗砂混シルト〈第11‐２a層か〉
43　10Y4/1　灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト～細砂〈第11‐２a層〉
44　2.5Y7/3　浅黄　細砂～粗砂・小礫　〈第11‐２b層〉
45　2.5Y7/3　浅黄　極細砂～中砂（粗砂～小礫を含む）〈第11‐２b層
第12a層上面　338溝〉
46　5B5/1　青灰　粗砂～小礫を少し含むシルト〈第11‐２b層
第12a層上面　338溝〉
47　10BG5/1　青灰　粗砂～小礫を含む　シルト〈第11‐２b層〉
48　5BG5/1　青灰　粗砂～小礫を含む　シルト〈第12a層〉
49　5BG5/1　青灰　シルト〈第12a層〉
50　2.5Y5/1　黄灰　シルト混細砂～粗砂・小礫（土壌化）
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
51　2.5Y6/4　にぶい黄　細砂～粗砂・小礫〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
52　2.5Y6/4　にぶい黄　極細砂～粗砂・小礫（ラミナあり）
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
53　5Y5/2　灰オリーブ　シルト～極細砂〈第13‐１a層上面　446溝〉
54　5Y5/1　灰　シルト～中砂（炭化物片を含む）〈第13‐１a層上面　446溝〉
55　5Y5/3　灰オリーブ　極細砂～中砂〈第13‐１a層上面　446溝〉
56　10BG5/1　青灰　シルト～極細砂〈第13‐１a層上面　446溝〉
57　10BG5/1　青灰　シルト（粗砂～小礫を少し含む）
〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
58　5BG5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
59　7.5Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含む極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
60　2.5GY5/1　オリーブ灰　小礫混シルト（極細砂のブロックを多く含む）
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
61　2.5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫（極細砂の薄層を含む）
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
62　5Y5/3　灰オリーブ　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂（極細砂の
ブロックを含む）〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
63　5Y6/3　オリーブ黄　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
63’　2.5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫を含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
64　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
65　5Y6/4　オリーブ黄　シルト混極細砂～中砂（粗砂～小礫を含む）
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
66　5Y6/1　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
67　10Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層下面　土坑〉
68　5Y6/3　オリーブ黄　粗砂～小礫を非常に多く含む　シルト混極細砂
（極細砂のブロックを含む）〈第13‐１a層上面　溝群最上層下面　土坑〉
69　5Y4/1　灰　粗砂～小礫を多く含む　シルト混極細砂
（シルトの小ブロックを含む）〈第13‐１a層上面　溝群最上層下面　土坑〉
70　5Y6/2　灰オリーブ　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
（極細砂のブロックを含む）〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
71　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
72　5Y6/2　灰オリーブ　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
73　84に63のブロックが混じる〈第13‐１a層上面　溝群最上層〉
74　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
75　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
76　5Y5/2　灰オリーブ　シルト混細砂～粗砂・小礫〈第13‐１a層上面　溝〉
77　5Y4/1　灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝〉
78　5B5/1　青灰　粗砂～小礫を多く含むシルト〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
79　5Y4/2　灰オリーブ　粗砂～小礫混シルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
80　5Y4/1　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
81　2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂～小礫混シルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
82　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含むシルト〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
83　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト（Y=－34,120以東は粗砂
～小礫減）〈第13‐１a層上面　溝群上層〉
84　5GY5/1　オリーブ灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝〉
85　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト
〈第13‐１a層上面　398溝〉
86　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　399溝〉
87　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂〈第13‐１a層上面　399溝〉
88　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を非常に多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝〉
89　5Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝〉
90　2.5Y5/1　黄灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層上面　溝〉
91　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト（第13b層等の小ブロックを含む）
〈第13‐１a層上面　溝〉
92　5Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂（第13b層のシルトブロックを
含む）〈第13‐１a層上面　溝〉
93　5B4/1　暗青灰　粗砂～小礫混シルト（第13b層のシルトブロックを含む）
〈第13‐１a層上面　溝〉
94　5Y5/1　灰　粗砂～小礫を多く含むシルト～極細砂
〈第13‐１a層上面　溝〉
95　5B5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂〈第13‐１a層上面　溝〉
96　10Y5/1　灰　シルト混粗砂～小礫〈第13‐１a層上面　溝〉
97　5B4/1　暗青灰　粗砂混シルト〈第13‐１a層上面　404溝〉
98　2.5Y4/2　暗灰黄　シルト（7.5Y7/4　浅黄　第13b層のブロックを含む）
〈第13‐１a層上面　404溝〉
99　N5/0　灰　粗砂～小礫混シルト〈第13‐１a層〉
100　N4/0　灰　シルトまたはシルト～極細砂〈第13‐２a層〉
101　5Y3/1　オリーブ黒　シルト〈第13‐２a層段階　431溝〉
102　N5/0　灰　シルト〈第13‐２a層段階　411溝〉
103　5B6/1　青灰　5Y6/4　オリーブ黄　シルト～極細砂〈第13b層〉
104　5B6/1　青灰　2.5Y6/4　にぶい黄　シルト～極細砂〈第13b層〉
105　5Y6/3　オリーブ黄　シルト混細砂



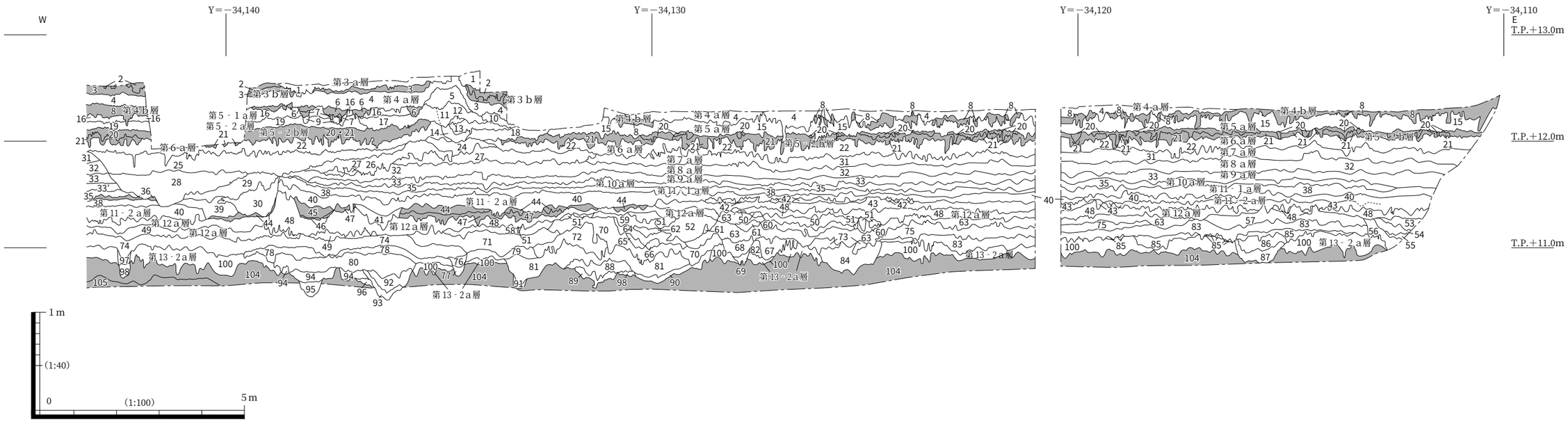
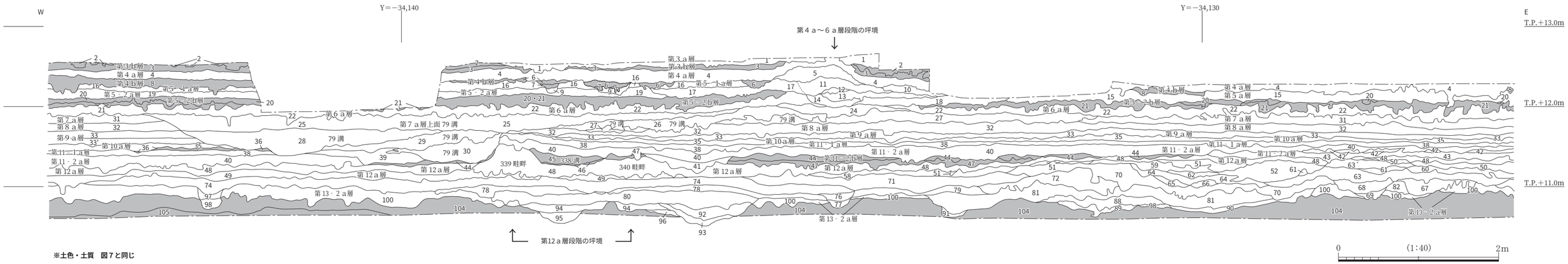
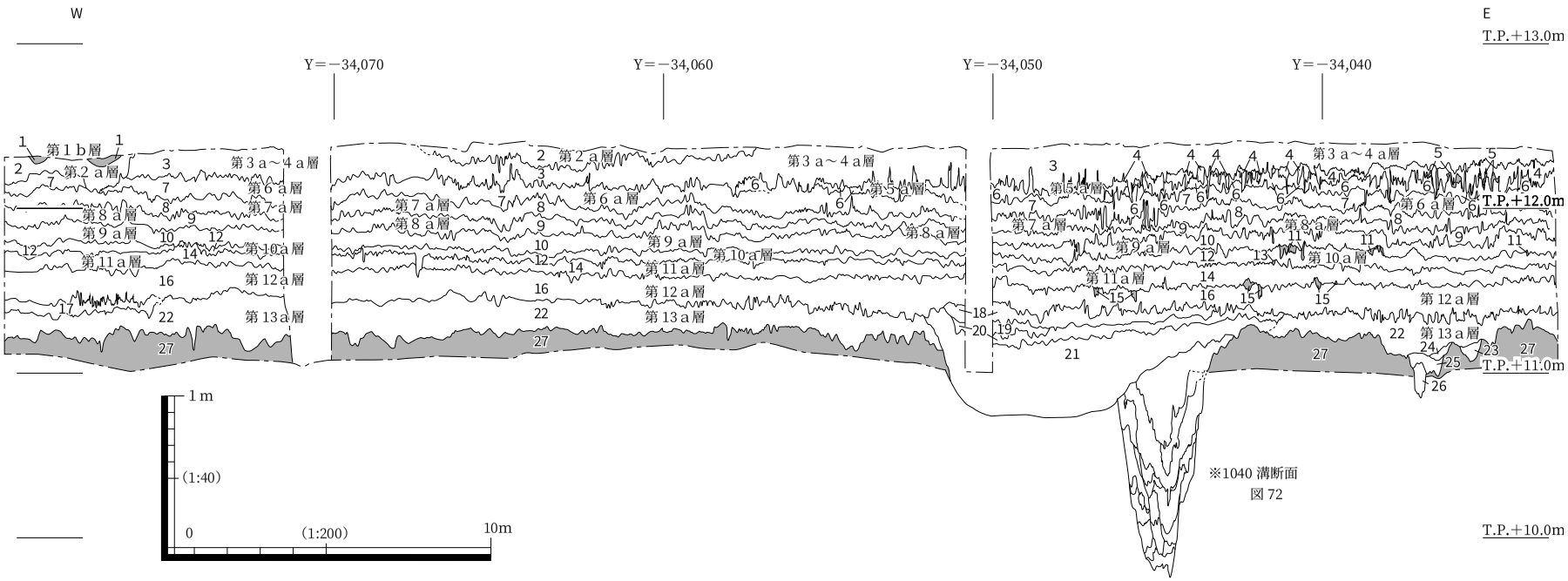


図７　１区　東西（X=－155,420）断面図



※土色・土質　図７と同じ

図８　１区　坪境部分　東西（X=－155,420）断面図（図７の拡大部分）



1　5Y7/4　浅黄　極細砂〈第１ｂ層〉
2　5GY7/1　明オリーブ灰　粗砂～小礫混シルト、
　2.5Y7/4　浅黄　極細砂～細砂のブロックを含む〈第２ａ層〉
3　2.5Y6/3　にぶい黄　粗砂～小礫混シルト～細砂〈第３ａ～４ａ層〉
4　2.5Y7/4　浅黄　粗砂～小礫混極細砂～細砂と
　2.5Y6/1　黄灰　シルトの混合〈第３ａ～４ａ層〉
5　2.5Y6/1　黄灰　シルト〈第４ｂ層〉
6　10BG6/1　青灰　粗砂混シルト～極細砂〈第５ａ層〉
7　10BG6/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～細砂〈第６ａ層〉
8　10BG5/1　青灰　極細砂混シルト（粗砂を少し含む）〈第７ａ層〉
9　5G4/1　暗緑灰　シルト～極細砂（粗砂を少し含む）〈第８ａ層〉
10　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　シルト混極細砂（粗砂を少し含む　第８ａ層より砂粒多め、暗色化）〈第９ａ層〉
11　2.5Y7/3　浅黄　極細砂と 2.5Y6/1　黄灰　シルトの混合〈第９ｂ層　足跡・耕作痕〉
12　5Y5/1　灰　シルト混極細砂～細砂（粗砂を少し含む）〈第 10ａ層〉
13　5Y8/3　淡黄　極細砂〈第 10ｂ層　足跡・耕作痕〉
14　5Y5/1　灰　粗砂混シルト～細砂〈第 11ａ層〉
15　2.5Y7/4　浅黄　極細砂～細砂乱れ〈第 11ｂ層　足跡・耕作痕〉
16　5B5/1　青灰　粗砂～小礫を含むシルト〈第 12ａ層〉
17　5B3/1　暗青灰　シルト〈第 13ａ層〉
18　10G5/1　緑灰　細砂混シルト（粗砂～小礫を少し含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
19　N4/0　灰　極細砂混シルト（炭化物の小片を少し含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
20　N3/0　暗灰　シルト（炭化物の小片を多く含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
21　5B3/1　暗青灰　シルト～細砂等〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
22　7.5Y4/1 灰　極細砂混シルト〈第 13ａ層〉
23　5B4/1　暗青灰　シルト～極細砂（第 13ｂ層のブロックを含む）
24　5B3/1　暗青灰　極細砂混シルト（粗砂～小礫を少し含む）〈第 13ａ層下面検出　1021 溝〉
25　5B5/1　青灰　極細砂混シルト〈第 13ａ層下面検出　1021 溝〉
26　5B5/1　青灰　極細砂混シルト、
　5G6/1　緑灰　極細砂（第 13ｂ層）のブロックを多く含む〈第 13ａ層下面検出　1017 溝〉
27　5B6/1　青灰　シルト～極細砂
　10GY6/1　緑灰　シルト～極細砂〈第 13ｂ層〉

図９　２区　東西（X＝－155,420）断面図

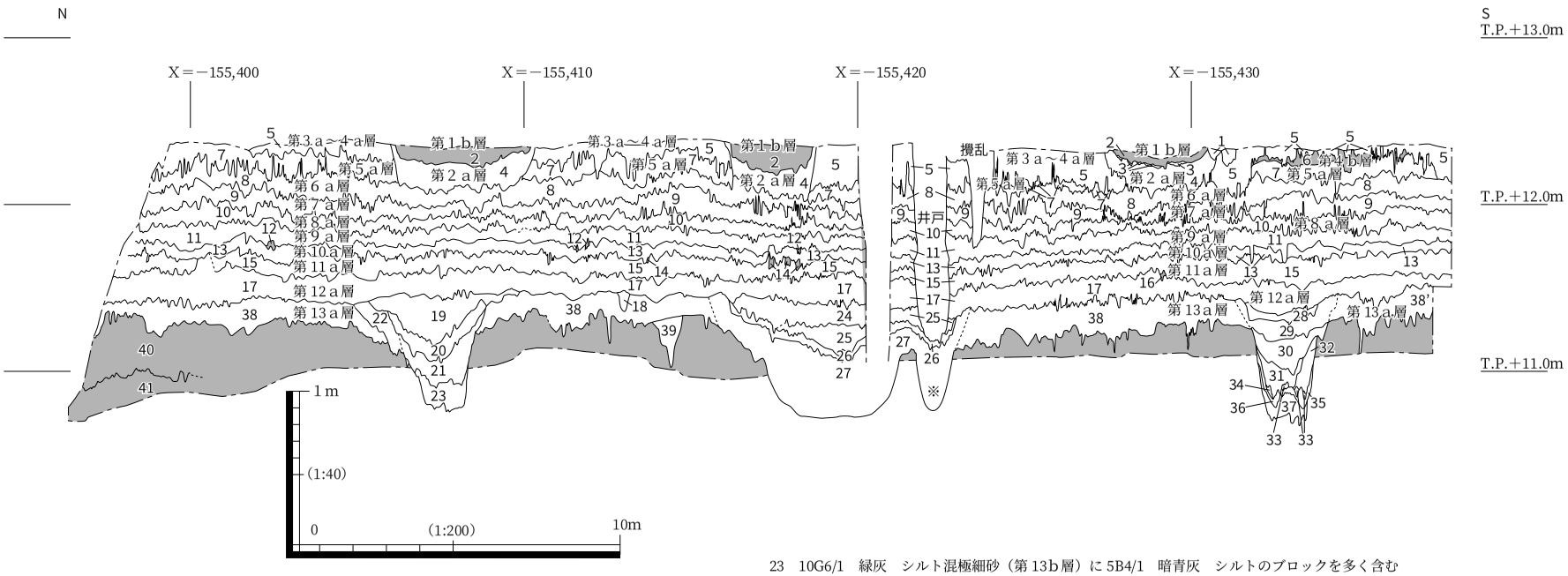


図 10　2 区　南北（Y=－34,050）断面図

1　10YR8/4　浅黄橙　細砂～粗砂・小礫、
　2.5Y5/1　黄灰　細砂～粗砂混シルトがブロック状に混合〈災害復旧土坑〉
2　5Y7/4　浅黄　極細砂〈第１ｂ層〉
3　5G6/1　緑灰　シルト〈第２ａ層〉
4　5BG5/1　青灰　粗砂～小礫混シルト〈第２ａ層〉
5　2.5Y6/3　にぶい黄　粗砂～小礫混シルト～細砂〈第３ａ～４ａ層〉
6　2.5Y5/1　黄灰　シルト～極細砂〈第４ｂ層〉
7　10BG6/1　青灰　粗砂混シルト～極細砂〈第５ａ層〉
8　10BG6/1　青灰　粗砂～小礫混シルト～細砂〈第６ａ層〉
9　10BG5/1　青灰　極細砂混シルト（粗砂を少し含む）〈第７ａ層〉
10　5G4/1　暗緑灰　シルト～極細砂（粗砂を少し含む）〈第８ａ層〉
11　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　シルト～極細砂（粗砂を少し含む　第８ａ層より砂粒多め、暗色化）〈第９ａ層〉
12　2.5Y8/3　淡黄　細砂　（10Y5/1　灰　極細砂の薄層を含む）〈第９ｂ層　足跡・耕作痕〉
13　5Y5/1　灰　シルト混極細砂～細砂（粗砂を少し含む）〈第 10ａ層〉
14　5Y7/4　浅黄　極細砂～細砂、10G5/1　緑灰　シルト〈第 10ｂ層　足跡・耕作痕〉
15　5Y5/1　灰　粗砂混シルト～細砂〈第 11ａ層〉
16　2.5Y7/4　浅黄　極細砂～細砂〈第 11ｂ層　足跡・耕作痕〉
17　5B5/1　青灰　粗砂～小礫を含むシルト〈第 12ａ層〉
18　5BG5/1　青灰　シルト（細砂の薄層を含む）
19　5B5/1　青灰　シルト～細砂（粗砂～小礫を少し含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
20　N4/0　灰　シルト（炭化物の薄層と 2.5GY8/1　灰白　シルト～極細砂の薄層を含む）
　〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
21　5B4/1　暗青灰　シルト（極細砂の薄層を含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
22　7.5Y5/1　灰　シルト混極細砂〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
23　10G6/1　緑灰　シルト混極細砂（第 13ｂ層）に 5B4/1　暗青灰　シルトのブロックを多く含む
　（2.5Y8/2　灰白　極細砂の薄層あり）〈第 13ａ層上面　1011 周溝　加工時形成層〉
24　10G5/1　緑灰　細砂混シルト（粗砂～小礫を少し含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
25　N4/0　灰　極細砂混シルト（炭化物の小片を少し含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
26　N3/0　暗灰　シルト（炭化物の小片を多く含む）〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
27　5B3/1　暗青灰　シルト～細砂等〈第 13ａ層上面　1011 周溝〉
28　N3/0　暗灰　シルト（炭化物の小片を少し含む）〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
29　5B5/1　青灰　シルト～極細砂〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
30　5B4/1　暗青灰　極細砂混シルト〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
31　5B3/1　暗青灰　シルト　（炭化物の薄層を含む）〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
32　5B4/1　暗青灰　シルトと細砂がブロック状に混合（第 13ｂ層のブロックを含む　墳丘側からの堆積）
　〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
33　10G6/1　緑灰　第 13ｂ層のブロック〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
34　10G4/1　暗緑灰　シルトと極細砂～細砂（第 13ｂ層）の互層〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
35　N4/0　灰　シルト（特に南肩部分に多く第 13ｂ層の小ブロックを含む　炭化物の小片を少し含む　墳丘側からの堆積）
　〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
36　5B4/1　暗青灰　シルト（第 13ｂ層のブロックを含む）〈第 13ａ層上面　1012 周溝〉
37　10GY6/1　緑灰　シルト混極細砂（第 13ｂ層）主体　N4/0　灰　シルトの小ブロックを含む
　〈第 13ａ層上面　1012 周溝　加工時形成層〉
38　7.5Y4/1　灰　シルト～極細砂（粗砂～小礫を少し含む　上部の方がシルト質強い　南部ではシルト～細砂）〈第 13ａ層〉
38’　7.5Y4/1　灰　シルト～細砂　（粗砂～小礫を少し含む　第 13ｂ層のブロックを含む）〈第 13ａ層〉
39　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　シルト～極細砂
　（10G6/1　緑灰　シルト混極細砂（第 13ｂ層）のブロックを多く含む）
40　2.5Y7/3　浅黄　シルト混極細砂〈第 13ｂ層〉
41　2.5Y7/2　灰黄　極細砂混シルト
※　第 13ａ層段階　1021 溝　上位の撹乱の影響で不明瞭

第2節　各遺構面の遺構と遺物

第１項　第４ａ層上面

表土から近世の作土層である第３ａ層までを機械掘削により除去し、第４ａ層から人力掘削による調査を行なった。

第３ａ層は、小礫を含むにぶい黄橙～明黄褐色極細砂～粗砂と、褐灰色シルト～細砂がブロック状に混合する作土層である。第４ａ層は、細砂・シルトの小ブロックを含む青灰色シルト～細砂で、厚さ約0.1ｍである。なお、第５‐１ａ層上面の項で詳述するが、第４ｂ層（浅黄色極細砂～細砂と暗緑灰色シルトの薄層の互層）が部分的に遺存しており、それが母材と考えられる。

第４ａ層上面の遺存状況は、東西に長い調査区の西部と東部で異なる。

調査区西部では、隣接する先行調査区の成果を踏まえて法面等の断面観察を行ない、第３ａ層段階に、第３ｂ層上に盛土を施した島畠群が営まれていたことを確認した。東西方向に長い島畠群で、島畠間の低平な部分の第３ａ層も作土層とみられることから、島畠間は水田であったと考えられる。北側の（その８）調査区の第３ａ層上面323～328島畠（第322集　図９・16参照）と同様のものであり、西側の（その６）調査区の第２‐４ｂ面３・６・７土坑＝水田（第314集　図９・12参照）の続きである。水田部分では、第３ａ層段階の耕作による攪拌が第４ａ層まで及んでおり、第３ｂ層は遺存していない。つまり、第４ａ層上面は、第３ａ層段階に島畠となった範囲では第３ｂ層に被覆されており、第３ａ層段階で水田となった範囲では削平を受けている。

調査区東部では、第３ａ層段階の耕作に伴う攪拌が第４ａ層まで及んでおり、第４ａ層上面は削平を受けている。また、法面等の断面観察により、第２ａ層段階に、第３ａ～６ａ層を掘削して地下げする手法で島畠群が造られていたことを確認している。東西方向に長い島畠と水田で、掘り下げた部分を水田、掘削土を盛り上げた部分を島畠としたとみられる。第２ａ層段階に水田となった部分では、第４ａ層自体が遺存していない。

上記の遺構面の遺存状況を踏まえ、第４ａ層上面の調査は、１区西部を対象として実施した。機械掘削は、遺構面を傷つけないよう第３ｂ層を残して行なった。

１区西部の第３ａ層段階に島畠であった部分では、第４ａ層上面は第３ｂ層に被覆されており、遺構面の遺存状況は非常に良好であった。第３ｂ層は、第３ａ層の母材となる堆積層で、厚さ約0.1ｍが遺存していた。上位が浅黄橙～灰黄褐色極細砂～中砂、下位が青灰色シルトで、ラミナが認められる。第４ａ層上面は、厚さ数㎝の下位シルト層に被覆されていた。

第３ａ層段階に水田となった部分では、第４ａ層上面が削平されていることは先述した。ただし、南半部では、北半部同様に第３ａ層段階に島畠と水田は営まれていたものの、水田部分においても第３ａ層段階の攪拌が第４ａ層に及んでいない範囲がみられた。

第４ａ層上面は、１区西部ではT.P. 12.4～12.5ｍである。北側に接する（その８）調査区の第４ａ層上面、西側に接する（その６）調査区の第３ａ面に対応する。

第４ａ層上面の遺構（図８・11・12　図版２・３）

南北方向の畦畔３条及び東西方向の畦畔５条を検出した。

南北方向の畦畔のうち１区中央部（第４ａ層上面検出範囲の東端部）に位置する１畦畔は、幅約1.1ｍ、遺存している高さ約0.2ｍで、他の畦畔に比べて規模が大きい。遺跡周辺に現在もみられる条里型地割

の坪境の位置にあたっており、坪境畦畔であると考えられる。なお、坪境畦畔周辺の第３ｂ層は比較的厚く、特に上位砂層に粗砂～小礫が目立つ。砂層が遺構面及び畦畔を抉って堆積している箇所もみられた。抉り痕跡から、坪境畦畔周辺の第３ｂ層の堆積方向は南西から北東方向と推定できる。

そのほかの畦畔はいずれも幅 0.4 ～ 0.5 m、高さ 0.1 m未満であり、坪内を区画するものと思われる。３～５・７・８畦畔が東西方向、２・６畦畔が南北方向である。

東西方向の畦畔は、3～5・7畦畔を１畦畔（坪境）以西で、8畦畔を１畦畔（坪境）以東で検出した。１畦畔（坪境）以西の畦畔は、北から順に４畦畔と７畦畔の間が約 10.0 m、７畦畔と５畦畔の間が約 9.5 m、５畦畔と３畦畔の間が約 10.4 mであり、坪内をほぼ等間隔で区画していたと考えられる。なお、４畦畔は西側の（その６）調査区の第３ａ面５畦畔、５畦畔は同 13 畦畔、３畦畔は同 14 畦畔の続きと思われる。（その６）調査区の第３ａ面２畦畔の存在から、４畦畔の北約 10.0 mの地点にあたる調査区北端部にも畦畔が存在したと考えられるが、第３ａ層段階の水田範囲にあたっており、遺存していなかった。

１畦畔（坪境）以東は、現代坪境水路による大規模な攪乱が存在し、遺構面の遺存状況は良くない。かろうじて１畦畔（坪境）に取り付く東西方向の８畦畔を検出し得た。１畦畔（坪境）西側の７畦畔の延長上に位置しており、坪境の東側も西側と同様に、等間隔の東西畦畔で区画されていた可能性が高い。

南北方向の２畦畔は、東西方向の７畦畔以北で検出した。１畦畔（坪境）の約 14.0 m西側に位置する。同じく南北方向の６畦畔は、東西方向の７畦畔以南で検出した。坪境畦畔の西側肩から約 2.1 m西側に位置する。

東西方向の畦畔は、いずれも１畦畔（坪境）に接続している。１畦畔（坪境）以西の３～５・７畦畔では、坪境畦畔との接続箇所で、上端で 0.3 ～ 0.4 m、下端で 0.1 ～ 0.2 m分、畦畔が途切れる箇所を確認した。第３ｂ層下位のシルト層に被覆されており、水口であると思われる。さらに、５・７畦畔では、南北方向の６畦畔との交点西側でも水口を確認した。規模、検出状況とも上記の水口と同様である。３畦畔と６畦畔の交点には水口は存在しない。すべての水口が南北方向に開口するものであることから、わずかに地形の高い南から北へと水をかけ流していたことが窺われる。

個別の畦畔の遺存状況と検出状況について、記しておく。いずれの畦畔も、１畦畔（坪境）付近においては、比較的厚い第３ｂ層に被覆され、遺存状況は良好であった。４畦畔は、調査範囲中央部では第３ａ層段階の水田範囲の北端と重複し、遺存していない。調査区西端部で、わずかに遺存した第３ｂ層により畦畔の基部を検出した。７畦畔は、１畦畔（坪境）より調査範囲中央部までを検出したが、西部では第３ａ層段階の水田範囲南端と重複し、遺存していない。検出した部分も、北肩が削平を受けている。５畦畔は、攪乱のある調査区西端部以外で検出したが、第３ａ層段階の水田範囲の南端にあたっており、その北肩はやや削平を受けている（図 12）。第４ａ層上面の畦畔が、第３ａ層段階の水田範囲の北端または南端に位置していることは、第３ａ層段階に、第４ａ層段階の土地区画を踏襲し、島畠を一筆の北端または南端に寄せて造ったことを示している。

第３ａ層、第３ｂ層出土遺物

第３ａ層からは、土師器皿、瓦質土器、須恵器、青磁碗、瓦が出土している。第３ｂ層からは、土師器、須恵器杯、瓦質土器等が出土している。少量の小片であり、詳細な時期が知れるものはないが、中世後期以降のものがみられる。

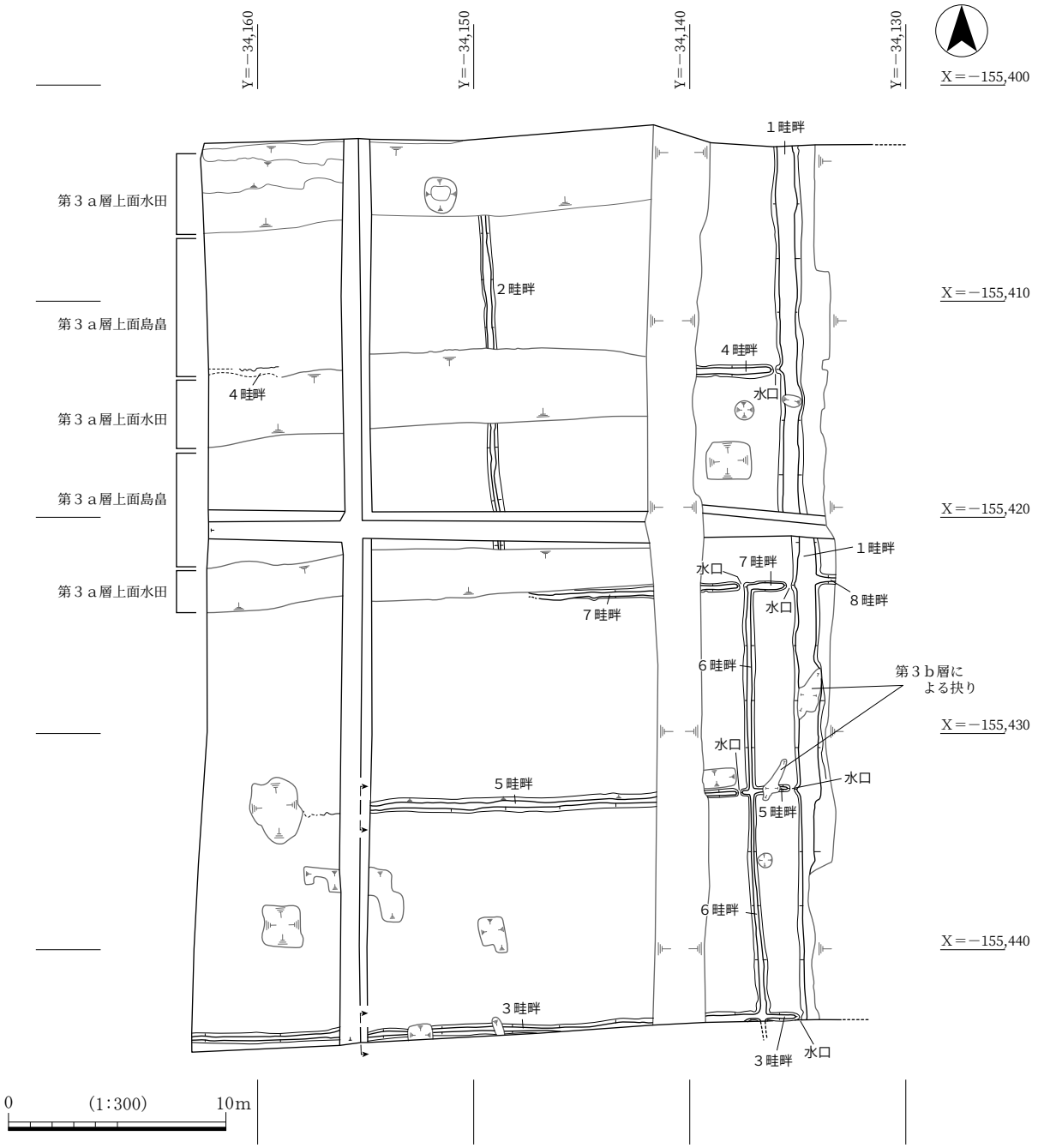
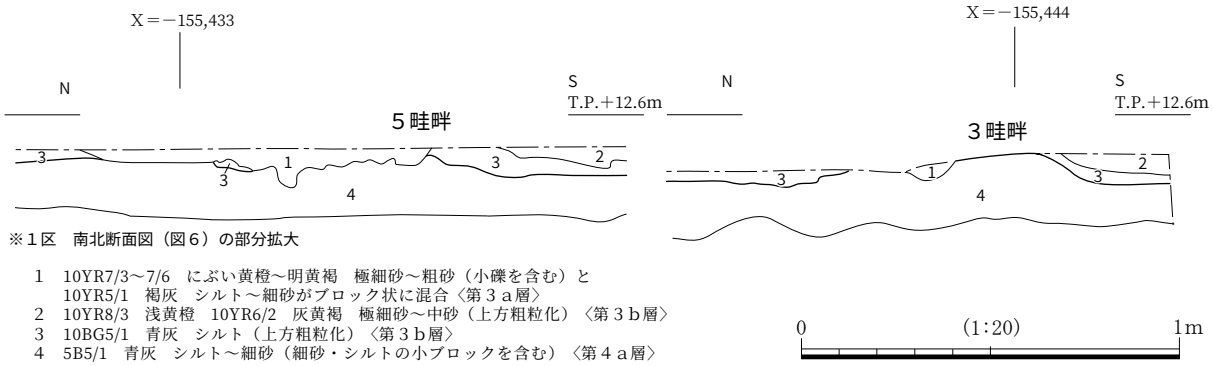


図 11　第４ａ層上面　平面図



※１区　南北断面図（図６）の部分拡大

1　10YR7/3～7/6　にぶい黄橙～明黄褐　極細砂～粗砂（小礫を含む）と
　　10YR5/1　褐灰　シルト～細砂がブロック状に混合〈第３ａ層〉
2　10YR8/3　浅黄橙　10YR6/2　灰黄褐　極細砂～中砂（上方粗粒化）〈第３ｂ層〉
3　10BG5/1　青灰　シルト（上方粗粒化）〈第３ｂ層〉
4　5B5/1　青灰　シルト～細砂（細砂・シルトの小ブロックを含む）〈第４ａ層〉

図 12　第４ａ層上面　畦畔　断面図（Y= － 34,155）

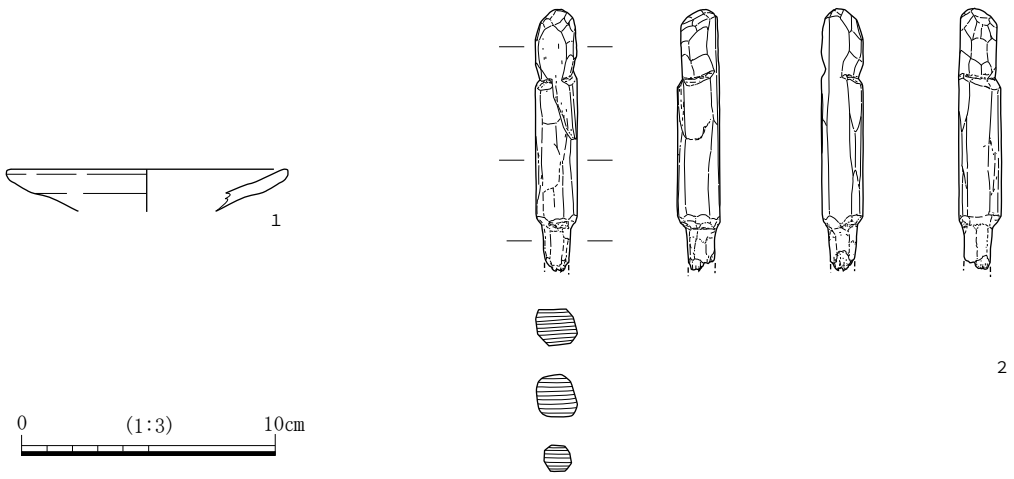


図 13　第４ａ層　出土遺物

第４ａ層出土遺物（図 13　図版 30）

土師器皿（１）、瓦器椀、瓦質土器鉢・羽釜、須恵器杯・甕、瀬戸焼筒形香炉、瓦、木製品が出土している。木製品（２）は、１畦畔（坪境）南端部で出土した。器種等不明であるが、片方の端部が差し込めるような仕様であり、他のものと組み合わせて使用された可能性もある。樹種同定を実施し、スギとの結果を得ている。遺物は全体として少量の小片であり、詳細な時期がわかるものはない。

第２項　第５‐１ａ層上面、第５‐２ａ層上面、（第５‐２ａ層下面）

第５ａ層は、１区西部（坪境より西側）では、第５‐１ａ層、第５‐２ａ層の２層に分層した。両層は酷似しているが、部分的に第５‐１ｂ層が挟在していることで分層できる。当該範囲では、第５‐１ａ層上面、第５‐２ａ層上面で調査を実施した。それ以外の範囲（１区の坪境より東側と２区）では、第５ａ層上面で調査を行なった。第５‐２ａ層の直下には第５‐２ｂ層がみられるが、１区東部の第５ａ層直下にも同質の堆積層が認められる。１区東端部から２区にかけては第５‐２ｂ層は認められない。なお、１区南西部では、第５‐２ａ層を除去したその下面（第５‐２ｂ層上）において、溝を検出している。

第５‐１ａ層は、シルト・極細砂の小ブロックを含む青灰色シルト～極細砂で、厚さ約 0.1 mである。第５‐１ｂ層は、シルト～極細砂の堆積層で極めて薄く、１区西部（坪境より西側）で断面観察により断片的に確認できる。第５‐２ａ層は、シルト・極細砂の小ブロックを含む青灰色シルト～極細砂で、厚さ約 0.1 mである。第５‐２ｂ層は、上層が細砂の薄層を含む青灰色シルト～極細砂、下層が青灰色シルトである。

第５‐１ａ層上面は T.P. 12.3 m、第５‐２ａ層上面は T.P. 12.2 mである。これらの遺構面は、北側に接する（その８）調査区の第５‐１ａ層上面、第５‐２ａ層上面、第５‐２ａ層下面にそれぞれ対応する。西側に接する（その６）調査区とは、その第４ａ面と第５‐１ａ層上面が対応する。

第５‐１ａ層上面・第５ａ層上面の遺構と遺物（図８・14・15　図版３・４）

第４ａ層作土層を除去した第５‐１ａ層及び第５ａ層上面である。第４ａ層段階の耕作に伴う攪拌により削平を受けており、遺構面の遺存状況は良好ではないが、１区西部を中心に溝を検出した。

１区では、９～ 51 溝を検出した。

50 溝は、１区中央部に位置する南北方向の溝である。幅 0.9 ～ 2.0 m、深さ約 0.3 mで、ラミナの

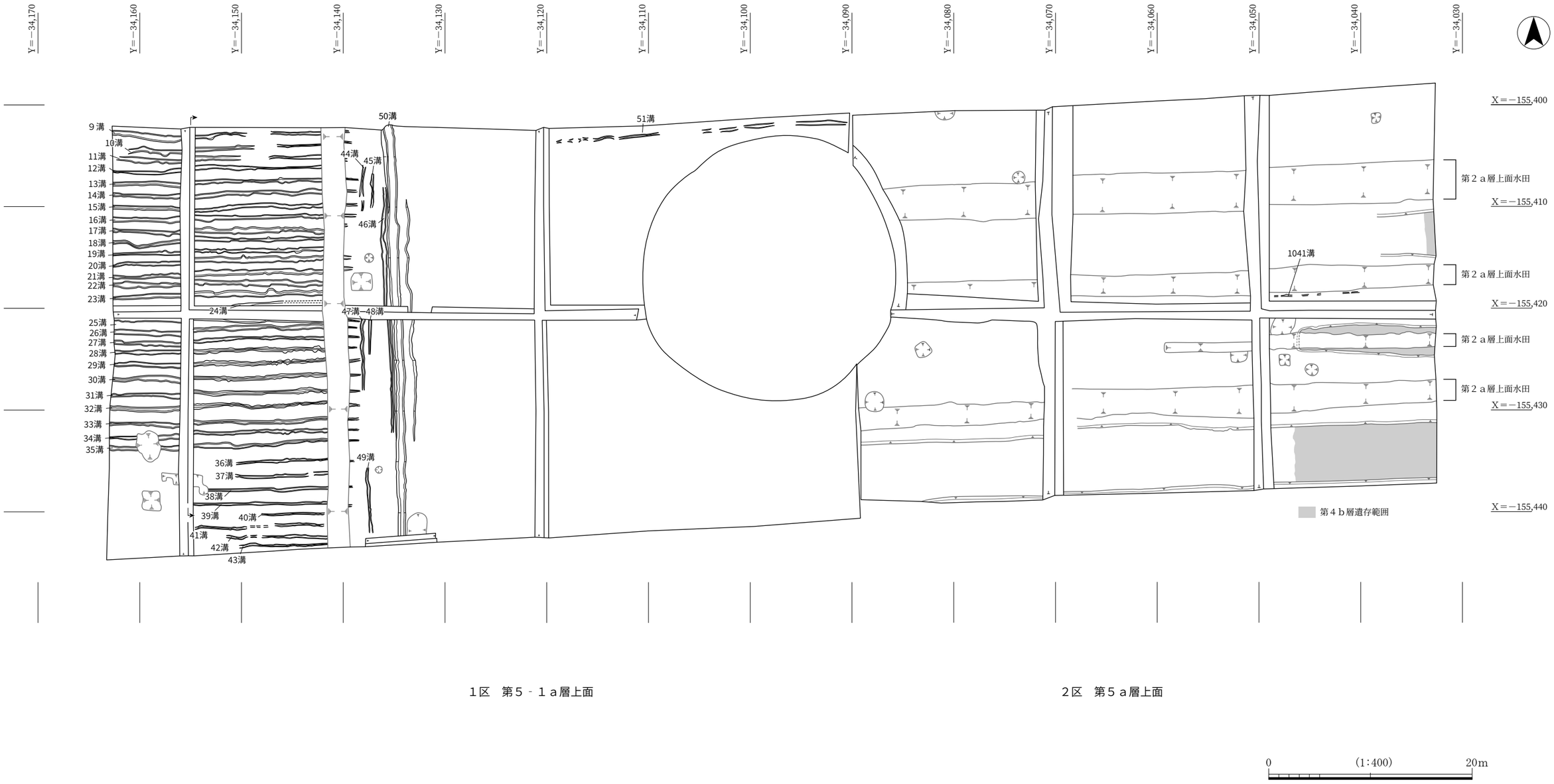


図 14　第５‐１ａ層・第５ａ層上面　平面図

認められるシルト～細砂が埋積している。位置からみて坪境にあたると考えられる。上層部から土師器皿、瓦質土器鉢、瓦が、下層部から土師器皿、瓦器椀、瓦質土器羽釜、須恵器、板状の木片が出土している。詳細な時期のわかるものはないが、中世後期のものがみられる。北側の（その８）調査区の第５‐１ａ層上面 119 溝（新）と同一の溝である。なお､第４ａ層上面の１畦畔（坪境）とその位置が重なる。

９～ 43 溝は、50 溝（坪境）より西側で検出した、東西方向の溝群である。第４ｂ層とみられる、極細砂～細砂とシルトの薄層の互層が埋積している。幅約 0.4 m、深さ約 0.1 mで、一定の間隔で並行しており、畝間溝であると思われる。第４ａ層段階の耕作に伴う攪拌は、溝間の畝立にあたる部分は削平したものの、畝間の低い部分にまでは及ばなかったと考えられる。なお、いくつかの溝の底面には、第５‐１ａ層と区別し得る細砂混じりシルト～極細砂がみられ、機能時堆積層であると思われる。北側の（その８）調査区でも、坪境以西で同様な溝群が検出されている。

44 ～ 49 溝は、50 溝（坪境）の西側で検出した南北方向の溝である。東西方向の溝と規模、埋積土ともに同様である。遺存状況が比較的不良で、部分的に検出したに過ぎないが、50 溝（坪境）の西側３m程の範囲には、南北方向の畝立があったことがわかる。

51 溝は、１区北東部で検出した東西方向の溝である。規模、埋積土ともに上記の溝群と同様であり、50 溝（坪境）東側にも畝立があった可能性が高い。

２区では、第４ａ層上面の項に記した通り、第２ａ層段階の島畠造営により、第５ａ層自体が残っていない範囲がある。南東部では、東西方向の帯状に第４b 層が遺存する範囲を確認した。その範囲では第５ａ層上面が被覆されて遺構面が良好に遺存していたが、遺構は認められなかった。１区西部のような全面的に畝立が拡がる景観ではなかったことがわかる。ただし、２区東部中央で、第４ｂ層が埋積している東西方向の 1041 溝を検出している。規模も調査区西部の溝群と同様であり、２区にも畝立が造られていた可能性がある。

なお、２区の第４b 層は、その遺存範囲の方向と平面形からみて、その上に盛土を施して島畠が造られたことにより遺存したものと考えられる。ただし、２区南東部の第４ａ層以上の層準は、以西のものと層相が異なっており、その島畠がどの層準に対応するかは不明といわざるを得ない。

第５‐１ａ層上面及び第５ａ層上面では、坪内を区画する遺構は検出していない。ただ、１区西部の第４ａ層上面、第６ａ層上面の東西方向畦畔がほぼ同じ位置で検出されていることから、第５‐１ａ層上面でも同位置が土地の境界であった可能性がある。第５ａ層上面で想定される土地境の位置は、北から９溝、18 溝、27 溝、35 溝、調査区南端の辺りである。溝間つまり畝立ての規模を、１筆と想定される範囲毎にみると、９溝以南 17 溝までは概ね 0.9 m、17 溝以南 27 溝までは 0.5 mと 0.7 mが交互、27 溝以南 35 溝までは 1.0 m前後で、35 溝以南は北部の概ね 1.3 mから南部の 0.8 m前後へと徐々に小さくなる。想定範囲毎に畝立の規模に特徴が認められ、第５ａ層上面でも土地の境界が踏襲されていた可能性が高いと考えられる。

第４ｂ層、第５‐１ａ層、第５ａ層出土遺物（図 18　図版 30）

溝を埋積する第４ｂ層からは、土師器皿、瓦器、須恵器甕が出土している。

第５‐１ａ層からは、土師器皿、瓦器椀、瓦質土器擂鉢、須恵器甕等が出土している。１区東部の第５ａ層からは、土師器皿・煮炊具、瓦器椀、瓦質土器鉢・羽釜・甕、須恵器甕、青磁皿等が出土している。瓦質土器甕（５）は、第５ａ～５‐２ｂ層から出土した。焼成が甘く体部外面にタタキを施す。

２区の第５ａ層からは、土師器、瓦器椀、瓦質土器羽釜、須恵器杯･甕、白磁皿、瓦が出土している。

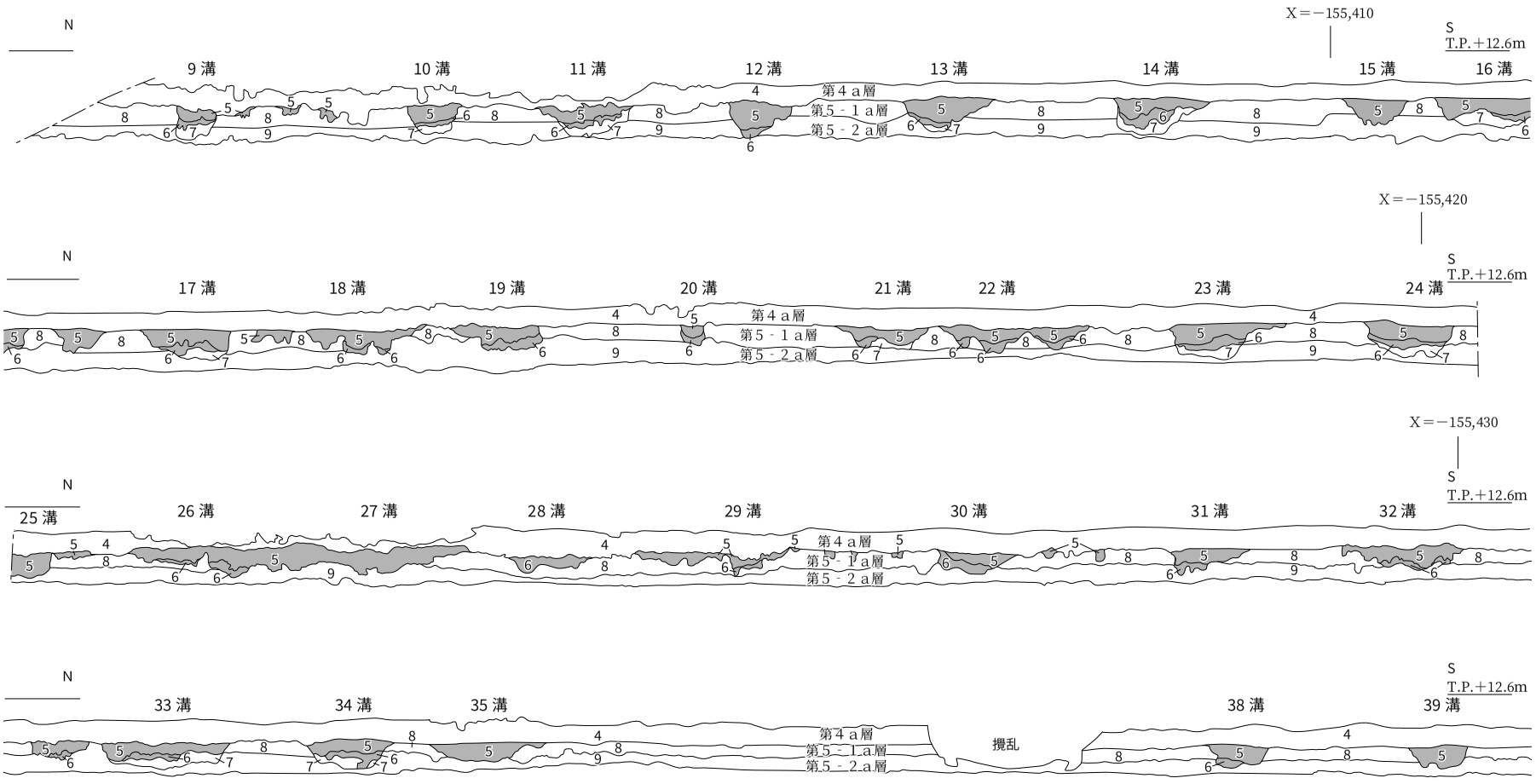


図15　第５－１ａ層上面　畝間溝群　断面図（Y=－34,155）（図６の部分拡大）

※１区　南北断面図（図６）の部分拡大　断面位置　図14

0　(1:40)　2m

4　5B5/1　青灰　シルト～細砂（細砂・シルトの小ブロックを含む）〈第４ａ層〉
5　10G5/1　緑灰　シルト～細砂（シルト・極細砂～細砂の薄層を含む　変形）〈第４ｂ層〉
6　2.5Y7/3　浅黄　極細砂～細砂と10G4/1暗緑灰シルト、薄層の互層（変形顕著なラミナあり）〈第４ｂ層〉
7　2.5Y7/3　浅黄　細砂混シルト～極細砂〈第５－１ａ層上面畝間溝機能時堆積層〉
8　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む　最下部にシルト～極細砂の変形した薄層（第５－１ｂ層）あり）〈第５－１ａ層〉
9　5B5/1　青灰　シルト～極細砂（シルト・極細砂の小ブロックを含む）〈第５－２ａ層〉　※８・９は酷似　８の下部にシルト～極細砂の変形した薄層（第５－１ｂ層）があることで分層できる

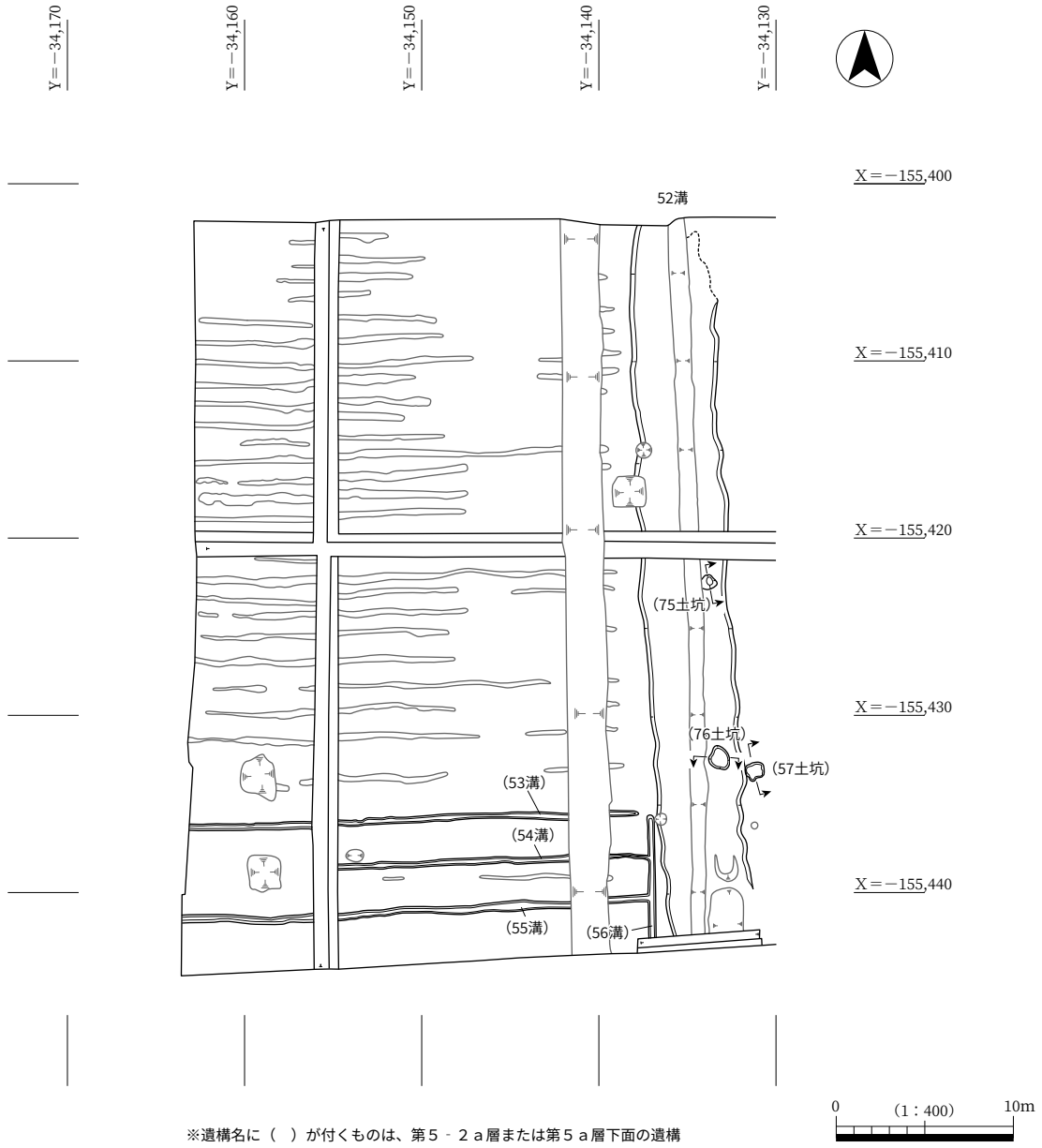
軒丸瓦（７）は、復元径 19.2 ㎝で、外縁の外側に平坦面を持つのが特徴である。瓦当面の遺存状態は良くないが、外区に珠紋帯がみられ、内区のＹ字状の盛り上がりは蓮華紋の間弁と思われる。瓦当裏面には全体に割れや剥離がみられる。

いずれも小片で詳細な時期のわかるものはないが、15 世紀を中心とする中世後期のものがみられる。

第５‐２ａ層上面の遺構と遺物（図８・16・18　図版３）

第５‐１ａ層を除去した第５‐２ａ層上面である。第５‐１ｂ層は極めて薄く断片的であり、第５‐１ａ層段階の耕作に伴う攪拌を受けて遺構面の遺存状況は良好ではない。１区中央部で溝を検出した。

52 溝は、１区中央部に位置する南北方向の溝である。幅約 5.0 m、深さ約 0.1 mである。その位置から坪境と考えられ、第５‐１ａ層上面の 50 溝と重複する。ラミナがみられるシルト～極細砂で埋積されている。遺物は、土師器皿、瓦器椀、瓦質土器鉢、須恵器甕、砥石（６）が出土している。北側の（その８）調査区の第５‐１ａ層上面 119 溝（古）と同一の溝である。



※遺構名に（　）が付くものは、第５‐２ａ層または第５ａ層下面の遺構

図 16　第５‐２ａ層上面・下面　平面図

第５‐２ａ層下面の遺構と遺物（図 16・17・18）

１区南西部では、第５‐２ａ層を除去した第５‐２ｂ層上で、溝４条を検出した。第５‐２ａ層で充填されており、第５‐２ａ層段階に掘削されたと考えられる。

56 溝は、南北方向で、第５‐２ａ層上面の 52 溝のすぐ西側に位置する。53 ～ 55 溝は、東西方向で、54・55 溝は東端が 56 溝に接続する。いずれも幅約 0.4 m、深さ約 0.1 mで、東西方向の 53・54 溝間と 54・55 溝間は、約 2.1 mである。（その８）調査区の北部でも坪境以西の第５‐２ａ層下面において、

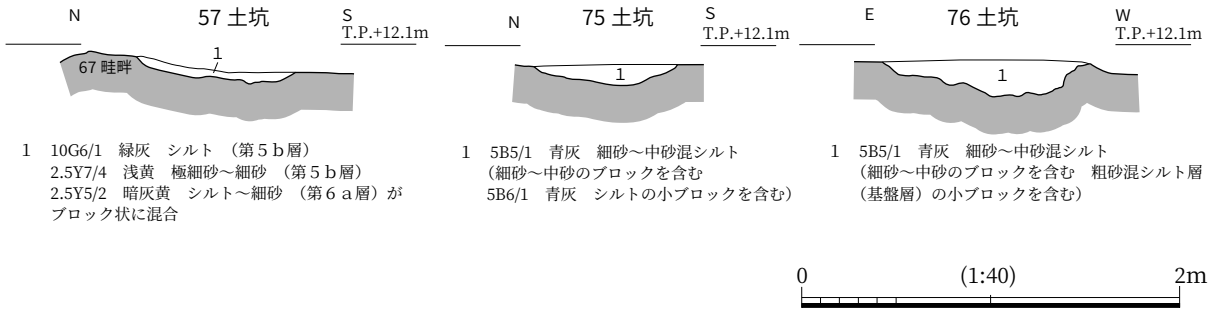


図 17　第５ａ層下面　土坑　断面図

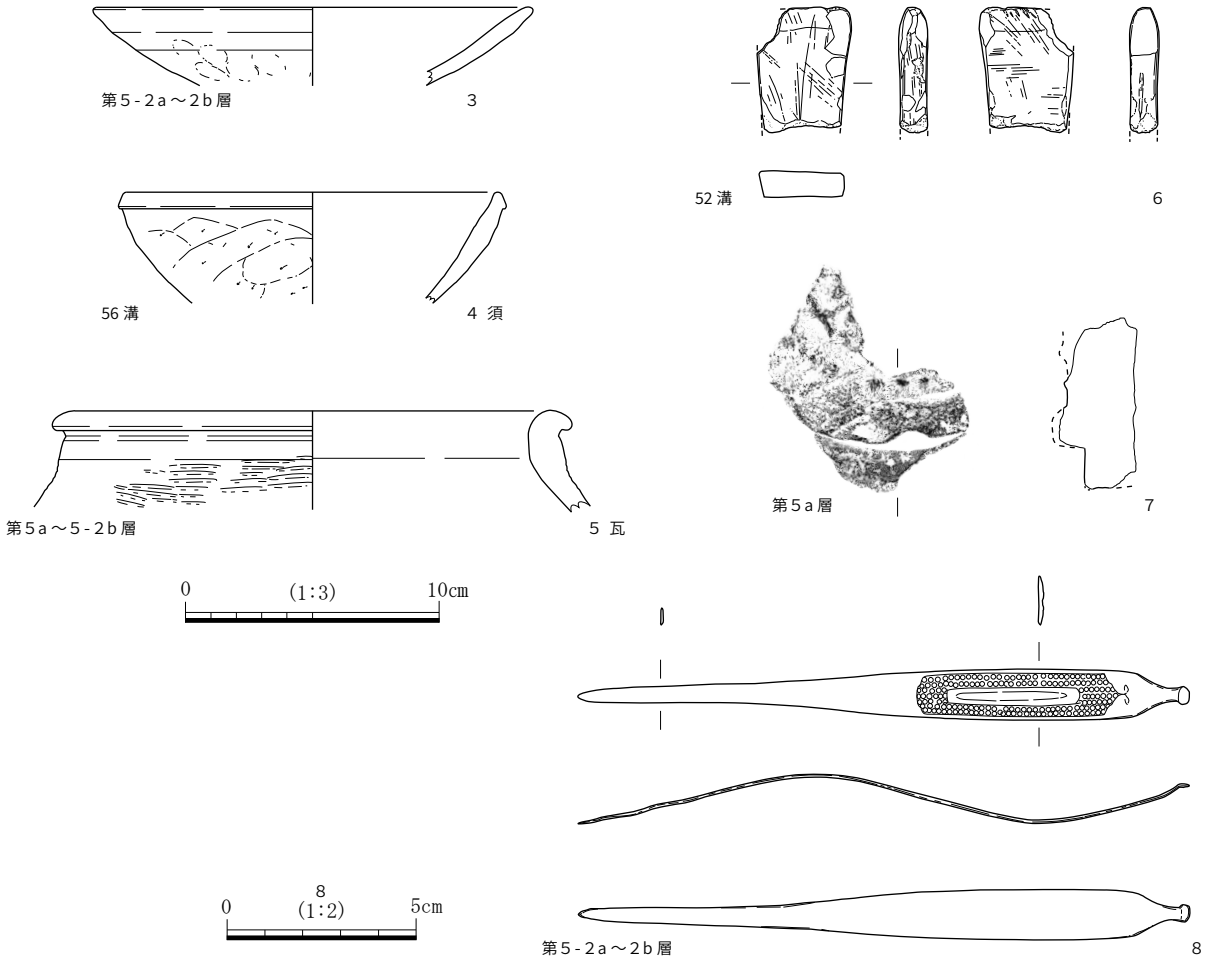


図 18　第５層、第５‐２ａ層上面　52 溝・下面　56 溝　出土遺物

同様の東西方向の溝（171 ～ 176 溝）を検出している。

54 溝からは土師器、55 溝からは土師器皿、瓦器椀、56 溝からは土師器羽釜、須恵器鉢（４）が出土している。

第６ａ層調査時に確認した土坑３基について、ここで報告しておく。75・76 土坑は、第６ａ層上面の坪境畦畔部分の第６ａ層を掘削中に確認した。どちらも不整な円形で、75 土坑が径約 0.8 m、深さ約 0.1 m、76 土坑が径約 1.1 m、深さ約 0.2 mである。埋土が第５ａ層に酷似しており、第５ａ層段階に掘削されたと考えられる。57 土坑は、第６ａ層上面で検出した。不整な方形で１辺約 0.8 m、深さ約 0.1 mである。埋土に第５ｂ層のブロックがみられ、第５ｂ層堆積後に掘削されたと考えられる。75・76 土坑の位置は、第４ａ層上面及び第６ａ層上面の南北方向坪境畦畔と東西方向畦畔の交点にあたる。57 土坑の位置は、第６ａ層上面の東西畦畔の南肩部にあたる。遺構面の遺存状況が良くないため第５ａ層段階の畦畔は確認していないが、これらの土坑の位置から、第５ａ層段階においてもほぼ同じ位置で土地区画されていた可能性が指摘できる。57 土坑から、土師器の細片が出土している。

第５‐２ａ層出土遺物（図 18）

第５‐２ａ層からは、土師器皿、瓦器椀、瓦質土器擂鉢、須恵器杯、瓦が出土している。笄（８）は、第５‐２ａ～２ｂ層から出土した。（その７）調査区第４ａ層出土のものと同種のものである。第５‐２ａ～２ｂ層から出土した土師器皿（３）が 15 世紀のものと思われるほか、中世後期のものがみられる。

第３項　第６ａ層上面

第６ａ層上面は、１区では東端部を除き、第５‐２ｂ層に被覆されている。第５‐２ｂ層は、上層が細砂の薄層を含む青灰色シルト～極細砂で、下層が均質な青灰色シルトである。ともに厚さ数㎝の堆積層で、下層シルトが第６ａ層上面を被覆している。ただ、遺構面の検出にあたっては、第５‐２ｂ層が比較的薄く、かつ第５‐２ｂ層、第６ａ層ともに変形が認められたため、困難が伴った。１区東端部から２区にかけては第５ｂ層がみられず、第６ａ層上面は第５ａ層段階の耕作に伴う攪拌により削平されている。

第６ａ層は、黄灰色中砂混じりシルト～細砂で、厚さ約 0.1 mである。第６ｂ層は、浅黄色シルト～中砂である。

第６ａ層上面は、１区で T.P. 12.0 m、２区で T.P.12.1 ～ 12.2 mである。北側に接する（その８）調査区の第６ａ層上面に対応する。

第６ａ層上面の遺構（図８・19 ～ 21　図版５・６）

１区において、南北方向の畦畔１条と東西方向の畦畔８条及び溝７条を検出した。

１区中央部では、南北方向の 58 畦畔を検出した。幅 2.0 ～ 2.3 m、遺存高約 0.2 mと規模が大きく、その位置からみて坪境の畦畔と考えられる。直下が第７ａ層上面の 79 溝であり、その上層である細砂～粗砂・小礫を盛土（図７・８‐24 層）することにより造られている。上面の坪境遺構である、第４ａ層上面の１畦畔、第５‐１ａ層上面 50 溝、第５‐２ａ層上面の 52 溝と同じ位置である。

東西方向の畦畔はいずれも幅約 0.4 m、高さ約 0.1 mで、坪内を区画する畦畔と思われる。坪境西側で検出した 59 ～ 62 畦畔は、59・60 畦畔間が約 10.0 m、60・61 畦畔間が約 9.6 m、61・62 畦畔間が約 10.0 mで並行しており、いずれも東端が 58 畦畔（坪境）に接続している。同様に、坪境東側で検出した 64 ～ 67 畦畔は、64・65 畦畔間が約 10.3 m、65・66 畦畔間が約 10.2 m、66・67 畦畔間が約

10.0 mで並行しており、いずれも西端が 58 畦畔（坪境）に接続している。60 ～ 62・66 畦畔の位置は、第４ａ層上面の畦畔とほぼ一致している。

１区東端部から２区にかけては第５ｂ層が認められないが、２区北西端部にのみ、わずかに第５ｂ層がみられ、東西方向の 1001 畦畔を検出した。64 畦畔と同一のものと思われる。なお、65 ～ 67 畦畔の東側延長線上は、いずれも２区では第２ａ層段階に水田となった箇所であり、遺構面自体が遺存していない。

東西方向の 68 ～ 74 溝は、第５‐２ｂ層である青灰色シルト～極細砂で埋積されている。いずれも幅約 0.4 m、深さ約 0.1 mで並行している。68・69 溝間が約 0.5 m、69・70 溝間が約 0.7 m、70・71 溝間が約 0.7 m、71・72 溝間が約 1.1 m、72・73 溝間が約 1.1 m、73・74 溝間は側溝を挟んで約 1.4 mである。ある程度の間隔で並行しており、畝間溝であると考えられる。東西方向の 60 畦畔と 61 畦

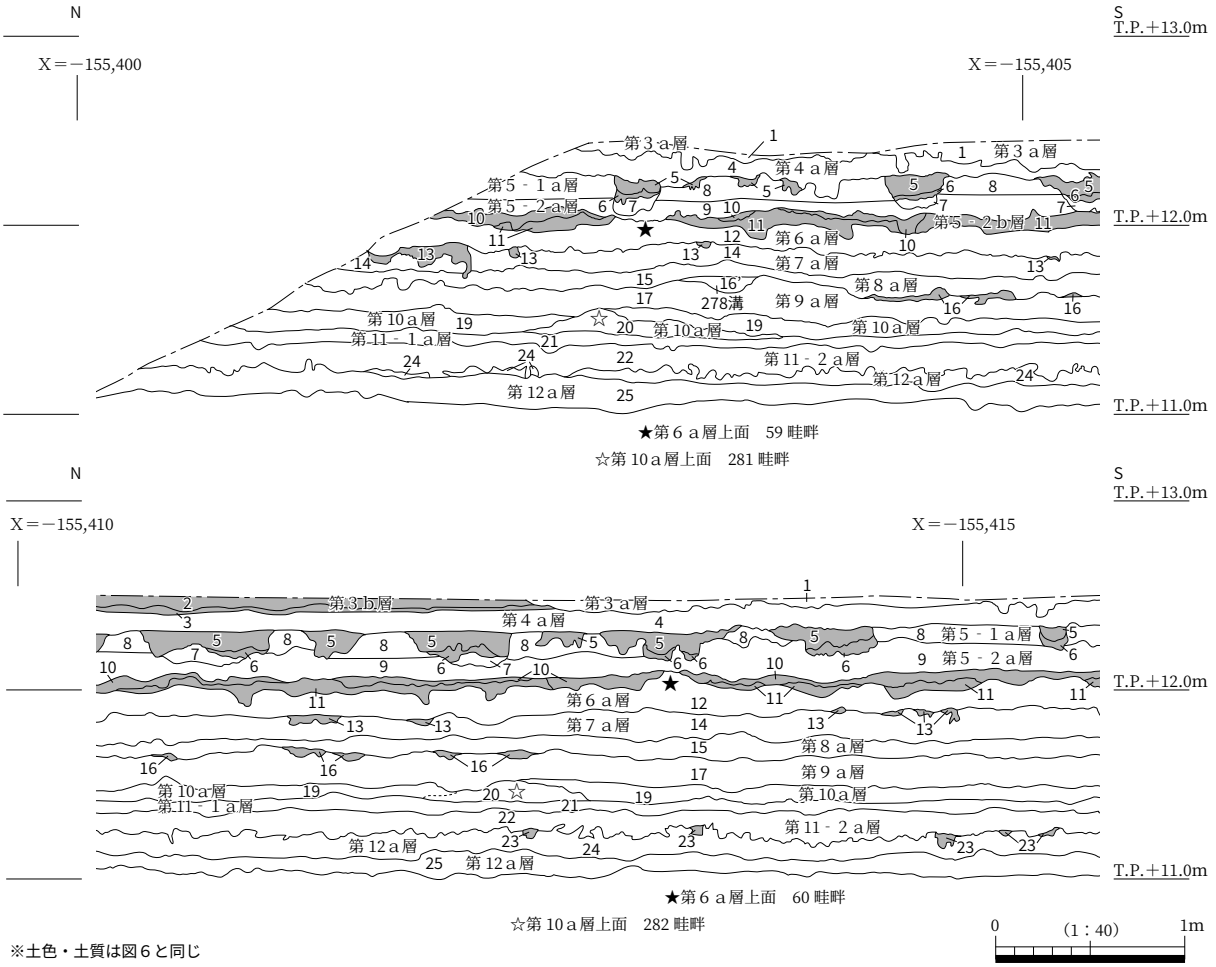


図 19　第６ａ層上面・第 10 ａ層上面　畦畔　断面図（Y= － 34,155）（図６の部分拡大）

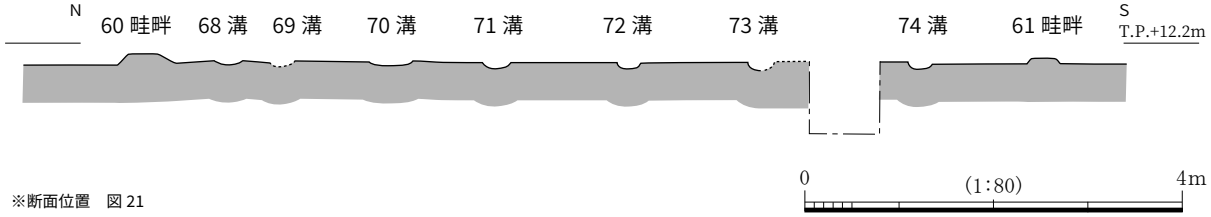


図 20　第６ａ層上面　畦畔、畝間溝群　断面図

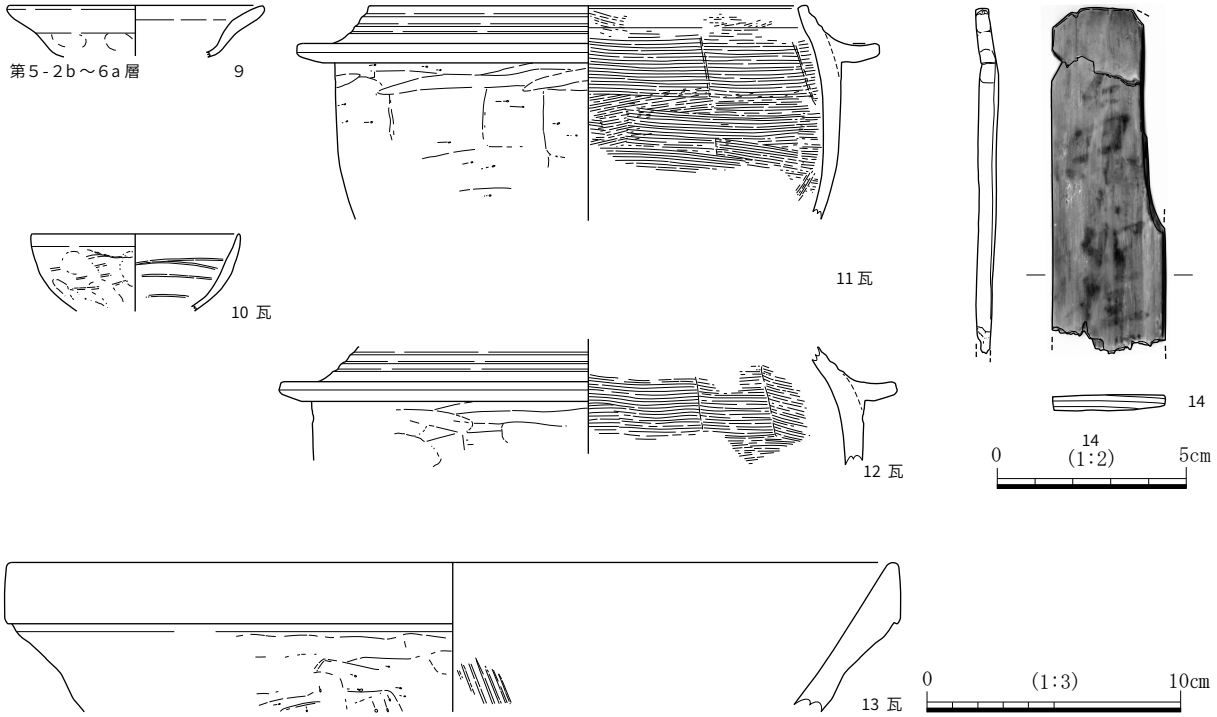


図 22　第５‐２b 層　出土遺物

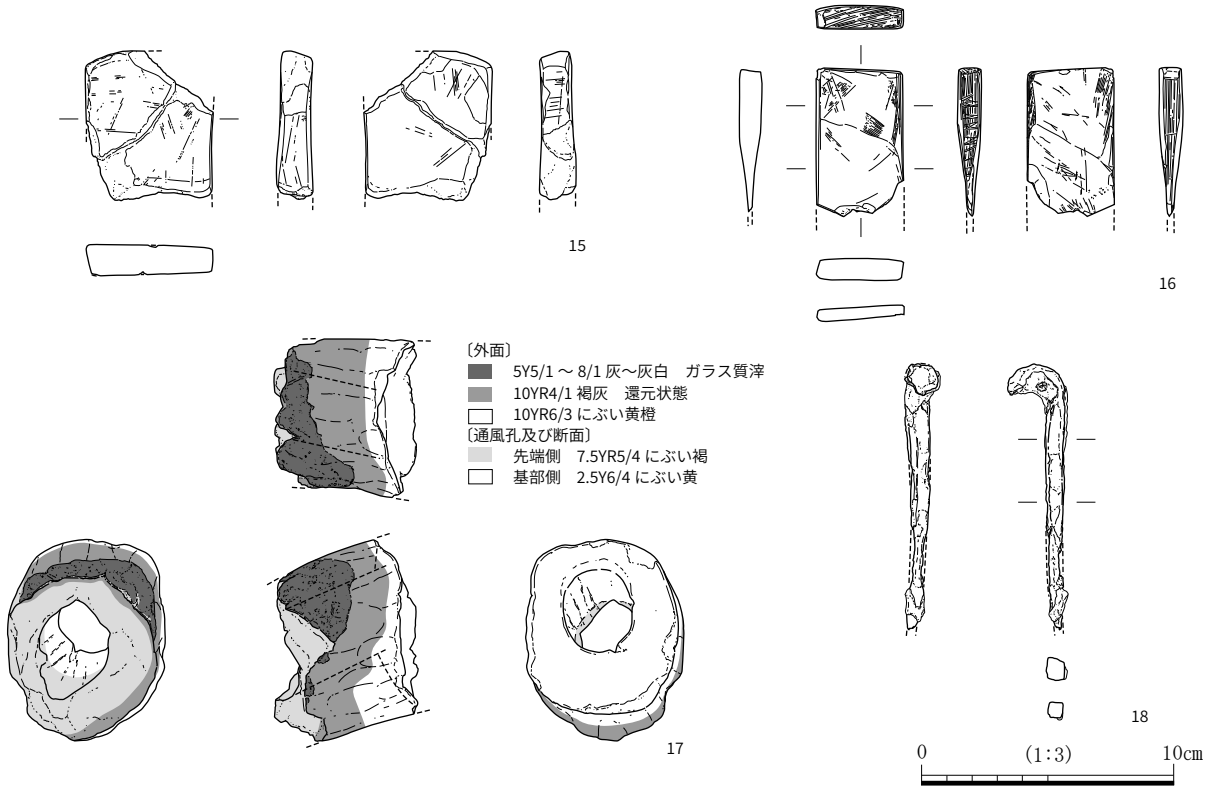


図 23　第６ａ層　出土遺物（１）

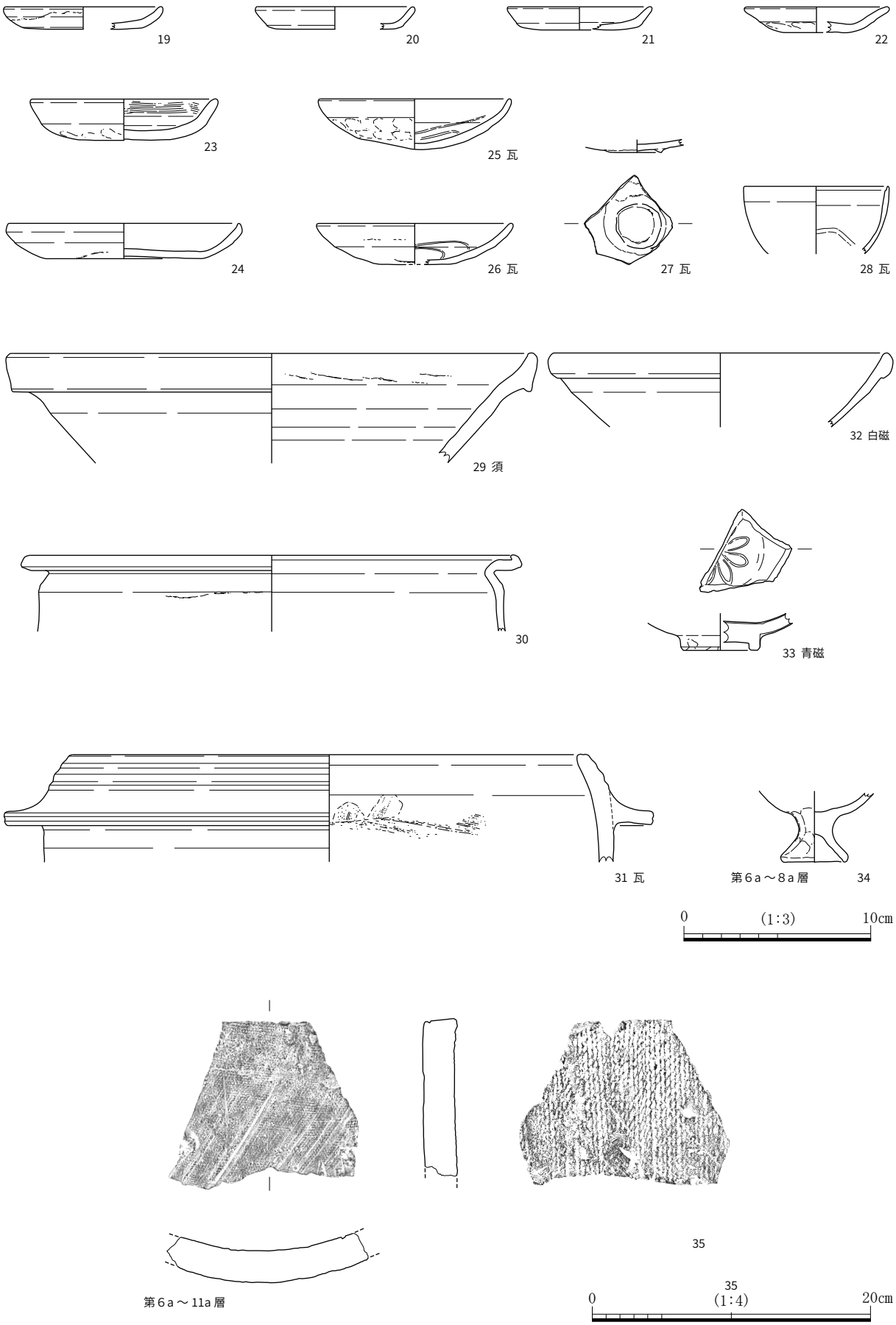


図24　第６ａ層　出土遺物（２）

畔の間におさまっており、東は58畦畔（坪境）で区画される１筆に、畝立が造られていたことがわかる。なお、平面検出時には、これらの溝以外にも同方向に筋状にのびる第５‐２ｂ層を複数確認している。ある程度幅があり、途切れず続いているもののみを溝として検出したが、それ以外の、途切れがちで幅も狭い不安定なものは、畝立上の耕作に伴い形成された凹凸の可能性がある。

第５‐２ｂ層出土遺物（図22）

第５‐２ｂ層からは、土師器皿（９）・羽釜、瓦器椀、瓦質土器擂鉢・羽釜（11・12）・甕、須恵器杯・甕、備前焼、青磁、瓦、木簡等が出土している。

瓦器椀（10）は、小片であるが口径8.2㎝に復元できる。外面に粗い指オサエ後粗いミガキを、内面に暗紋を施す。ミガキ及び暗紋は、１㎜程度で細い。大和型の最終段階のものと思われる。瓦質土器擂鉢（13）は、内面に１条７本以上の擂目を持つ。体部外面には、粗いケズリ後粗いナデを施す。

木簡（14）は、墨痕が薄いものの「急々如律〔令カ〕 」と読め、呪符である。両面ともに平滑であるが、片面には墨痕はみられない。下端は折れ、右辺上部は欠損する。上端左角を削り落とし、上部左には三角形の切り込み（右辺は欠損のため不明）がある。樹種同定の結果はスギである。

第６ａ層出土遺物（図23・24　図版30）

１区では、土師器皿・高杯・鍋（30）・羽釜、黒色土器Ａ類椀、瓦器椀、瓦質土器羽釜（31）、須恵器高杯・鉢、常滑焼、白磁碗（32）、青磁碗（33）、砥石（15・16）、鞴羽口、釘（18）、鉄滓等が出土している。

土師器皿は、口縁部が直線的に立ち上がるもの（19～21・23・24）と、外側に開き気味に立ち上がるもの（22）がみられ、上げ底のいわゆるへそ皿は認められない。13世紀後葉～14世紀のものが多い。瓦器椀は、口径の割に器高が低い器形（25・26）がみられる。径が小さく低い最終段階の高台（27）が付くか、高台を持たないものがある。外面にミガキはなく、内面のミガキは粗い。少量であるが、口径８㎝程度で器壁の薄い破片が含まれており、大和型の最終段階のものと思われる。28は、口縁端部内面に段を持ち、内面に暗紋がみられる。須恵器は、29をはじめ、13世紀後葉頃の東播系鉢がいくつか出土している。平瓦（35）は、第６ａ～11ａ層を側溝掘削した際に出土した。凹面に糸切り痕と布目、凸面に縄叩き目がみられる。

鞴羽口（17）は、断面縦長楕円形で、両端を欠損する。基部側の割れ面が比較的滑らかで、粘土接合部かと思われる。先端側外面にやや黒味を帯びた灰色のガラス質滓が薄く付着し、径１㎜以下の気孔がみられる。胎土に白色粗砂～小礫を含む。挿入角度は、25度である。

第４項　第７ａ層上面

第６ａ層を除去した、第７ａ層上面である。第６ｂ層浅黄色シルト～中砂は、１区の断面で断片的に確認できるが、面的には認められない。遺構面には第６ａ層段階の耕作に伴う攪拌が及んでおり、遺存状況は不良である。断面観察で深い遺構が遺存していることを確認した１区について、調査を実施した。

第７ａ層は、青灰色細砂混じりシルト～極細砂で、厚さ約0.1ｍである。その上面は、１区でT.P. 11.9ｍ、２区でT.P. 12.0ｍである。北側に接する（その８）調査区の第７ａ層上面に対応する。

第７ａ層上面の遺構と遺物（図８・25・26　図版８・30・31）

１区中央部で、南北方向の79溝を検出した。その位置から坪境の溝であると考えられる。幅約12.0ｍであるが、東側は浅く、西側の幅約4.5ｍ分が深い。北側に接する（その８）調査区の170溝にあたる。

西側の深い部分は、東肩の立ち上がりは比較的急であるが、西肩の立ち上がりは緩やかである。溝底

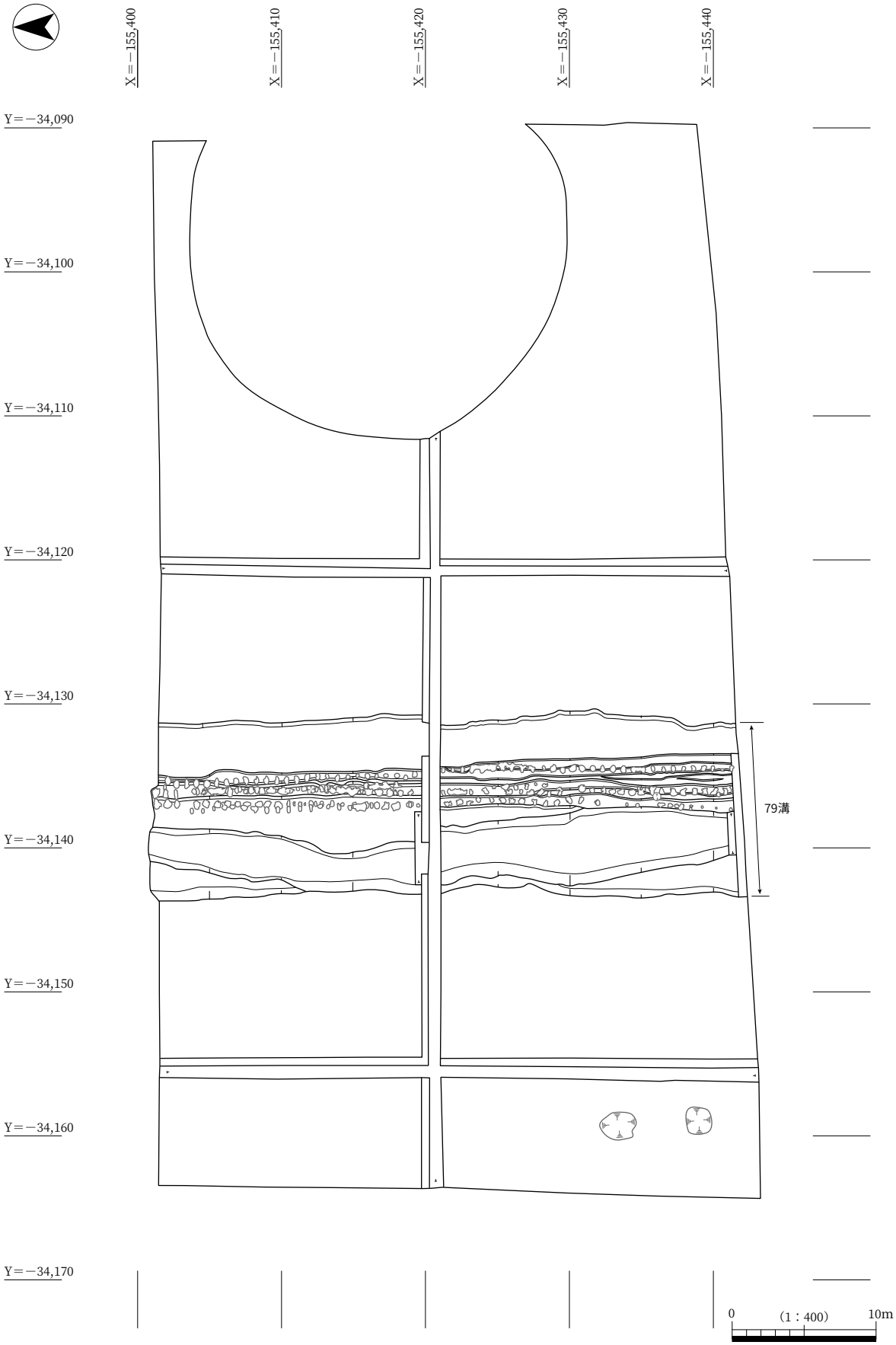


図 25　第 7 a 層上面　平面図

面も、東側ほど低くなる。東から順に、図８‐30 層（青灰色粗砂～小礫を非常に多く含むシルト）、図８‐29 層（緑灰色粗砂～小礫を多く含むシルト～中砂）、図８‐28 層（青灰色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂）で埋積されている。遺物の取り上げの際は、便宜上この３層を下層とした。

東側の浅い部分は、東端で深さ約 0.1 mであるが、西に行くほど深くなり約 0.2 mとなる。溝全体として、深さ約 0.2 mまでは、東から図８‐27 層（暗灰黄色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂）、図８‐26 層（浅黄色細砂～粗砂・小礫）、図８‐25 層（暗灰黄色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂）が堆積している。遺物の取り上げの際は、便宜上この３層を上層とした。

東側の浅い部分の 26 層は、ラミナが認められる水成堆積である。西側の深い部分の 29 層に含まれ

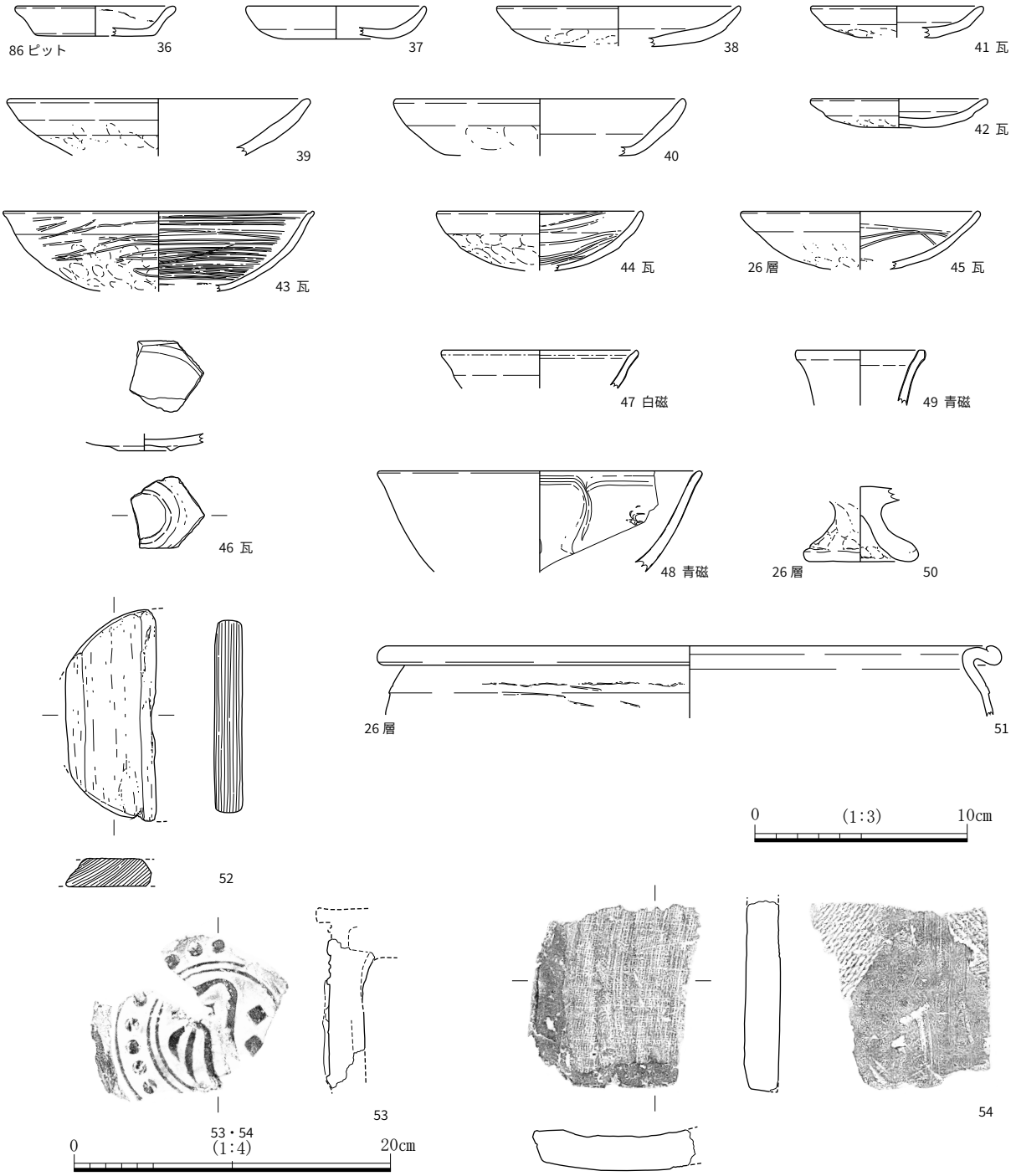


図 26　第７ａ層上面　79 溝　出土遺物

ている砂がこれによく似ており、連続する堆積である可能性がある。その直上の 25 層は、斜めに堆積する下層を水平に切っており、連続して堆積したものではない。

第６ｂ層浅黄色シルト～中砂は、断面図として作図し難いほどの薄さであるが、第６ａ層直下、第７ａ層直上に認められる。第６ａ層の母材であり、第７ａ層上面を被覆していたと思われる。坪境箇所においても同様に、第６ａ層の直下に断片的に第６ｂ層が認められた。そのことは、第７ａ層上面が第６ｂ層に被覆されるまでに、79 溝が埋まっていたことを示している。

上層からは、26 層から土師器皿・鍋（51）・脚（50）、瓦器椀（45）、瓦質土器羽釜・甕、白磁、瓦、釘等が出土している。27 層からは、土師器皿、瓦器椀、須恵器鉢、青磁碗、瓦等が出土している。上層としてまとめて取り上げたものとして、土師器皿（37・38・40）・羽釜、瓦器椀（43・44・46）・皿（41・42）、瓦質土器羽釜、須恵器鉢・甕、白磁皿、青磁碗、瓦、木製品等が出土している。瓦器椀（43）は、口縁端部内面に段を有し、内外面に細いミガキを施す。大和型である。瓦器椀（46）は、径が小さく低い高台が付き、内面の暗紋は太い。白磁皿（47）は、内外面を施釉し、口縁端部の釉を掻き取る、いわゆる「口禿皿」である。青磁碗（48）は、内面に雲紋かと思われる紋様を片彫りする。青磁片（49）は、壺等の口縁部で、口縁端面の釉を掻き取る。軒丸瓦（53）は、外区に珠紋、内区に梵字「キリーク」を配し、瓦当裏面に丸瓦を差し込んだ溝状のほり込みがある。木製品（52）は、蓋または底板等と思われる。樹種同定の結果は、ヒノキである。

下層からは、土師器皿（39）・煮炊具、瓦器椀、須恵器杯・杯蓋・壺・甕、瓦等が出土している。平瓦（54）は、凹面に模骨痕と布目が、凸面に縄叩き目がみられる。

前述した埋積層のあり方から当然ともいえるが、上層と下層の遺物に時期差は認められない。土師器皿は、口縁端部に面を持たないものが大勢を占める。瓦器椀は、高台を持つものと持たないものがみられ、内面に施されたミガキは粗い。13 世紀後葉の時期が与えられる。

79 溝東部遺構群（図８・25 ～ 29　図版７）

79 溝東部の図８‐26 層（浅黄色細砂～粗砂・小礫）の上面で、シルト～極細砂を主体とする 80 ～ 146 ピットを検出した。平面形は不定で、輪郭を明確に捉えることが難しいものもあった。南北方向に複数のピットがつながるような平面形を呈する箇所もみられる。長径 0.2 ～ 0.7 mの東西方向に長い不整な楕円形で、深さ 0.1 m以内のものが目立つ。南北方向の列状に並んでおり、東側のピット列１（80 ～ 128 ピット）と、西側のピット列２（129 ～ 146 ピット）として捉えられる。

26 層は厚さ約 0.1 mで、その直下は 27 層（暗灰黄色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂）である。上記ピット列の調査終了後に 26 層を除去したところ、27 層上面において、南北方向の溝状・段状の凹凸を検出した。図 27 の薄く網掛けした部分は、上面の幅約 0.2 mで、周囲より 0.1 m程高い。東側は、深さ約 0.1 mの溝状の窪みである。西側は、79 溝西部の深い部分に向かい、段毎に約 0.1 mずつ低くなる。図 28 では顕著な段に網掛けをしている。段と段の間は、平坦面ではなく、やや溝状に窪んでいる。その部分において、ピットを検出した。

147 ～ 251・271 ～ 276 ピットは、極細砂～中砂を埋土の主体とする。ピットの平面形は不定で、南北方向に複数のピットがつながるような平面形を呈する箇所もみられる。長径 0.3 ～ 0.6 mの不整な楕円形で、東西方向に長軸を持つものが多く、深さは 0.1 m以内である。南北方向の列状に並び、東から、ピット列３（271 ～ 276 ピット）、ピット列４（147 ～ 171・201 ～ 227 ピット）、ピット列５（172 ～ 200・228 ～ 251 ピット）として捉えられる。なお、ピット列４の北半と重複するピット列６（252 ～

270 ピット）は、ピット列４の調査後に、面的に少し下げた段階で検出した。ピット列４検出の際に見落としたものが含まれていると思われる。

以上が時系列の調査概要であるが、改めて 79 溝埋積層とピット埋土について整理する。79 溝 25 層は、暗灰黄色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂（細砂～粗砂・小礫の小ブロックを含む）、26 層は、浅黄色細砂～粗砂・小礫（シルト～極細砂を含む、ラミナあり）、27 層は、暗灰黄色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂（細砂～粗砂・小礫の小ブロックを含む）である。26 層上面で検出したピットは、暗青灰～青灰色粗砂～小礫混じりシルト～極細砂（極細砂～細砂のブロックを含む）、27 層上面で検出したピットは、灰黄色極細砂～中砂（粗砂～小礫を含む）を主体とし、暗灰黄色シルト～極細砂（粗砂～小礫を含む）が混じる。

上記の通り、ピット埋土は、その直上層と酷似している。特に 26 層にはラミナがみられるが、その直下のピットにおいてもそれが認められる。ただし、ピット部分ではラミナは著しく変形している。

（その８）調査区では、170 溝（＝ 79 溝）の埋積層には、変形構造がみられると報告されており、それは本調査区においても同様である。ただし、ピット部分においては、明らかにより顕著に認められる。さらに、断面を観察すると、ピット部分には基盤となる層も変形して入り込んでいるのが確認できる。その様は、複数の層準が上からの圧で変形する、沖積地における足跡断面にみられる変形に似ている。

ピットの平面形についても、東西方向に長軸を持つ特徴は見いだせるものの、不定形であり、輪郭が明確ではないものも多くみられた。実際には、検出したもの以外にも、輪郭を捉えきれない窪みが多数存在した。また、南北方向の溝状に、複数のピットが連結しているような平面形を呈する箇所が複数みられ、少し掘り下げると複数のピットに分離する箇所もあった。多くのピットが、段と段の間の溝状の窪みの底面に位置することも考え合わせると、ピット、段、段間の溝状の窪みは、すべて同時に形成されたものとも考えられる。そうであれば、ピットとして認識し得た箇所以外においても、79 溝の埋積層に変形が認められるという点も腑に落ちる。

一連の遺構は、坪境にあたる箇所において、調査区北端から南端まで、同様に続いている。上下の遺構面から想定される坪内の区画には規制されていないことがみてとれ、坪境に関係するものと位置付けることができる。

「波板状凹凸面」とは、各地で類例がみられる、等間隔で連続する窪み状の遺構のことである。道路状遺構に伴って検出されることが多く、道路に伴うものとして知られてはいるが、自然発生したものか人工的なものかというところから、その具体像については不明なことが多い。各地の類例を検討した、東 和幸氏によれば、窪みの芯々距離は平均 70 ㎝で、これは牛馬の歩幅に合致するという。

ピット列の芯々距離の平均は、ピット列１（検出長約 39.4 m）で 69.3 ㎝、ピット列２（南端部含まず）で 73.7 ㎝、ピット列３（検出長約 3.9 m）で 70.8 ㎝、ピット列４南半（北端部含まず）で 69.1 ㎝である。ピット列５の北半（検出長約 18.5 m）で 62.1 ㎝、同南半（検出長約 20.0 m）で 80.8 ㎝、ピット列５全体（検出長約 40.0 m）では 70.5 ㎝である。なお、この平均値は、20 分の１の平面図を用い、トレンチ箇所や距離が 2.0 m以上開く箇所等、ピットを検出し得ていない可能性のある箇所については、省いて計算している。今回の遺構群は、まさに坪境にあたる箇所で検出していることから、牛馬の歩行跡とする見解は、非常に興味深いといえる。

さて、これまで「坪境にあたる箇所」という表現をしてきたが、具体的にはどの段階のどの坪境遺構にあたるのか。当初は、2.0 ～ 2.3 mと幅の広い第６ａ層上面の 58 畦畔（坪境）段階のものと考えた。

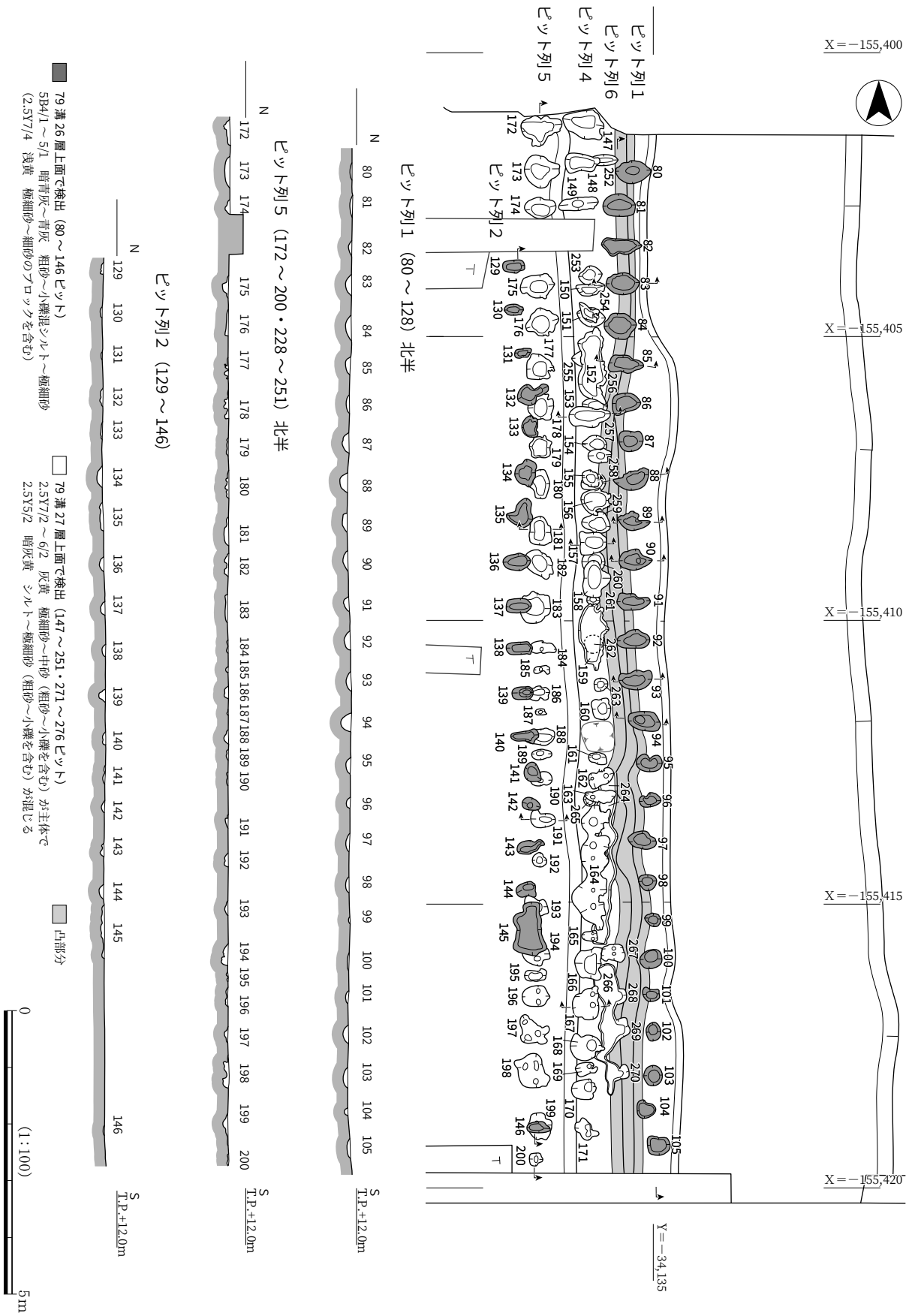


図27　第7ａ層上面　79溝東部遺構群　平面・断面図（北半）

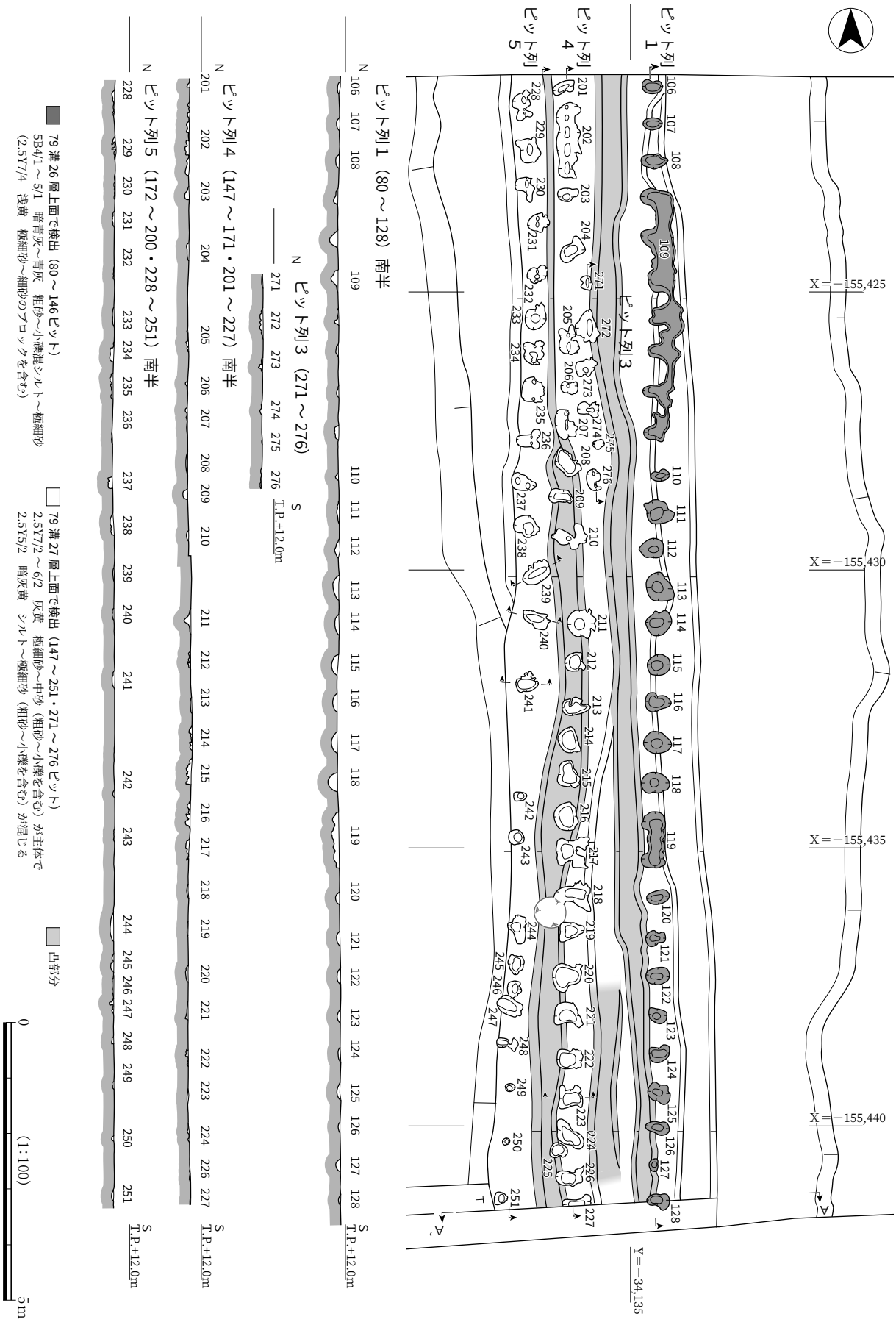
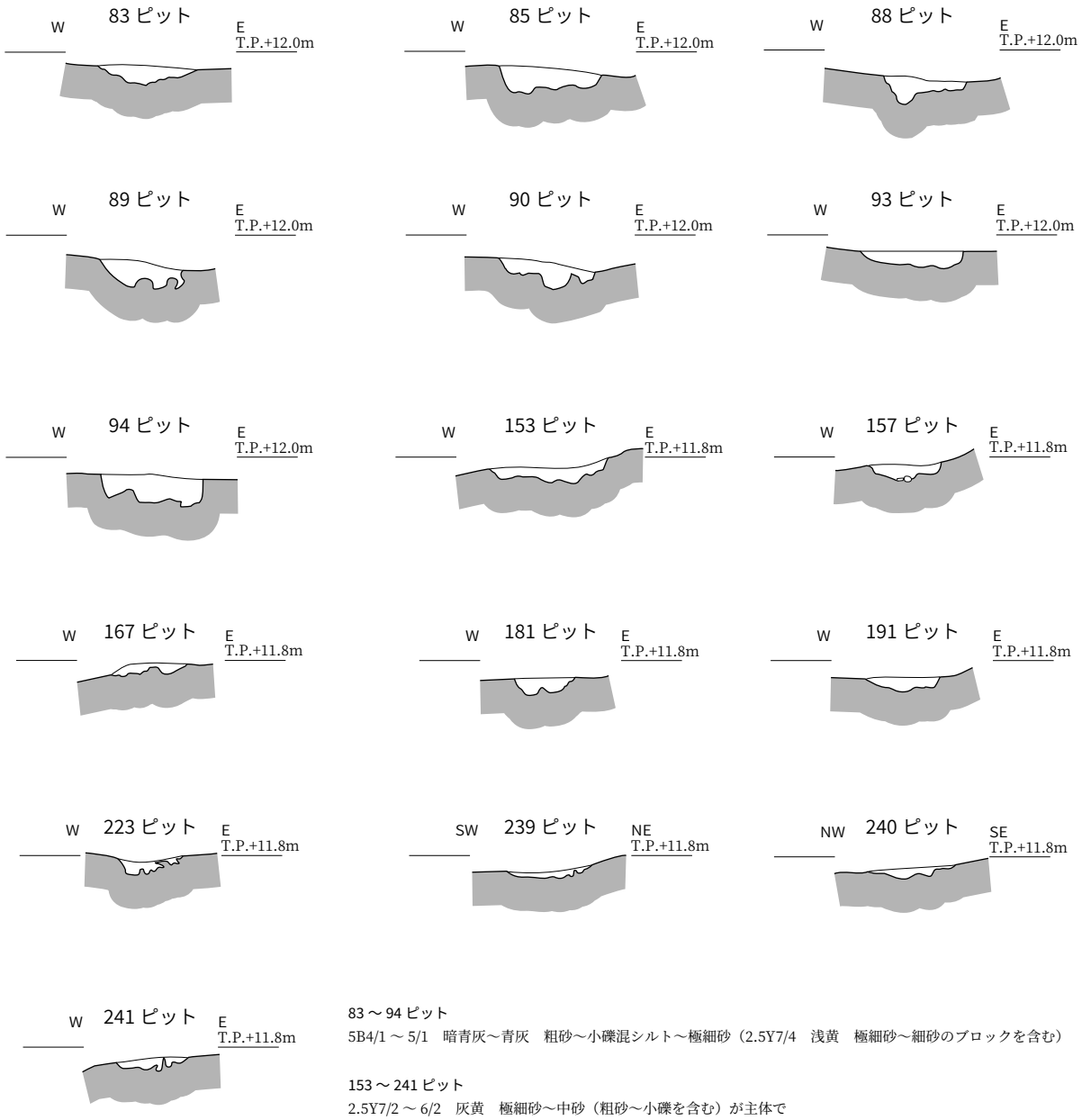
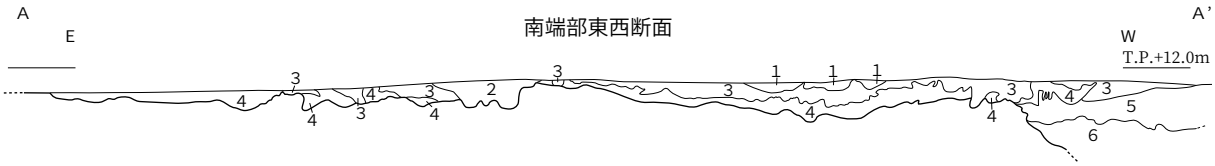


図 28　第 7 a 層上面　79 溝東部遺構群　平面・断面図（南半）



83 ～ 94 ピット
5B4/1 ～ 5/1　暗青灰～青灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂（2.5Y7/4　浅黄　極細砂～細砂のブロックを含む）

153 ～ 241 ピット
2.5Y7/2 ～ 6/2　灰黄　極細砂～中砂（粗砂～小礫を含む）が主体で
2.5Y5/2　暗灰黄　シルト～極細砂（粗砂～小礫を含む）が混じる



1　5Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～極細砂　（2.5Y7/3　浅黄　細砂～中砂のブロックを含む）〈ピット状〉
2　2.5Y7/4　浅黄　細砂～粗砂・小礫と 5Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～細砂が混じる〈溝状〉
3　2.5Y7/3　浅黄　細砂～中砂（粗砂～小礫を含む　シルト～極細砂の薄層を含む）〈図８‐26 層〉
4　10Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～細砂〈図８‐27 層〉
5　7.5Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～細砂　（2.5Y7/4　浅黄　細砂～粗砂・小礫の薄層を含む）
6　10Y5/1　灰　粗砂～小礫混シルト～細砂

※断面位置　図 28

0　(1:40)　2m

図 29　第７ａ層上面　79 溝東部遺構群　断面図

位置を重ね合わせると、79 溝東部遺構群の方が西寄りであり、東部は 58 畦畔（坪境）と重なるが、西部は第６ａ層上面の坪内を限る東西畦畔の東端部と重複する。また、断面を観察しても、第６ａ層の下面は比較的水平であり、顕著な変形は認められない。これらのことから、第６ａ層段階に形成されたものではないと判断できる。

前述した通り、79 溝埋積層は、第７ａ層上面段階のある時期に堆積し、溝を埋没させている。その後形成された 79 溝東部遺構群は、溝西部（深い部分）の東肩以東の幅 3.0 ～ 4.0 mに分布する。その東端部は、第６ａ層上面 58 畦畔（坪境）、第４ａ層上面１畦畔（坪境）の位置にあたる。

後述するが、第 12 ａ層段階から少なくとも第９ａ層段階まで踏襲されてきた坪境畦畔は、第６ａ層段階以上の畦畔より西に位置している。そして、79 溝西部（深い部分）は、下層で踏襲されてきた坪境畦畔の西側に掘削されているのである。このことは、第７ａ層段階の少なくとも 79 溝掘削時におい

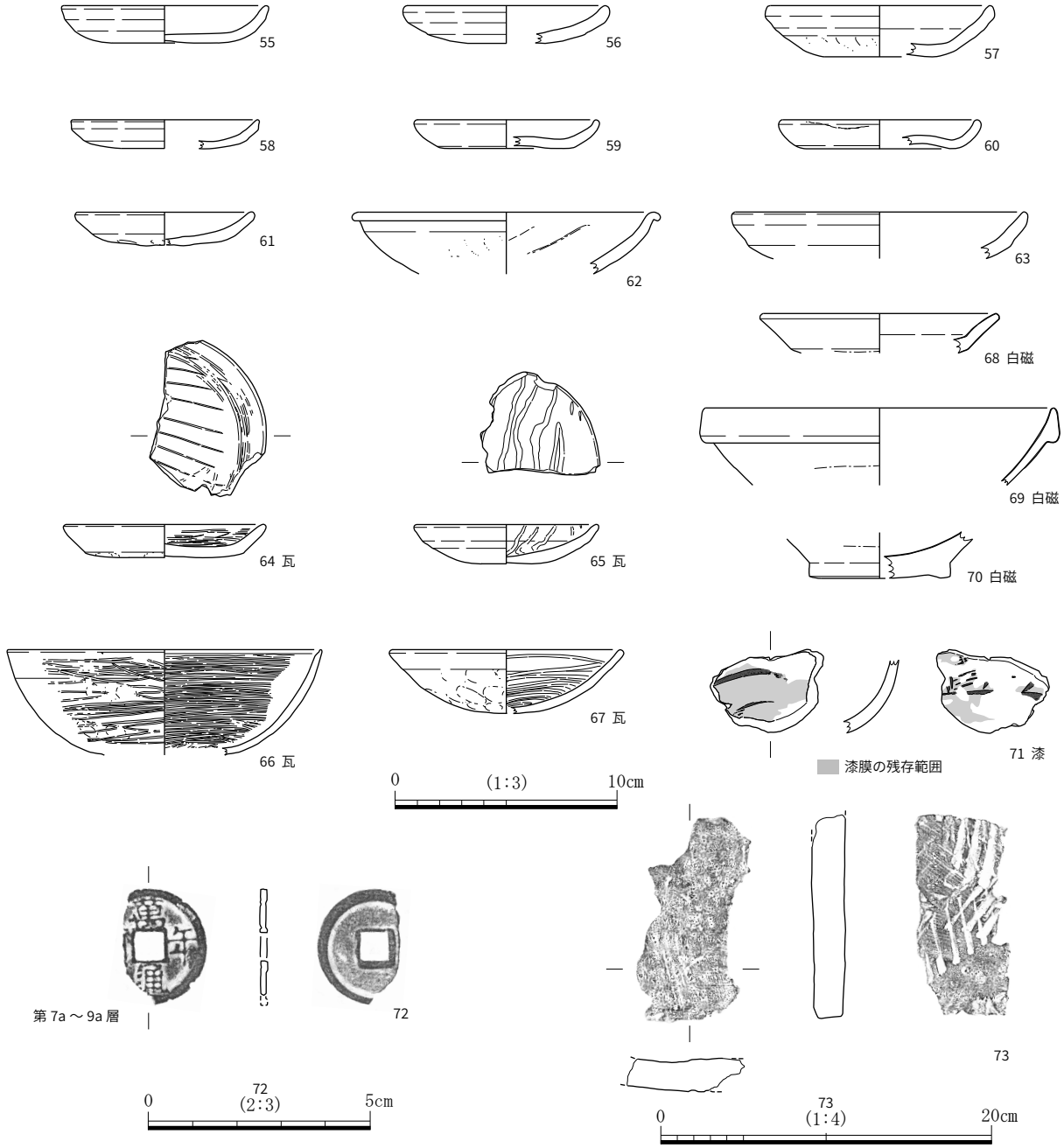


図 30　第７ａ～８ａ層　出土遺物

ては、79 溝西部（深い部分）の東側部分が、坪境として意識されていたことを示している。

79 溝が埋没した後の地表面は、断片的に第６ｂ層が認められるものの、直上に第６ａ層が接していることからほぼ遺存していない。図８‐24 層は、79 溝埋積層に由来すると考えられる、第６ａ層上面 58 畦畔(坪境)の盛土である。特に坪境箇所は、第６ａ層段階の造作により削平を受けていると思われる。しかし、少なくとも 79 溝東部遺構群の形成された範囲が、79 溝が埋没した後、第６ｂ層が堆積するまでの間、坪内のどの区画にも属さない範囲＝坪境として機能していたことは確かであろう。

第７ａ～８ａ層出土遺物（図 30　図版 31）

第７ａ～８ａ層は、まとめて掘削を行なった。土師器皿・高杯・羽釜、瓦器椀（66・67）・皿（64・65）、瓦質土器羽釜、須恵器鉢・甕、常滑焼、白磁碗（69・70）・皿（68）、青磁、瓦、漆器椀等が出土している。土師器皿（55 ～ 63）は、口縁端部に面を持つもの、持たないものがみられ、面を持つものをあまり含まない 79 溝よりもやや古い様相が認められる。瓦器椀は、内面にのみ粗いミガキを施すものが多い。大和型とみられる外面にもミガキを施すものは、79 溝ではあまりみられないものである。66 は、口縁端部内面に段を有し、内外面に細いミガキを施す。瓦質土器片は少なく、脚付羽釜片以外はみあたらない。平瓦（73）は、凹面に布目、凸面に綾杉叩き目がみられる。漆器椀（71）は、漆膜の脱落が著しいが、内外面とも黒色で赤色紋様を持つ。樹種同定の結果は、ケヤキである。銭貨（72）は、トレンチの断面成形の際に第７ａ～９ａ層から出土した、萬年通寶である。全体として 79 溝と同時期からやや古いものがみられ、12 世紀後葉～ 13 世紀中葉を中心とする時期のものである。

第５項　第９ａ層上面

第８ａ層を除去した、第９ａ層上面である。第８ｂ層浅黄色シルト～極細砂は、１区北西部の断面で断片的に確認できるが、面的には認められない。遺構面には第８ａ層段階の耕作に伴う攪拌が及んでおり、遺存状況は不良である。なお、第８ａ層上面は、断面観察により第７ａ層段階の耕作に伴う攪拌を受けて遺存状況が極めて不良と判断できたため、調査を実施していない。

第８ａ層は暗緑灰色極細砂混じりシルト、第９ａ層は暗オリーブ灰色粗砂混じりシルトである。第９ａ層の母材となる第９ｂ層は、淡黄色シルト～極細砂である。第９ａ層の厚さは 0.1 ～ 0.2 mで、その上面は１区で T.P. 11.6 ～ 11.7 m、２区で T.P. 11.8 ～ 11.9 mである。北側に接する（その８）調査区の第９ａ層上面に対応する。

第９ａ層上面の遺構と遺物（図 31・32）

１区で、東西方向の溝３条を検出した。278 溝は北西部、279・280 溝は南東部に位置する。

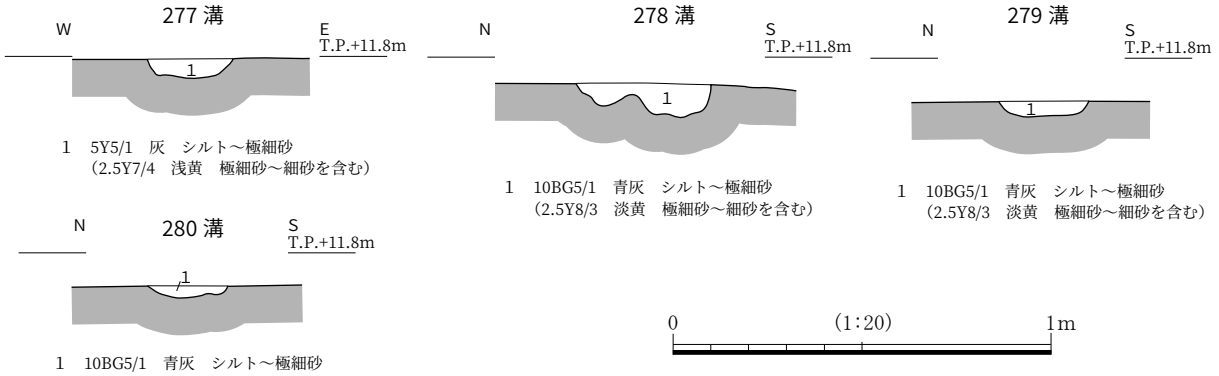


図 31　第９ａ層上面　溝　断面図

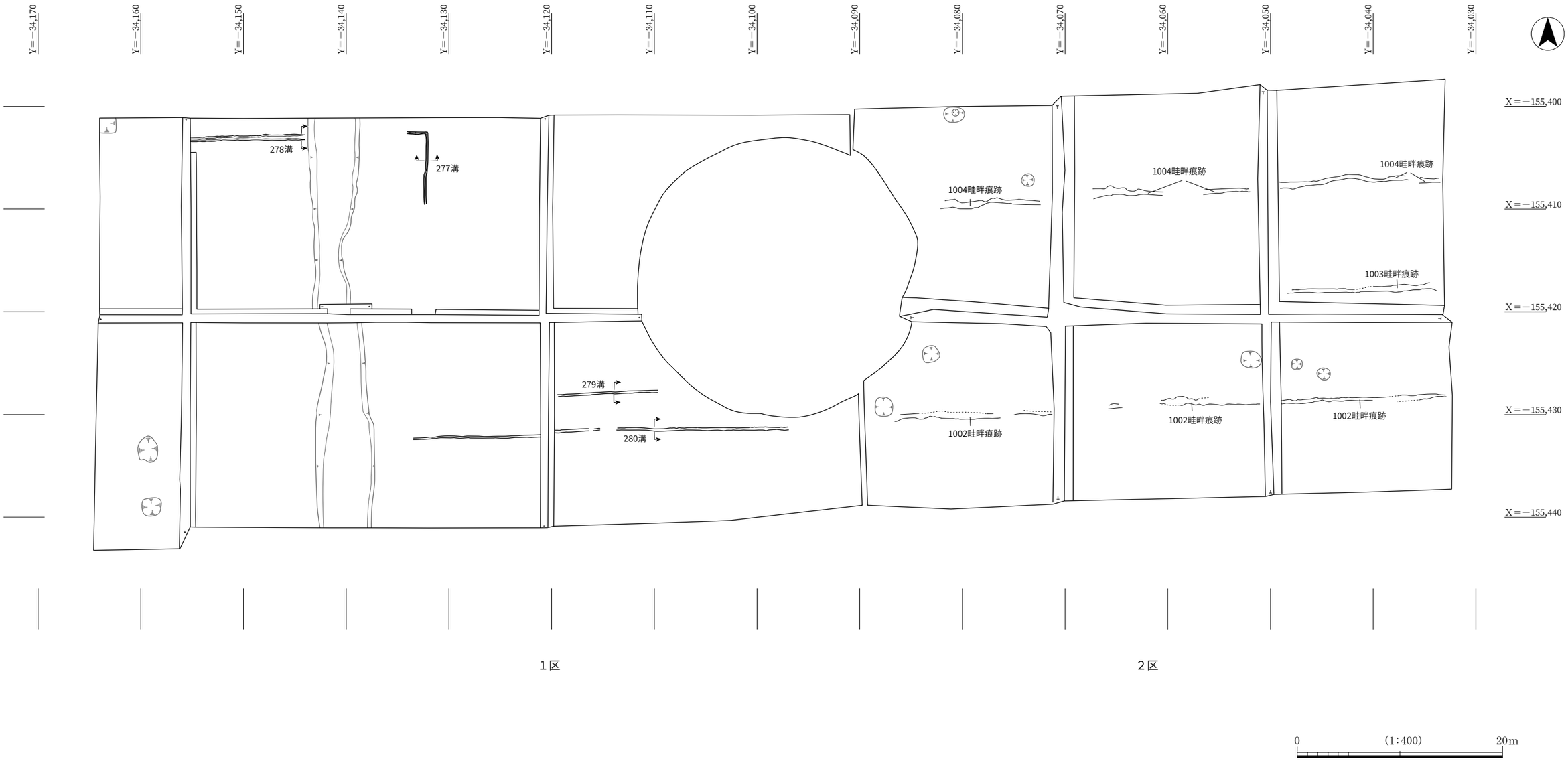


図 32　第９ａ層上面　平面図

278・280 溝は、幅がそれぞれ約 0.4 mと約 0.2 mで、深さはどちらも 0.1 m未満である。埋土は、青灰色シルト～極細砂である。２条ともに、上位及び下位の遺構面の同方向の畦畔と、ほぼ同じ位置にある。278 溝から、土師器皿、瓦器椀が出土している。

279 溝は、280 溝の北約 3.5 mで並行する。幅約 0.2 m、深さ 0.1 m未満で、埋土はシルト～極細砂である。

なお、277 溝は、第７ａ層上面の 79 溝（坪境）埋積層を除去後、溝底面で検出した。幅約 0.2 m、深さ約 0.1 mである。埋土は、灰色シルト～極細砂である。溝底面は第８ａ～９ａ層であるため、その段階のものの可能性がある。上記 278 溝の東側延長上に位置し、埋土も似ている。溝底面等の標高が 278 溝よりもやや高く、同遺構面のものと断定はできないが、ここで報告しておく。

２区では、東西方向の帯状に、第９ａ層よりも砂質の強い部分がみられた。いずれも１区において、上位及び下位の遺構面で検出した東西畦畔を、東に延長した箇所にあたる。断面観察を行なったが判然とせず、これより下層の調査にあたっては、土層観察用のセクションを複数箇所で残すこととした。

詳細は後述するが、２区南西部のほぼ同じ箇所において、第 10 ａ層上面でも帯状に土質の違いがみられた。残しておいたセクションに沿ってトレンチを掘った上、断面観察をした結果、第 10 ａ層上面段階の畦畔に伴う可能性のある擬似畦畔であることが判明した。第９ａ層上面で土質の違いを確認していた箇所は、この擬似畦畔とほぼ同じ位置ではあるが、この断面箇所においては北側に 20 ㎝ほどずれていることが確認できた。このことから、第９ａ層上面の土質の違いは、第 10 ａ層の畦畔に伴うものではないと思われる。第９ａ層上面畦畔の基底部と第９ａ層の土質の違い、あるいは第８ａ層段階の畦畔に伴う擬似畦畔の可能性が考えられる。帰属面は明らかにし得ないが、これらの土質の違う箇所を、第８ａ～９ａ層上面の「畦畔痕跡」としておく。

第９ａ層出土遺物（図 33　図版 31）

１区では、土師器皿・羽釜、瓦器椀、黒色土器Ａ類椀、須恵器甕、白磁碗、瓦、砥石（98）、下駄等が出土している。

土師器皿（74・77 ～ 79・83 ～ 86）は、口縁部を２段ナデし、端部はややつまみあげたようになるものがみられる。瓦器椀（88・90 ～ 93）については、内面にはミガキがみられるが、外面には上部を中心に粗いミガキがあるものと、全くないものがある。図化し得ない破片に、口縁端部内面に段を持つ大和型がみられる。煮炊具は、瓦質土器はなく、土師器である。平瓦（95）は、凹面に布目、凸面には縄叩き目と離れ砂がみられる。平瓦（96）は、側溝掘削の際に第９ａ～ 13 ａ層から出土した。凹面に布目と模骨痕がみられる。下駄（97）は、小口がすり減っており、長さ 21.6 ㎝で、幅は 11.4 ㎝である。前緒穴は３箇所あり、うち２箇所は破損している。破損箇所が平滑であり、使用中に破損し、新たな穴を開けて継続使用したと思われる。表面に足の圧痕がみられ、特に前緒穴位置より前方が深い。裏面には制作時のものと思われる刃痕が複数残る。後歯の方が摩耗著しい。スギの板目材を使用している。出土遺物全体として、中葉まで下る可能性もあるものの、12 世紀の前葉を中心とする時期のものである。

２区では、土師器皿（75・76・80 ～ 82・87）・羽釜、瓦器椀（89・94）、瓦質土器羽釜・火鉢、須恵器杯・鉢、白磁皿、弥生土器、釘等が出土している。

２区出土遺物は、１区と同時期のものに加え、やや新しいものが含まれている。２区は１区に比べて、層理面に著しい凹凸がみられた。１区よりも出土遺物の時期幅が広いのは、層理面を厳密に掘り分けることが困難であったことに起因していると思われる。

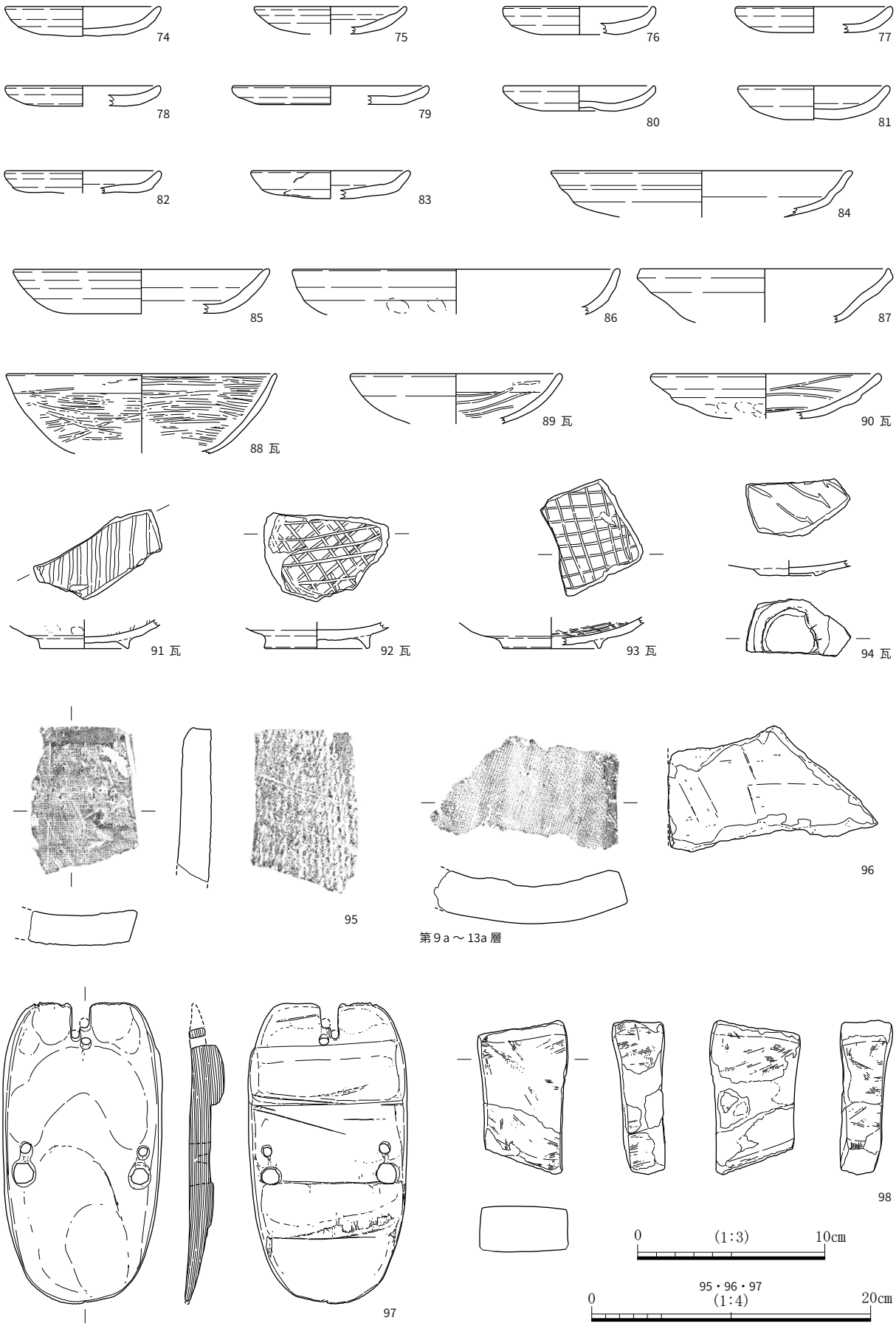


図 33　第９ａ層　出土遺物

第６項　第 10 ａ層上面（第９ａ層下面）

第９ａ層を除去した、第 10 ａ層上面である。第９ｂ層は、１区の一部で断面観察により断片的に確認できるほかは、２区で耕作痕及び足跡としてみられ、面的には認められない。遺構面には第９ａ層段階の耕作に伴う攪拌が及んでおり、遺存状況は良好とはいえない。

第 10 ａ層は、黄灰色シルト～細砂で、１区では粗砂～小礫を多く含む。母材となる第 10 ｂ層は、淡黄色細砂～粗砂・小礫、または極細砂～細砂である。

第 10 ａ層の厚さは、0.1 m以下であるが、１区南西部では約 0.2 mである。その上面は、１区で T.P. 11.5 ～ 11.6 m、２区で T.P. 11.7 ～ 11.8 mである。北側に接する（その８）調査区の第 10 - １ａ層上面に対応する。

第９ａ層下面の遺構と遺物（図 34・35）

２区東部で、東西方向の 1005 溝を検出した。幅約 0.2 m、深さ約 0.1 mである。埋土は、第９ａ層シルトと、第９ｂ層とみられる灰黄色極細砂～細砂がやや攪拌された状態で混合している。内外面にミガキを施す瓦器椀片が出土している。

第 10 ａ層上面の遺構（図８・19・34・35　図版９・10）

１区中央部の坪境にあたる箇所は、上面の溝が攪乱として残っているが、中央部の東肩に接する箇所で、南北方向の帯状に第 11 - １ａ層が露出した。断面（図８）を確認すると、直上に第 10 ａ層が薄く遺存している。上位の溝の攪乱箇所にあたっていることもあり、やや掘りすぎたと思われる。この部分の第 10 ａ層と、周囲の第 10 ａ層の比高は約 0.1 mである。この箇所は、下位の遺構面の坪境畦畔にあたっており､第 10 ａ層段階にもここに坪境畦畔があったと考えられる。445 畦畔（坪境）としておく。

坪境の西側と東側で、東西方向の畦畔５条を検出した。

前述した通り、第 10 ａ層上面は第９ｂ層に被覆されておらず、直上は第９ａ層作土層である。遺構面はその段階の耕作に伴う攪拌を受けている。第 10 ａ層上面で検出した畦畔は、畦畔部分の土質が周囲の作土層と異なっていたことから、平面・断面において畦畔を確認、認識し得た。畦畔部分は、第 10 ａ層作土層を主とするが、シルト・細砂～中砂等の小ブロックを含んでいる。断面図（図 19）の通り、第 10 ａ層作土層（19 層）と畦畔部分（20 層）の土質が異なり、その直下には第 11 - １ａ層が水平に通っている。畦畔の頂部は第９ａ層により削平を受け、基部のみが残存したと思われる。畦畔の幅が、いずれも 0.5 ～ 0.6 mと比較的広く、高さは数㎝と低いのはそのためである。

坪境箇所の西側で検出した 281 ～ 284 畦畔については、北から順に 281・282 畦畔間が約 10.1 m、282・283 畦畔間が約 10.2 m、283・284 畦畔間が約 9.5 mである。いずれも第６ａ層上面の畦畔とほぼ同じか近い位置にある。坪境の東側では、西側の 282 畦畔の延長上に、285 畦畔を検出した。坪境以

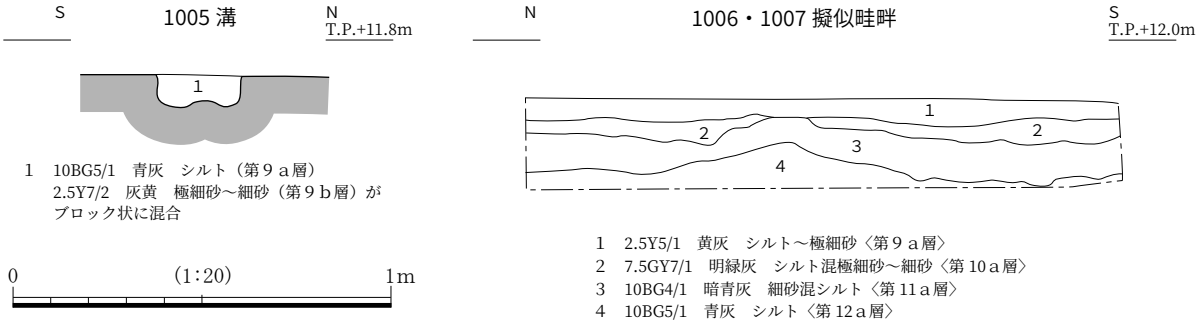


図 34　第９ａ層下面　溝、第 10 ａ層上面・第 11 ａ層上面　擬似畦畔　断面図

東では、これ以外に畦畔を検出しなかったが、畦畔の遺存状況を考慮すると、複数の東西畦畔で区画されていた可能性が高い。なお、283・284 畦畔は、281・282・285 畦畔のように、断面において第 10 ａ層段階の畦畔である証拠を得られていない。第９ａ層段階の畦畔に伴う擬似畦畔である可能性も残す。

なお、第 11 - １ａ層上面で検出した 288・289 擬似畦畔は、本遺構面に畦畔があったことを示している可能性がある。これらは、坪境以西で検出した東西方向畦畔の延長線上ではなく、それらの中間の位置にあたっている。

２区では、南西部で東西方向の 1006 擬似畦畔を検出した。東西方向の帯状に、周囲よりもシルト質の強い部分がみられた。１区において検出した、上位及び下位の遺構面の東西畦畔を、東側に延長した箇所にあたり、第９ａ層上面で「畦畔痕跡」を検出した箇所にあたる。断面観察の結果、第 10 ａ層（図 34 - ２層）上面において、第 11 ａ層（図 34 - ３層）が帯状に露出していることが判明した。これは、第 10 ａ層段階の耕作に伴う攪拌が、当該部分には周囲と同じ深さまで及ばなかった結果と考えられ、ここに第 10 ａ層段階の畦畔があったことを示している可能性がある。

なお、２区の西部はシルト質が強いが、南東部では第 10 ａ層が暗オリーブ灰色粗砂混じりシルト～極細砂で、砂質が強くなる。上面には、東西方向の足跡や、鋤かと思われる平面長方形の耕作痕跡が多数みられた。第９ｂ層とみられる灰白色粗砂混じり細砂～中砂で、ラミナが変形しており、堆積後に上から圧がかかったことが窺われる。その周囲には、第９ａ層と思われるシルトが一連のものとして落ち込んでいる範囲が面的に拡がっており、第９ａ層以上からの耕作に伴うものと考えられる。層厚等を考慮すると、第９ａ層段階のものとするのが妥当であろう。

特に、第９ａ層上面で認められた「畦畔痕跡」とほぼ同じ位置では、足跡や耕作痕跡がみられない部分と顕著な部分が、東西方向の帯状にみられた。耕作痕跡が直線上に並んだり、溝状になっている箇所もある。これらのことは、第９ａ層上面に畦畔が存在した可能性を補強している。

第 10 ａ層出土遺物（図 36　図版 32）

１区では、土師器皿・羽釜、回転台土師器、黒色土器Ａ類椀、黒色土器Ｂ類椀、瓦器椀、須恵器甕、白磁碗（112・113）、瓦、砥石（118・119）、木製品等が出土している。土師器皿（99・100・102 ～ 105）には、口縁部を２段に横ナデし、端部が外反するものがみられるほか、小皿には最終段階の「て」字状口縁皿が目立つ。細片で図化できなかったが、コースター型のものもみられる。回転台土師器（106）は、底部外面に糸切り離し痕がみられる。黒色土器Ａ類椀（107）は、器壁が厚く、外面は摩耗して不明であるが内面にミガキを施す。瓦器椀（109）は、側溝掘削の際に第 10 ａ～ 13 - ２ａ層から出土した。内外面ともにミガキを密に施す。内面は、体部に圏線、体部下半から見込みにジグザグ状、口縁から体部上部に圏線の順に施す。外面は、分割ミガキ後、口縁から体部上部にかけて施している。瓦器椀（110）は、口縁端部内面にわずかに段を有し、内外面ともに細いミガキを密に施す。体部外面は分割ミガキである。大和型と思われる。木製品（117）は、板状で両面が平滑であり、片面に刃痕がみられる。折敷等の可能性が考えられる。板目材を使用しており、樹種同定の結果は、アスナロ属である。12 世紀まで下るものも少量みられるが、概ね 11 世紀後葉のものである。

２区では、土師器皿（101）・脚（115）・煮炊具、黒色土器Ａ類椀、瓦器椀（108・111）、須恵器鉢（114）・甕、白磁、土製品等が出土している。瓦器椀（111）は、内外面に比較的太いミガキを施す。見込みには平行線状かと思われる暗紋がみられる。ほかに、図化し得ていないが、口縁端部内面に段を持つ大和型が含まれる。土製品珠（116）は、手づくねされたもので、上下両面がやや窪み気味に平坦であり、側面

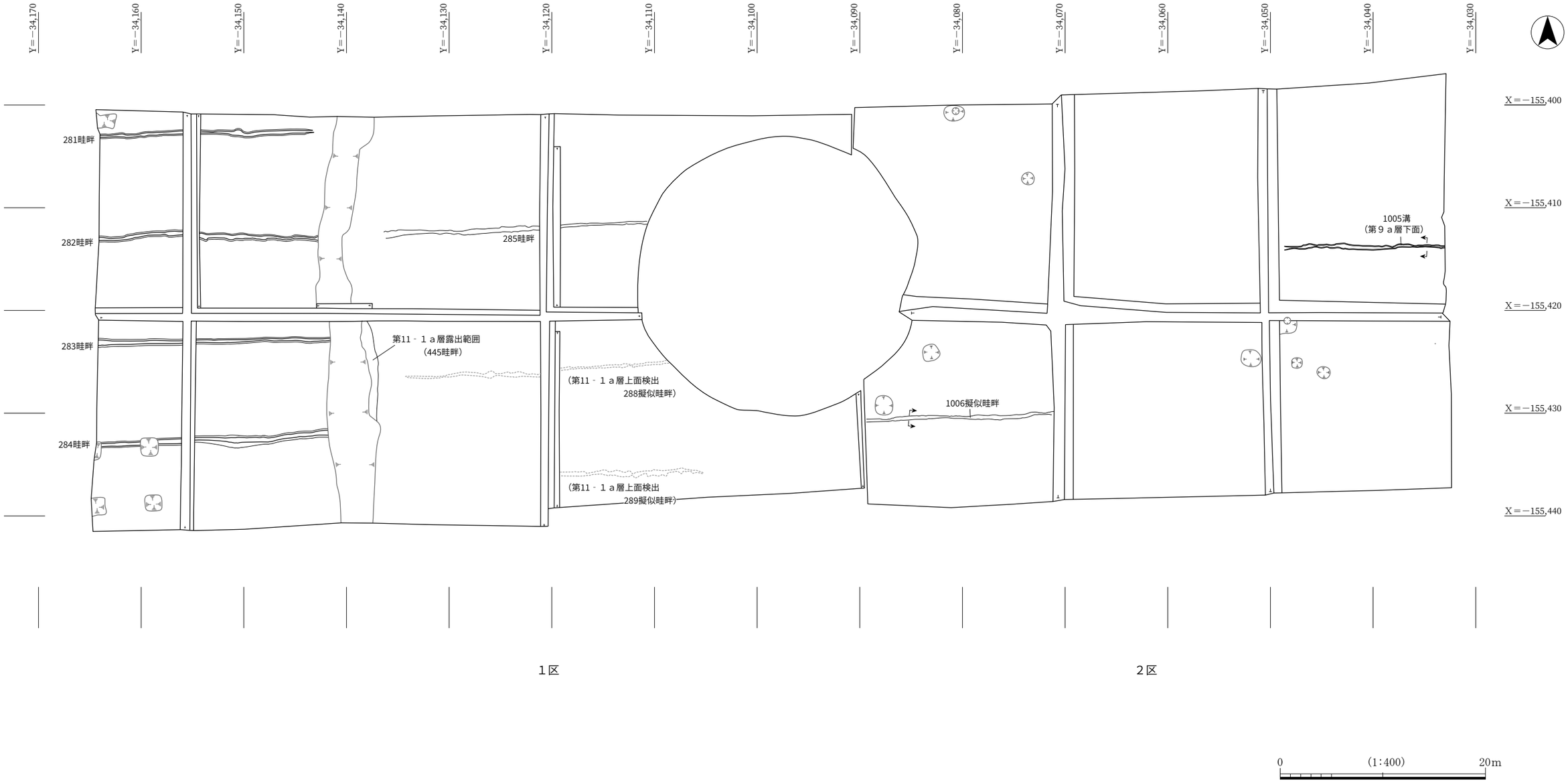


図 35　第 10 ａ層上面　平面図

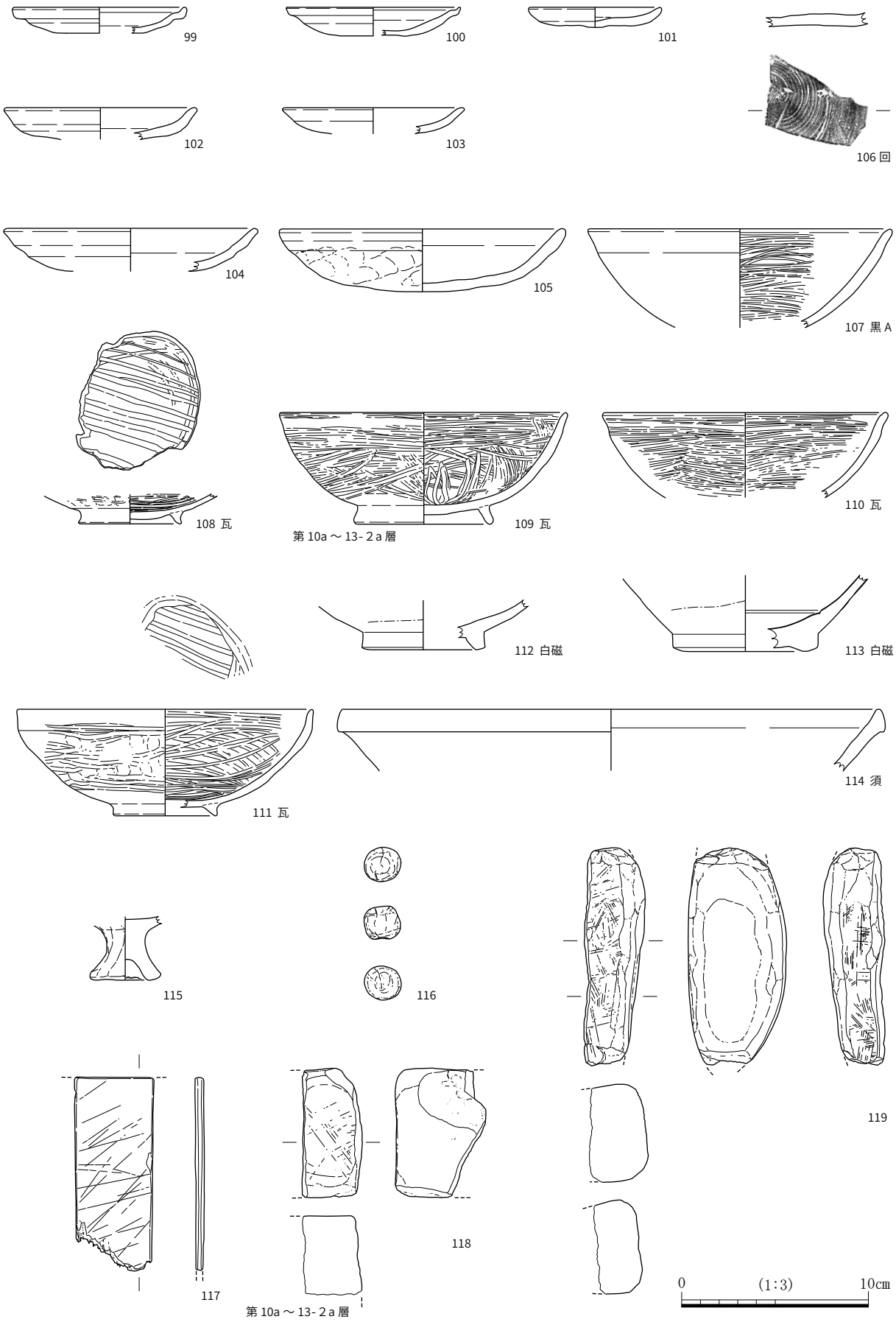


図 36　第 10 a 層　出土遺物